

【紡いだ記憶に浮かぶ千年の月】

登場人物

華紅弥(かぐや)

神威(かむい)

修羅(しゅら)

那由他(なゆた)

竜斬丸(りゅうざんまる)

琴音(ことね)

玲亜(れいあ)

悠奈(ゆうな)

不知火(しらぬい)

希来李(きくり)

社(やしろ)

凧(なぎ)

輪廻(りんね)

斑鳩(いかるが)

羅刹(らせつ)

緋巫佳(ひみか)

銀狼丸(ぎんろうまる)

胡桃(くるみ)

可南汰(かなた)

水境(すいきょう)

弥勒(みろく)

朧(おぼろ)

霞(かすみ)

影星の民(えいしゅうのたみ)

幕前センターに華紅弥が一人、立っている。明かり。

華紅弥

それは遠い遠い昔の記憶。誰かが私にこう言った。「奇跡は起こらないからこそ、奇跡なんだ。」と。「奇跡は人間が見る儂い夢であり、夢は決して現実にはならない」と。だが私は思う。この世の時間が無限ならば、そして、魂が永遠に不滅なものであるなら、実現しないものなんてないのではないか。苦しくとも抗い、どんな困難にも立ち向かい、諦めずに前進していきさえすれば、奇跡は必ず起こせる。そう、奇跡は自らの意志と信念で起こすもの。それを教えてくれたのは……。これは過去の物語。そして、意志と信念の物語。

幕が上がる。輪廻と臍、緋巫佳以外の全員が舞台上にいる。ただし、基本的に自国のエリア内にいること。月華であれば華紅弥の周りに、影星であれば神威の周りにいること。全員、楽しそうに笑って盛り上がっている。

華紅弥、後方に移動する。弥勒、センターに出て来てMCを始める。

弥勒

さあ、盛り上がっている今回の交友会も残すところ、「お笑い対決」と「剣術対決」のみとなりました……ここで現在の点数を確認しましょう……!

社

月華、三十五点。陽炎、五十点。影星、三十点です。

弥勒 今回は接戦となつております……3位の影星も残り2つを取れば陽炎との同点優勝。

月華は連続ポイントで逆転の可能性が……

霞 ドキドキしますね。

弥勒 はたして今回の交友会を制するのはどこの国なのか……それでは続いての対決いって
みましよう……

華紅弥 待て。

弥勒 え、はい？

華紅弥 残り2つの対決なのに、まだ輪廻は来ないのか？

修羅 申し訳ありません。もう少しで来ると思うのですが。

華紅弥 全く、アイツは毎回毎回遅刻して。交友会を何だと思っているんだ。

修羅 本当に申し訳ありません。

神威 いつももの事じゃないの。(修羅に) アンタも気にしなくていいのよ？

修羅 すみません。

神威 あの人がいなきゃ進まないわけじゃないんだからいーじゃない。

華紅弥 それはそうだが、私は大君としての立場をだな。

神威 はいはい。華紅弥ちゃんが真面目なのは分かったから。

華紅弥 慣れ慣れしくちゃん付けをするな。華紅弥殿、もしくは月華の大君と呼んでもらおう。

神威　　そういうの嫌いじゃないけどね。今はほら、3ヶ月に1回のお祭りなんだから、もつと気楽にやりましょーよ。さ、続けて。

弥勒　　それでは続いているの対決は――。

霞　　お笑い対決です……まずは月華の国からどうぞ。

華紅弥　　お前達、大丈夫だろうな？

可南汰　　はい……任せてください。

不知火　　バツチリです……

華紅弥　　よし、行って来い……

可南汰と不知火、センターへ移動し漫才を始める。2分半程度。

可・不　　どうもありがとうございました……

2人、元の位置へ戻る。

弥勒　　次に登場するのは陽炎の道化……

霞　　最近メキメキと実力をつけてきた女ピン芸人、悠奈……

悠奈、前に出て来て。ピンネタをやる。2分程度。

弥勒 お笑い対決トリを飾るのはやっぱりこの人！！

霞 伝説のパフォーマー、影星の道化、水境！！

水境、前に出て来て。パフォーマンス。持ち時間は好きなだけ。
ネタを出し切ったらドヤ顔で元に戻る。

弥勒 さあ、3ヶ国の道化によるパフォーマンスが終了しました。審査員は大丈夫ですか。
それでは札を上げてください、どうぞ！！

社と霞と凧が並んでいる。3つの国の名前が書かれた札があるので、合図と同時に上げる。全員、バラバラ。

弥勒 おーっと、全員バラバラだ。と、なった場合、MC兼審査員長の私が決断させて頂きます。この勝負、勝ったのは………。影星！！

影星の国民、全員大喜び。

弥勒 さて、それでは最後の対決を、といきたい所ですが、華紅弥様、何でもその前にスペシャルなショーをご用意されているとか。

華紅弥 ああ。千年以上続くと言われるこの交友会の歴史の中でも今回は一番の盛り上がりを見せる事だろう。

弥勒 と、仰いますと？

華紅弥 今、大陸で一番熱い話題は何だ？日々の疲れを、その歌声でいやしてくれるのは誰だ？

弥勒 まさか！？

華紅弥 この大陸、文句なくナンバー1のアイドルグループ、ミルキーエンジェルのライブショーだ！！

全員、拍手！！盛り上がる。上の段にいた役者、下へ。

琴音、胡桃が上段センターへ。ポーズをとる。

フタ芸チーム、舞台真ん中へ。他の役者は上手と下手に分かれる。

凧 皆、ミルキーは好きか！！

全員「おお……」

凧 ミルキーは最高か！？

全員「おお……」

凧 今日も盛り上げて行くぞ……

凧、言い終わりと同時に「お〜」と低い声を出す。全員、それに続く。
以下、MIXを全員で始める。アイドルの曲が入る。

ミルキーエンジェルのライブ。合わせてヲタ芸。周りの役者はアイドルの名前を呼んだりして盛り上げる。

神威 素晴らしいショーだったわ……もう最っ高……ブラボーよ、ブラボー……

神威、2人に拍手を送りつつ、

神威 あら？でもミルキーエンジェルって3人組じゃなかったかしら？

羅刹 そういえばそうでゲスね。

神威 ホラ、琴音ちゃんでしょ？胡桃ちゃんでしょ？あとは……。

修羅 玲亜さん。

神威 そうそう、玲亜ちゃん……あの子はどっしたの？

華紅弥 玲亜は……。

月華の国民、全員が、陽炎の国にいる玲亜を見る。

神威 アラ？アラララララ？アラア？何、何。何で玲亜ちゃん陽炎にいるの？仲間割

れ？事務所を移しましたって感じ！？

羅刹 これはスクープでゲス……

華紅弥 ショーはここまでだ。余計な詮索はやめてもらおう。

神威 あら、ゴメンなさ〜い。でもファンなのよ。

華紅弥 それはミルキーエンジェルのか？それとも玲亜のか？

神威 どっちもよく。だって3人そろってミルキーエンジェルでしょ？

華紅弥 今のミルキーエンジェルは琴音と胡桃の2人だけだ。

神威 そうなの？残念ねー。

華紅弥 そんな事より……次が最後の対決だというのにまだ来ないのかあいつは……！

修羅 申し訳ありません。今、ウチの者が急いで呼びに行っておりますので。

華紅弥 全く、いくつになってもだらしない奴だ。

神威 ちよつと華紅弥ちゃん。仮にも他国の大君をあいつ呼ばわりはまずいんじゃない。

いくら幼なじみだからって……。

華紅弥 あいつなんてあいつで充分だ。

竜斬丸 月華の大君……大君といえど輪廻様を悪く言う事は許しませんぞ！

華紅弥 あいつが駄目なら呼び捨てで充分だ……陽炎のバカ輪廻……！

輪廻、上手袖から声のみ「俺を呼んだか……」。音楽。

上手後方より入って来る。曲に合わせてダンス。

男を避けて女とだけ手を繋いだりする。

下段に降りて来て、最後に竜斬丸とキスをしそうなポーズをとる。

目が合う2人。

輪廻

オエ……！

輪廻、上手に去っていく。シーンとする間。

神威　　・ ・ ・ あの子、何しに入つて来たの？

輪廻、上手から入つて来ながら。

輪廻　華紅弥ゝ！！会いたかつたよ。長い！！長いつて3ヶ月は！！俺なんて寂しくてこの

3ヶ月が九十日に感じたんだぞ！！

修羅　適切日数です。

輪廻　ね、華紅弥は！？華紅弥も寂しかった？

華紅弥　人の名を気やすく呼び捨てにするな。

輪廻　いーじゃん、華紅弥だつて俺を呼び捨てにするだろ？

華紅弥　私はいんだ。お前みたいな大君失格な奴をどう呼んだつて。

輪廻　勝手だねゝ？

華紅弥　それよりお前、まさか今日の交友会忘れてたんじゃないだろうな。

輪廻　俺が華紅弥に会える日を忘れるわけじゃないか！！日にちを間違える事はあつても。

華紅弥　気やすく呼び捨てにするな。

輪廻　あれ？照れてるの？

華紅弥　照れてない。

輪廻 照れてんじやん。

華紅弥 照れてない!!

神威 ・ ・ ・ ねえ、このコントいつまで見てればいいの？

華紅弥 すまない。余計な時間を取らせた。進めてくれ。

弥勒 かしこまりました。それでは全員が揃った所で最後の対決です!!最後の対決は!!

霞 剣術対決です!!

全員、盛り上がる。

弥勒 やはり交友会のメはこれではなくてはなりません。各国の代表者は . . .

華紅弥 私が行く。

弥勒 やはり月華の国からは華紅弥様が参戦だ!!

霞 これまでに四十連勝ですからね。どこまで連勝記録を伸ばすのでしょうか。

輪廻 華紅弥が出るなら俺も出る!!

弥勒 おおっつとこれは意外だ!!陽炎からは輪廻様が出るのか!?

竜斬丸 おやめ下さい。

輪廻 何だよ。

竜斬丸 こんな所で怪我をされては守護者としての立場がありません。

輪廻　大丈夫。俺に任せとけて……だっ……ばっ……がっ……って俺の勝ちだから。
竜斬丸　輪廻様、そういうセリフはせめて、

竜斬丸、刀を抜いて輪廻の首すじに立てる。

竜斬丸　せめてまともに刀が抜けるようになってから言ってください。
輪廻　竜斬丸のバカ……もう知らない……

輪廻、悠奈に泣きつく。悠奈、少し驚くが、嬉しそうに輪廻をあやす。

玲亜　それでは私が行きましょうか。

華紅弥　影星は誰が出るんだ？

神威　んっふっふー。この日の為にとっておきの守護者を雇ったんだから。出て来なさい……

音楽と共に銀狼丸が前面へ出て来る。

全員がその気配に圧倒されるような感じ。

銀狼丸　（オカマ口調で）どーもー、銀狼丸です……

全員、ズッコケる。

輪廻 お前もかよ!!

玲亜 では・・・。

竜斬丸 いや、玲亜殿、申し訳ないがあなたでは奴に勝てない。

輪廻 知ってるのか？

竜斬丸 同じ里の者です。

銀狼丸 竜斬丸!!私、あなたを追って里を出たんだから!!勝ち逃げは許さないんだからね!!

輪廻 お前の里は忍の集団じゃなかったのか。

竜斬丸 そうですが。

輪廻 あいつはどこにも忍べんだろ。

銀狼丸 うるさいわね、勝負よ勝負!!

玲亜 ・・・・強いんですか？

竜斬丸 強いですよ。そこらの奴じゃ相手にならないでしょう。でも、

玲亜 でも？

竜斬丸 俺程強くない。

華紅弥 始めるぞ。

華紅弥、竜斬丸、銀狼丸、舞台中央へ。刀を構える。

銀狼丸 あら。月華の国は大君自らが出るの？守護者は？

神威 本来守護者は、琴音ちゃんと胡桃ちゃんなんだけどね。華紅弥ちゃんの方が圧倒的に強いよ。ちよつと華紅弥ちゃん。もつと周りに仕事を与えなさいよ。弱さを見せるのも大君の仕事なのよ？

華紅弥 そういうものか？

神威 まあ、国の治め方なんて人それぞれだけどね。輪廻ちゃんだって自分のやり方があるようだし。

華紅弥 あいつが……？

華紅弥、輪廻の方を見る。輪廻の顔を見て、首を横に振る。

銀狼丸 竜斬丸……私に何も言わず里を出るなんてひどいじゃない……！

竜斬丸 ちよつと待て、お前そんなキャラだったか？

銀狼丸 仕方ないじゃない。オカマじゃなきや雇ってくれないって言うんだから。

神威 何あんた、本気にしたの？

羅刹 モノホんなのかと思つていたでゲスよ。

銀狼丸 そんなわけないだろう!!

神威 じゃ、いいわよ。普通でやんなさい。

銀狼丸 俺のこの一ヶ月は何だったんだ……。

竜斬丸 お前、俺を追つて来たのか。

銀狼丸 当たり前だ。まだ勝負はついてないんだからな。

竜斬丸 ついてるだろう!!全戦全勝。どう考えても俺の勝ちだろ。

銀狼丸 負けを認めないうちはまだ決まってるんだよ!!それより何故里を捨てた!!お前

は次の長になるべき男だろう!!?

竜斬丸 ……疲れたんだよ。いや、疲れたというより嫌になったという方が正しいか。

忍の世界は嘘だらけだ。身内にだって油断は出来ない。誰が味方かも分からない中、ただひたすら敵を殺していく事が嫌になったんだ。

銀狼丸 竜斬丸。お前は剣術は強いが精神面は弱いのだな。その根性、たたき直してやる!!

行くぞ!!

竜斬丸と銀狼丸の殺陣。〇秒程度。その動きを見て、華紅弥、鼻で笑つてしまふ。

竜斬丸、銀狼丸、ピタリと動きが止まる。

竜斬丸 月華の大君。今、笑いましたか？

華紅弥 ん？ああ、すまない。悪気があるわけじゃないんだ。気にせず続けてくれ。

銀狼丸 そういうわけにはいきません。

竜斬丸 この勝負は3人で行うもの。我々2人を戦わせ、消耗させるのが目的ならば大君を巻き込むまで。いざ、参ります！！

竜斬丸と銀狼丸、華紅弥に向かって両手で挑む。

2人の刀を片手で受け止める華紅弥。刀はビクともしない。

華紅弥 もっと腰をおとせ。それでは力が入らんぞ。

竜斬丸 お、押し込めない！！

華紅弥 行くぞ。怪我をしないようにな。

華紅弥、刀をはじいて、大きく2人に振る。吹き飛ぶ竜斬丸、銀狼丸。

銀狼丸 月華の大君は化け物か！？

斑鳩 化物だと！？華紅弥様を化物呼ばわりするか貴様！！

華紅弥 いや、お前もなかなかだったぞ。私はもつと飛ばすつもりだったからな。その程度

で済むならたいしたものだ。で、続けるか？

弥勒、間に入って来て、

弥勒 いやいやいや。もう充分でございます。この対決、月華の勝利といたします…！

霞 華紅弥様、二連勝おめでとうございます…！

弥勒 しかし…！追い込みむなく、合計得点は逆転できず…！今回の交友会は陽炎の優

勝…！

陽炎の国民、全員大喜び。

輪廻 よーし、お前ら良くやった…！今日は帰ったら祝杯だ…！で、今回の賞品は何だ？月華

主催の時は大抵しみつたれてるからな…！

斑鳩 しみつたれているとは随分ですね…！

輪廻 事実だろーが。最近もらった賞品、言ってるやろーか？その…！

修羅 エンピツ1ダース。

輪廻 その…！

修羅 大学ノート。

輪廻 その3

修羅 サイコロキャラメル。

輪廻 サイコロキャラメルってニさん、はい。

陽炎、影星の国民、全員で「サイコロキャラメルってニ」

華紅弥 （影星に向かって）何故お前達まで言うニ

輪廻 確かにな、節約っつーのは大切だが、他国への賞品だ。少しは見栄っつーのも必要だと思っただよねー。

華紅弥 ブーブー言うな。文句は今回の賞品を見てからでも遅くなくろう。斑鳩。
斑鳩 はっ。

斑鳩、下手袖に移動し、袖にいる緋巫佳に声をかける。

斑鳩 こちらへ。

緋巫佳が下手から現れた時、緋巫佳の赤い髪に全員がザワつく。

輪廻 何だそいつ？

華紅弥 緋巫佳だ。

緋巫佳 緋巫佳と申します。以後、お見知りおきを。

輪廻 名前を聞いているわけじゃない。そいつと賞品とどう関係あるんだ？

華紅弥 にぶい奴だな。この者が賞品だと言っている。

輪廻 人が賞品？冗談だろ？

華紅弥 いや、私はいたって真面目だが。

神威 ちよつと華紅弥ちゃん。人間を賞品につて、それは無しじゃない？らしくないわ。

華紅弥 勘違いするな。この者が自ら志願したんだ。

修羅 自分を商品にしてくれとですか？

華紅弥 ああ。この者は生まれはこの大陸、影星だったらしいが、幼い頃海を渡り、他の大

陸で様々な事を学んできたそうだ。その知識を活かす為、先日戻ってきてな。着

いた港がたまたまウチの港だったらしい。

輪廻 その赤い髪の毛・・・アンタ、清浄の民か？

緋巫佳 はい。

修羅 全ての存在に忌み嫌われし者、清浄の民。見るのは初めてです。

輪廻 輪廻ん？そうか？

輪廻、緋巫佳に近付いて行く。

輪廻

全ての者に忌み嫌われしなんて言われてるから色んな姿を想像しちまうんだろうけど、実際は俺らと全然変わらねえだろ。角があるわけじゃねえし。尻尾があるわけじゃねえ。……他の大陸でも嫌われてるのか？

緋巫佳

この髪ゆえ、好奇の目にはさらされました。

輪廻

今まで生きて行くの大変だったろ。

緋巫佳

……生きていく事が楽な人間などおりません。

輪廻

確かにな。こりや確かにおりこうさんだ。月華の助言者と良い勝負だな。なあ？

輪廻、那由他に話を振る。

那由他

私は、緋巫佳様には遠く及びません。

輪廻

頭が良い奴ってーのは皆、奥ゆかしいものなのかねー。で、何で帰って来た？

緋巫佳

はい？

輪廻

何でこの大陸に帰って来た？

緋巫佳

それは……華紅弥様に申しあげましたように、微力ながら他の大陸で得た知

識をご提供出来ればと思ひまして……。

輪廻、緋巫佳の目をじっと見ている。

緋巫佳 何でしょう？

輪廻 ……華紅弥。

華紅弥 だから軽々しく呼び捨てにするなど、何だ？

輪廻 いらねえ。

華紅弥 何？

輪廻 今回の賞品はいらねえや。悪いな。

華紅弥 緋巫佳が清浄の民だから二見損なつたぞ二

輪廻 俺はよ。賞品にしるとかつて自分をモノ扱い出来る奴は好かん。

華紅弥 よく分からんが断つたのはお前だ。今回優勝した陽炎に賞品は無いがそれでいいんだな？

輪廻 んじゃ、せめて華紅弥からの熱い口づけを……大丈夫です。

輪廻、言いながら華紅弥に近づくが、華紅弥が刀を抜く。離れる輪廻。

華紅弥 しかし困った。2位は我が月華だが、助言者はもう居るしな。

那由他 私は構いませんが。

華紅弥 いや、輪廻を非難しておいて言うのも何だが、やはり清浄の民が城の要職につくというのも……。

輪廻 だから俺はそういう事で断つたんじゃなくてだな……。

神威 あーもー、面倒くさい二あなた、うちにいらっしやいな。

緋巫佳 よろしいのですか？

神威 あなたさえ良ければ、だけど。

緋巫佳 私はどこの国でも、自分の知識が役に立つのなら。

神威 華紅弥ちゃんは？

華紅弥 私は……別に。

神威 じゃ問題ないわね？うちへいらっしやい。

緋巫佳、神威の方へ移動。

神威 じゃ、これからよろしくね。

緋巫佳 私を受け入れて下さった大君、そして影星の発展の為に、この身捧げる所存でございます。

神威　　いいのよ。肩の力を抜きなさい。もつとマツタリいきましようよ。期待はしているけどね。

緋巫佳　　ありがとうございます。

神威　　いい？華紅弥ちゃんも輪廻ちゃんも、それぞれのこだわりがあるのはいいんだけどさ、こういうのって縁なのよ、縁。後で悔やんだって知らないんだから。他の大陸からの知識つてのは間違ひなく国力を上げる力になるんだからね

修羅　　輪廻様ニ申し訳ありませんが私も全く同じ意見です。我が国の方針に生まれや育ちは関係ないはず、せつかくの知識を他国に取られるのは………
いいんだよ。

輪廻　　大君ニ

修羅　　目だ。

輪廻　　は？

修羅　　あいつの目が気に入くわん。

輪廻　　目……ですか？

修羅　　あの目は人の役に立ちたいって目じゃねえ。下手に取り込めば……。

輪廻　　取り込めば……。

修羅　　喰われるぞ。

輪廻　　それでは、今回の賞品は特別に優勝国から3位の国へ譲渡、という事でよろし

いでしうか。

輪廻
あゝ。

ラッキーって感じ？

弥勒
それでは皆様お疲れ様でした。これにて月華の国主催の交友会を締めたいと思

います。次回の開催国を例によってクジで決めますので各国の大君はこちらへ。

華紅弥、輪廻、神威が社の近くへ。社がクジの札を持っている。クジは○が一つに
×が二つ。○は神威が引くように工夫。

弥勒
それではそろって見せて頂きましょう。主催者だ。くだら

合図に合わせてクジを見せる。○が付いている影星。

弥勒
決定致しました。二次回は影星の国主催で交友会を開きます。各国の代表者は次回ま
でにより高みを目指して頑張ってください。それでは神威様。次回の打ち合わせをす
る為、後程影星に寄らせて頂きます。

神威
オッケー。二

弥勒、社、霞、凧、上手に去って行く。
神威、それを見送った後、

神威

じゃ、私達も行きましたか。

影星の国民上手へ去ろうとするが、悠葉が神威の前へ走り寄る。
神威、少しうなずいて上手に影星の国民と去って行く。

銀狼丸、去り際、竜斬丸に対して、

銀狼丸

三か月後にもう一度俺と勝負しろ。今度こそ貴様に勝ってみせる二

竜斬丸

さっきの対決でお前も理解しただろう。お前ではお前自身をやめない限り俺には勝てん。

銀狼丸

俺は、俺のままに勝ってみせる！

銀狼丸、去って行く。悠葉下を向いたまま。

修羅

どうしました？

悠奈

え？あ……いえ、何でもありません。

修羅
そうですか。それでは我々も帰りましょう。

陽炎の国民、上手後方に去ろうとする。

琴音
玲亜^二

琴音の声に止まる一同。玲亜、背を向けたまま。

琴音
私達を裏切っという何も言わずに行くつもり？

胡桃
「久し振りに会ったんだから声ぐらい聞かせてよ」だって。

琴音
何も言わずに急に居なくなっと思ったたら陽炎に行ったなんて。

胡桃
「体は大丈夫？心配したんだからね」だって。

琴音
もう玲亜の考えてる事全然わかんない^二

胡桃
「いつでも戻ってきていいんだからね」だって。

輪廻
あのバウリンガル便利だな。

琴音
胡桃さつきからうっさい^二

胡桃
ホント琴音ちゃんは素直じゃないんだから。

琴音
あんただって言いたい事あるでしょ^二

胡桃 玲亜ちゃんには玲亜ちゃんなりの事情があったんだよ、きっと。ね？そうでしょ？

琴音 じゃあ教えてよ。事情。

胡桃 琴音ちゃん。多分あんまり話せない事だから黙って出て行ったんだと思うよ？

琴音 だって私達仲間じゃなかったの？小っちゃい頃からずっと一緒に頑張ってる生きてきたじゃん？仲間でしょ？仲間ってどんな悩みでも相談し合えるのが仲間なの？

玲亜、2人の方に振り返る。琴音、胡桃、前へ出る。

玲亜 ……事情なんてないよ。アイドルやるのが嫌になっただけ。

胡桃 玲亜ちゃん、それは嘘。

玲亜 嘘じゃない。

琴音 玲亜が一番ノリノリだったくせに。

玲亜 ノリノリじゃない。

琴音 ノリノリだった？

玲亜 違う？二本当にアイドルが嫌になっただけ。ごめんね、何も言わずに逃げて。

胡桃 ……やっぱり嘘だよ。

玲亜 嘘じゃないってば。

胡桃 じゃあ何で未だにそれを着てるの？

玲亜 ……え？

胡桃 何でミルキーエンジェルの衣装着てるの？アイドル嫌になったのに。

玲亜 ……それは……。

玲亜、返答につまる。

輪廻 あー、それ俺の指示。玲亜がうちの国に入りたいて来た時に条件としてこの格好のままですて事にした。

華紅弥 何故？

輪廻 何故ってこの方が可愛いからに決まってるだろ。このスカートのヒラヒラした所なんが最高じゃないか。

輪廻、玲亜のスカートの裾を持ってヒラヒラする。

玲亜 (殴りながら) 殴りますよ。

輪廻 それは殴りながら言うセリフじゃないだろう……。

華紅弥 輪廻二

輪廻 え、何？

華紅弥 お前、どうして玲亜を受け入れた。どうして戻るよう説得しなかったんだ。

輪廻 来たって奴を受け入れて何が悪い？華紅弥だって、

華紅弥 私なら自分の国へ戻るよう説得する。

輪廻 結果、そいつの居場所が無くなるかもしれないのにか？

華紅弥 それは……。

輪廻 ……ま、考え方は人それぞれだ。俺は受け入れたってだけの話だよ。……悪いな。

華紅弥 何がだ。

輪廻 まあその……色々と。

華紅弥 ……玲亜の事、よろしく頼む。

輪廻 ああ……大丈夫か？

華紅弥 何がだ。

輪廻 無理してんじやねえのか？

華紅弥 いや、玲亜が決めた事だ。

輪廻 それもあるが、そうじゃなくてよ。華紅弥自身が。

華紅弥 私が？私が何を無理してると言うんだ。

輪廻 自覚症状無しか。(斑鳩、那由他に)……なあ、華紅弥の事しっかり見といてくれ

よ？こいつすぐ無理するからさ。

斑鳩、那由他、うなずく。斑鳩は不満不服そうな顔。

輪廻

お互い忙しい身だからなー。次に会えるのは三カ月後の交友会かなあ？それまで俺の体温を覚えておくが、いいさ。華紅弥ちゅわくん。

輪廻、両手を広げて華紅弥に抱きつこうとするが刀を抜こうとする華紅弥。輪廻クルツと振り返って、

輪廻

さー帰ろうかー。

陽炎の国民、輪廻を先頭に去る。

琴音

玲亜……。

玲亜だけ一瞬立ち止まる。背を向けたまま顔だけ2人の方へ向け、玲亜も陽炎の国民に続く。うなだれる琴音。胡桃、琴音に近付いて、

胡桃

琴音ちゃん、元気出さないと。私達はアイドルでしょ？

琴音 うん……

華紅弥 では、我々も城内へ戻るとしよう。

斑鳩 交友会の片付けはどうされます？

華紅弥 明日でいいだろう。今日はゆっくり休め。

斑鳩 かしこまりました。

月華の国民去ろうとするが可南汰と不知火が動かない。それに気付く那由他。

那由他 どうされました？

不知火 あの、僕達もうちよつとここに居ます。

可南汰 さっきの漫才で失敗した所を合わせてから行きますんで。

華紅弥 そうか。程々にしておけよ。

不知火 はい、ありがとうございます。

斑鳩 付き合おう？

可南汰 いえ斑鳩様にそのような事はさせられません。

斑鳩 俺はこう見えてお笑いにはうるさいぞ？

可南汰 尚更遠慮させて頂きます。どうぞ先にお休みください。

斑鳩 そうか。

華紅弥達去る。残る可南汰と不知火。周りに人がいないことを確認するようにキヨロキヨロした後、可南汰、上手の方を向いて、

可南汰 もう大丈夫だよ。誰もいなくなった。

上手から恐る恐る希来李が入ってくる。

希来李 可南汰二

可南汰 希来李二

2人歩み寄ってセンターで抱き合う。

可南汰 この三カ月間長かった。ずっと会いたかった。

希来李 私も。この日をどんなに待ちわびた事か。

可南汰 元気だった？

希来李 寂しいって気持ち以外は。

可南汰 僕も。

不知火　こんばんは。

希来李　あ、不知火さん。いつもありがとうございます。私達が会う為の時間を作ってくれて。

不知火　気にしないで。2人の幸せそうな顔見れて僕も嬉しいから。じゃ、僕はあつちで見張りしとくから、気にせずイチヤついて。

希来李　イチヤつくだなんて。恥ずかしい。キャハハ

可南汰　もう希来李カワイーイー。

不知火　・・・・・・じゃ。

不知火、下手袖の方へ移動し遠くを見張る。可南汰、希来李その場に座る。

可南汰　僕達付き合ってもう一年になるのにその間会えたのってたった4回なんだよね。

希来李　交友会の時くらいじゃないと機会がないもの。でも会えない分手紙が増えたわ。

可南汰　毎日書いてるからね。この間希来李からもらった手紙数えてみたら、百通を超えたよ。

希来李　私そんなに書いたんだ。

可南汰　僕の大切な宝物。

希来李　うん。私も。

可南汰 ジャーン

可南汰、ポケットから紙を取り出す。

可南汰 これ、希来李からの最新の手紙。

希来李 え！？

可南汰 ここで読み上げちゃおっかなー。

希来李 えっ！待って！やめてよ！

可南汰 あ、ここの行なんか凄く大胆なこと書いてる！えーとねー。

希来李 待って待って待って！

可南汰 へへっ。ウソ。ただの紙だよ。

希来李、可南汰から紙を奪う。紙は白紙。

可南汰 宝物は大事に家にしまっただけあるよ。どこで無くすかわからないからね。

希来李 もう、バカア！

可南汰 ゴメン、ゴメンって、．．．不知火！

不知火、下手を見張りながら思いつきり聞き耳を立てている。

不知火 僕のは気にするな。いいから押し倒してしまえ。

可南汰 出来るか。

不知火 度胸のない奴だな。そんなんだから小学生のころのあだ名が栄養失調だったんだ。

可南汰 それは今、関係ないだろ。それからリアルはやめろ。

不知火 待て。誰か来る。……斑鳩様だ。希来李さんを隠さないと。

不知火、可南汰の方へ。可南汰と不知火、互いの背を向けながら、通常の漫才の立ち方とは逆ハの字になって立つ。2人漫才を始める。それを壁代わりに希来李が隠れる。

斑鳩、入ってくる。

斑鳩 まだやってたのか。

不知火 斑鳩様。どうされました？

斑鳩 なかなか寝付けなくてな。酒を取りに。

不知火 ああ、なるほど。

斑鳩 随分変わった立ち方で漫才をしているな。

可南汰 ええ、新しい事にチャレンジしようと思ひまして。

斑鳩 ……方向性を間違えないようにしろよ？

不知火 はい。

斑鳩、上手に去りかけて、

斑鳩 お前達の方も持つて来ようか？どうだ一緒に。

不知火 ありがとうございます。でもその…今日中に新しいネタを作りたくて。

斑鳩 そうか。分かった。

斑鳩、上手に去る。可南汰と不知火、離れる。

希来李 間一髪でしたね。

可南汰 斑鳩様って意外と酒好きだね。

不知火 まあ酒蔵までは距離があるから。少しはゆっくり出来るんじゃないかな？

上手から斑鳩が話しながら入って来る。

斑鳩

いいのか料理長？こんな良い酒もらっちゃって？悪いな。今度何かお返しに持って行くよ。

可南汰、不知火、慌てて希来李を隠そうとして、前と後ろから希来李をサンドイッチ状態にする。そのまま手をお互いの背に回す。

上手の斑鳩から見ると、2人が抱き合っているように見える。

斑鳩、手に持っていたペットボトルのワインを床に落とす。

不知火

斑鳩様二違うんです。これには深い事情がありました二

斑鳩、急いでワインを拾いながら。

斑鳩

大丈夫だ。私は何も見ていない。

不知火

違うんですって、聞いてください二

斑鳩、上手から下手へ移動する。その動きに合わせて希来李が見えないように2人も動く。

斑鳩　私はそう言うことに興味はないが、理解がないわけでもない。

不知火　何を言ってるんですか！？

斑鳩　だがくれぐれも私を巻き込まないでくれ。

不知火　聞いてくださいって！

可南汰　斑鳩様！どうかこの事は内密に！

不知火　おい！

斑鳩　大丈夫だ。自分で言うのも何だが、私はおしゃべりではない。

斑鳩、客席の方を向く。ニヤリとする。

不知火　しゃべる気満々じゃないですか！ちよつと斑鳩様！？

斑鳩、下手に履ける直前までゆっくり移動。

一回だけチラッと2人の方を向いた後、ダッシュではける。

斑鳩　華紅弥様！

不知火　斑鳩、テメエこの野郎！

シーンとした間。可南汰、不知火離れる。

苦しかったのか深呼吸する希来李。

希来李 私達、いつまでこんな風にビクビクしてなきゃいけないんだろ。

可南汰 うん……。

不知火 ……可南汰。こうなったら結婚しろ。

可南汰 は！？

不知火 この際一緒になっちゃえよ。

可南汰 そんなの無理に決まってるだろ。華紅弥様は他国との結婚に否定的なのはお前も知ってるだろ。それに、僕が結婚しちゃったらお前、どうするんだよ。道化師は結婚生活送りながら続けられるほど甘くないだろうし……。漫才はどうするんだよ。

不知火 可南汰は器用だからどこでだってやっていけるさ。

可南汰 僕はお前の心配をしてるんだ。不知火じゃ道化師以外にやれる事なんてないだろ。

不知火 ピンで続ける。

可南汰 ピンで！？

不知火 僕のことはいいから。ちゃんと自分を……希来李さんの幸せを考えてやれよ。

可南汰 お前……イケメンで背が高く性格も良いって男として面白いの奴だな。

不知火 結果悪口だよ、それ。

希来李 私、もうそろそろ行かないと。

可南汰 もう！っ今回は特にゆっくり出来なかったね。

希来李 また3ヶ月後か……。

可南汰 ……元気でね。

希来李 うん。可南汰も無理しちゃダメだよ？キャハハ

可南汰 大丈夫。

希来李 手紙書くな。

可南汰 僕も書く。

希来李 それじゃ、不知火さん、本当にありがとう。

不知火 どーいたしまして。気をつけてね。

希来李 うん。……また今度。

可南汰 また今度。

希来李、名残りおしそうに上手に去って行く。

上手に手を振っていた可南汰、手を止めて。

可南汰 不知火、協力してくれないか。

不知火 え？

可南汰 希来李の事、華紅弥様に相談してみる。

不知火 そうか二分かった。僕に出来る事なら何でもするよ。ただ、その前に一つやることがある。

可南汰 何？

不知火 斑鳩様の誤解をとくのが先だ。

可南汰 ……確かに。

可南汰、不知火、下手に去って行く。

下手後方から輪廻、修羅、竜斬丸、悠奈が入って来る。遅れて玲亜。

玲亜 輪廻様。

輪廻 ん？

玲亜 先程は助け舟を出して頂きありがとうございました。

輪廻 何の事だ？

玲亜 いまだにこの衣装を着ている事に対して返答に詰まった時です。

輪廻 ああ、アレはだって本当の事じゃないか。

玲亜 私はそんな会話をした覚えはありません。

輪廻 玲亜が忘れてるだけだろ。俺は命令したぞ？

玲亜 ……輪廻様はお優しいんですね。

輪廻 優しい？俺が？そんな事初めて言われたぞ。

悠奈 私もそう思いますよ？

輪廻 マジで？

悠奈 はい。

竜斬丸 そう…輪廻様はお優しい方だ…俺も常々そう思っている…初めてお会いした時もそ

うだった。あれは今から5ヶ月程前の事。

玲亜 そんな事より。

竜斬丸 聞け…

玲亜 月華を離れてから頼った先が陽炎で良かったです。私を雇って頂きありがとうございます。

います。

輪廻 おいおいおい。俺は玲亜を雇ったつもりはないぞ？お前が俺の所に来たあの日、俺

はお前の身を預かると言ったんだ。いつか戻れる時が来たら戻ればいいさ。

……あの日、何故何も聞かずに私を受け入れて下さったのですか？

輪廻 目を見たからな。

玲亜 え？

輪廻 大君…のはな、人を見るのが仕事だ。大抵の事は目エみれば分かるもんなんだ

よ。ましてあれだけ必死な目をされたらな。

玲亜 それでも。……気にならないのですか？
輪廻 話したいなら話せばいい。自由ってのが俺の信念だ。

それを聞いた玲亜、被っていた帽子に手をかける。
そして、それを制するように、言葉を続ける輪廻。

輪廻 ただし。自由ってのには責任が伴うものだ。責任のない自由はわがままって言うんだぞ？

玲亜、輪廻の言葉の意味を考えた後、

玲亜 そして、責任ある自由をまっとうする為には覚悟が必要という事ですね。
輪廻 ああ。

玲亜、帽子を取る。髪は赤髪。周りがザワつく。

玲亜 輪廻様は驚きにならないのですね。
輪廻 悪いな。反応の薄いつまらない男で。

玲亜 私の目を見たからですか？

輪廻 まあな。

玲亜 輪廻様は凄い方です。

輪廻 ただ一つ分らない。

玲亜 ・・・・何でしょう。

輪廻 月華から去ったのは仲間に嫌われるのが恐かったからか？それとも、清浄の民であ

る自分がいれば仲間に迷惑がかかると思ったからか？

どちらもです。

・・・・やれやれだな。

な、何ですか？

輪廻 お前の弱点は視野の狭い所だ。自分で自分の事しか見てないだろ。もし、玲亜の仲

間が清浄の民だと分かって、お前は何か変わるのか？

玲亜 え？

輪廻 俺の国に居る間に色々な事を学んだな。まずは俺がめくるめく官能の世界を教え

てやろう。

輪廻、玲亜の体に触ろうと近づくと、玲亜に腕を取られ、ねじり上げられる。

輪廻 何で月華の女は皆、力が強いんだ二

玲亜 さ、行きましよう。

悠奈 私は少し寄るところがあるので失礼します。

悠奈、上手に去る。輪廻、玲亜は上手後方へ去る。

修羅も去ろうとするが何か考えている竜斬丸に気づき、足を止める。

修羅 どうしました？

竜斬丸 いや、何というかその・・・仲間というのは良いものだなと思ひまして。

修羅 そうですね。竜斬丸さんも、もう陽炎の仲間ですよ？

竜斬丸 俺は小さい頃から剣術のみを学んできました。修羅様のように頭が良くないので、今の気持ちはどう言葉にすればいいか分かりません。

修羅 無理に言葉にする必要はないんじゃないですか？竜斬丸さんは大君の守護者です。その勤めを果たす事こそが、気持ちの現れなんじゃないでしょうか。

竜斬丸 輪廻様の為なら命をはる覚悟があります。

修羅 器の大きい方ですからね。

竜斬丸 そう二輪廻様は器の大きい方だ二俺も常々そう思っている二たった一言しか会話をしていないのに俺を守護者にして下さった。あれは今から5ヶ月前の事。

修羅 我々も帰りましょう。

竜斬丸 聞けー！

修羅 勿論聞きますよ。ただ、折角ですからお酒でも飲みながら。

竜斬丸 お、おう……。

修羅、竜斬丸、上手後方へ去る。照明切り換え。

華紅弥、那由他、琴音、胡桃が下手後方から入って来る。

華紅弥、階段を下りながら、

華紅弥 しかし悔しさというものは後からやってくるな。陽炎みたいなチャランポランな国

に負けたのは納得いかん。

那由他 今回はどこの国が勝ってもおかしくありませんでしたけど。

華紅弥 クソー、輪廻のくせに生意気だ！

那由他 華紅弥様、言ってる事がジャイアンですよ？

華紅弥 ゆっくり休めと言ったが撤回だ。反省会をする！

那由他 今からですか！？

華紅弥 琴音！胡桃！

2人 はい。

華紅弥 お前達はもつとアイドルらしくしろ。「アイドルとは」を追求するんだ。研究しろ。
2人 はい二

華紅弥 それと、動きがぎこちないぞ。今の動きは玲亜がいた時のものだろう。2人になったのだから、2人で成立する動きに変更しろ。

琴音 ・・・分かりました。

華紅弥 振り付け担当は琴音だったな。胡桃、協力してやってくれ。

胡桃 はい。

華紅弥 それから可南汰、不知火二・・・ん？2人はどうした？

那由他 会場に残って失敗した所を練習すると言っていました。

華紅弥 ああ、そうだったな。斑鳩、2人を連れて来てくれ。

那由他 華紅弥様が先程、解散とおっしゃったので、晩酌しながら寝ると酒蔵へ行きました
が。

華紅弥 酒だといふ反省会に決まっているだろう。誰か呼んで来い二

斑鳩、下手から「華紅弥様二」と呼びながら入って来る。

斑鳩 聞いてくださいよ二もうビックリですよ。可南汰と不知火の2人、前から怪しいな

とは思ってたんですけど、さつきですね二・・・え。

斑鳩、楽しい事を報告しようと来たのだが華紅弥が鬼のような形相で見ているので、引く。

斑鳩 何でしょう？

華紅弥 就寝は許さん。今から反省会をする。全員に召集をかける。

斑鳩 もう休んでいる者もいると思いますが。

華紅弥 たたき起こせ。

斑鳩 しかし……。

華紅弥 陽炎に負けるなんてたるんでいる証拠だ。いいか、私が大君でいる間は陽炎に負ける事は許さん。二月華の名にふさわしい戦績をおさめる。二対決で勝てない奴なら勝てる奴と入れかえろ。

那由他 華紅弥様。

斑鳩、那由他の言葉を手で制して、

斑鳩 ……かしこまりました。明日、各種対決の候補者に発表会をやらせましょう。

出来の良い者を次の交友会の担当にされては？

華紅弥 良い考えた。発表会は私も見るぞ。

斑鳩 かしこまりました。

那由他 斑鳩様。

斑鳩 新しい風を入れるというのも悪くはないでしょう。

那由他 それは分かりますが、入れかえの本質を間違えてはいませんか？常に勝てない者を

入れかえるなら分かりますが、今回たまたま勝てなかったからといって二

斑鳩 そうですね。ですから、その場合はたまたまであった事を明日の発表会で証明すれ

ば良いだけでは？

那由他 斑鳩様二

上手から可南汰、不知火が走って入って来る。可南汰と不知火、立ち止まる。

可南汰、華紅弥と斑鳩が一緒にいる事に困惑。

可南汰 えっと、この場合どつちに先に話せばいい？

不知火 こつちに決まってるだろ二

不知火、可南汰を強引に華紅弥の前へ連れて来る。

不知火 華紅弥様「こいつの話聞いてやって下さい」

華紅弥 「……可南汰。私に話があるのか？」

可南汰 はい「その……」。華紅弥様に結婚を許して頂きたいと思ひます」

斑鳩 何々お前達まさかそこまで」

不知火 ちよつと黙つててもらつていいですか。

華紅弥 結婚？めでたい事じゃないか。相手は誰なんだ？

可南汰 それが、その……。

華紅弥 何だ。

可南汰 他国の……影星の方なのです。

華紅弥 何？

可南汰 ですが、この気持ちは本物です「あの方を幸せにしたいと思う気持ちは誰にも負け

ません」どうかお許してください」

華紅弥 「……他国の者と一緒になりたいと？」

可南汰 はい。

華紅弥 「……私がそれを許すと思うのか。」

那由他 華紅弥様。

華紅弥 可南汰。その者と一緒になったとしてどうするつもりだ。

可南汰 え……。

華紅弥 その者を連れて月華に住むのか。それともお前が影星に行くのか。

可南汰 とりあえず、月華で暮らすつもりです。

華紅弥 とりあえず？

可南汰 その・・・私の相手であります希来李は幼い頃に両親を亡くし姉と2人で生きてきたそうです。しかし、その姉もあまり体が丈夫な方ではなく、いずれ影星の国で看病する事になります。その時は私もと考えております。

華紅弥 若くして両親を失くす不幸。私と同じような境遇である2人の姉妹には同情を覚える。が、結婚により月華の国民が減少する事を了承は出来ん。可南汰、結婚相手は月華の国で見つけろ。

可南汰 華紅弥様・・・希来李に会うまでの私なら、そのお言葉に大人しくうなずいていた事でしよう。しかし、私は運命の人に出会ってしまいました。自分の気持ちに嘘はつけません、口をつつしめ、

斑鳩

可南汰 申し訳ありません・・・ですがどうか・・・どうかお許し願えませんか。

華紅弥 ・・・・駄目だ。私が大君でいる間に国民が減ることは許さん。

那由他 華紅弥様。これまでの大君でも国民の出入りはございました。あまり神威経質になる事はないのでは？

華紅弥 これまでの事など知らん、今は私が大君だ。今回のような前例を作ってみろ。我も

我もと同じような事が起こったらどうする。

那由他 しかし、逆に月華の国民になるものも出てくるのでは？

華紅弥 可能性の話だろ。月華の中で完結させれば余計な心配はしなくて済む。……ど

うしてもというなら、お前から道化師の任を剥奪する。それでも良いのか？

可南汰 それは……

可南汰、うなだれる。言葉が続かないことを見て、

華紅弥 話は終わりだ。琴音、胡桃。

2人 はい。

華紅弥 明日までに新しい曲を考えろ。

2人 はい……

華紅弥 可南汰、不知火。

2人 はい。

華紅弥 明日までに新ネタを作ってこい。いいな。

2人、返事が出ない。

華紅弥 いいな二

2人 はい二

華紅弥 良し、下がれ。

琴音、胡桃、可南汰、不知火、下手に去る。

那由他 華紅弥様、よろしいのですか？

華紅弥 何がだ。

那由他 可南汰の事です。

華紅弥 ・・・私は・・・。

那由他 月華の国史上初の女性大君としての重庄、その重庄は私には想像も出来ません。日々、精神が削られている事でしょう。助言者として私の力が及ばぬ事、深くおわび致します。

華紅弥 那由他。

那由他 ですがこれだけは信じて下さい。私含め全員、華紅弥様のお力になりたいと・・・
ご負担を減らしてさしあげたいと常に思っているのです。

華紅弥 分かっている。私だって感謝している。

那由他 では何故、私達を信じて下さらないのです。

華紅弥 何を言っているんだ。ちゃんと信じているぞ。

斑鳩 信じているのに、元守護者であるあの3人をアイドルにしたのですか？

華紅弥 私よりも弱い者が私を守るはずがないだろう。私は適職を与えたままでた。

斑鳩 前回の交友会の時、輪廻様から「月華には娯楽が少ない」と指摘されたからではないですか？華紅弥様は私や那由他様よりも輪廻様の言葉に耳を傾けています。華紅弥様はまるで二

華紅弥 斑鳩二．．．それ以上続ける事は許さん。

斑鳩 出過ぎた事を申しました。何なりと御処分を。

華紅弥 ．．．良い。気にするな．．．私はもう休む。お前も休め。

華紅弥、下手に去りかけて立ち止まる。背を向けたまま。

華紅弥 斑鳩。

斑鳩 はっ二

華紅弥 ．．．酒は程々にな。

斑鳩 は、はい二

華紅弥、下手へ去って行く。

那由他、斑鳩の顔を見ている。

斑鳩　・・・・・・・・何ですか？

那由他　可南汰の恋も大変そうですが、斑鳩様の恋はもつと大変そうですね。

斑鳩　何の話ですか。

那由他　恋敵は一国の大君。でもその大君は3ヶ月に1回しか会えない。へっへっへっ。毎

日会える俺の方が有利だぜ、って所かしら？

斑鳩　だから何の話ですか。

那由他　いいわよ。うん。私、そういうの嫌いじゃない。

斑鳩　だから二

2人、ワイワイしながら下手に去る。照明切り換え。

神威、羅刹、水鏡、緋巫佳、弥勒、社、霞、凧が上手から入って来る。

神威　んー。やっぱり我が家はいいわねー。落ち着くって感じ？

羅刹　それでゲスね。

弥勒　流石、神威様の治める三国イチの経済国、影星二その城ともなると調度品の一つ一

つが美しいですね。

神威 アラ、弥勒殿もお目が高いわあ。全々部、他の大陸から特別に取り寄せたものばかりなんざます。

弥勒 見事としか言いようがありません。国を治めるカリスマ性。行く末を誤らない先見力。そして自国だけでなく大陸全土を見渡せる器に神威様が三国をまとめ、統一国家を作っても良いのではと思えますよ。

神威 滅多な事は口にするものではありませんよ。

弥勒 これは失敬。つい本音が口からもれてしまいましたな。

神威 ただ――。

弥勒 は？

神威 考えた事がないかと、言われれば嘘になるわねエ。

弥勒 神威様、それは……。

臃が下方後方から入って来る。階段を降りながら、

臃 あなたに

神威 ただいま。大人しくしてた？マイスイートハニー、ベイビー。

臃 ゴメンなさい。また今回も参加できなくて。

神威 いいのよー。臃は体が弱い子ちゃんなんだから。月華なんて田舎に行ったらお熱出

ちやうわよ？

神威と臈、イチヤつく。

弥勒 ト書きに書いてある以上にイチヤついている所を申し訳ないのですが、一つよろし

いですか？

神威 あら、ごめんなさい？

弥勒 そちらのご婦人は？

神威 そう言えば言ってなかったかしら。私ね、一年前に結婚したの。

はい！？

神威 もうラブっちゃってラブっちゃって。スイートハニー。ベイビー。

弥勒 キャラに対し設定をのみ込むのに若干時間を要しますが、とりあえず、おめでとう

ございます。

神威 華紅弥ちゃんや輪廻ちゃんにも知らせようと思ったんだけどね。ハニー、体が丈夫

じゃなくて。大っぴらな場所に長い事いれないのよ。

臈 交友会審査委員会会長の弥勒様ですね。いつもお世話になっております。

弥勒 いえいえ。交友会の進行が滞りなくいくのも、神威様のお力添えあつての事。お世

話になっているのはコチラの方です。いやー、しかし美しい。神威様、良いご縁

がありましたな。

神威 んゝ、もう照れちゃう二

弥勒 こんなにお美しい方に3分割された大陸の后というのはあまりに不憫です。そう思

われませんか！?

神威 んー、そうかなあ?どう思う、ハニ?

神威 私は大君さえいて下されば他には何も・・・。

神威 だってゝゝ二臆、超ゝけなげゝ二

臆 ところで大君。弥勒様がいらっしやるといふ事は次回の交友会の主催は・・・。

神威 ウチなのよー。

神威 忙しくなりそうですね。

神威 もう飛びっきりの交友会にしちゃうんだから二臆、ガンバよ二

臆 はい。あ、今回の順位はどうだったのですか?

神威、その言葉に大げさに泣く。なぐさめる臆。

羅刹 残念ながら力及ばず。3位でしたでゲスよ。

神威 でもね二皆すんごく頑張ったのよ!水鏡のお笑い対決なんかドツカンドツカんだっ

たんだから二

水鏡 大君、それは・・・。

臃 あら、それは楽しそう。是非見てみたいわ。

水鏡 え！？

臃 ドツカンドツカンのやつ。

水鏡 マジで！？

臃 新ネタで。

水鏡 新ネタ！？

神威 ハニー、いくら何でもそれは無茶ぶりよ！

臃 (咳き込みながら) 死ぬ前に一度・・・ギャグで爆笑してみたかった。

神威 水鏡の爆笑一発ギャグ、3、2、1、はい！

水鏡、頑張つて一発ギャグをやる。シーン。

臃 からのー！

水鏡 からののは止めて！

神威 まあまあ。水鏡ちゃん。次回の交友会も期待してるからね。

水鏡 あ、それで神威大君に一つお願いが。

神威 なあに？

水鏡 より笑いを学ぶ為に各国を周ってきたいのですがよろしいでしょうか。

神威 どのくらい？

水鏡 2ヶ月ほどお時間を頂ければ。

神威 道化師のいない2ヶ月から。つまらないけど仕方がないわね。ちゃんと腕を上げてくるのよ？

水鏡 ありがとうございます。

神威 どこに行くかは決めてあるの？

水鏡 まずは月華の漫才コンビと話をして来ようかと思えます。

羅刹 神威様、続きは食事をしながらという事でどうでゲしよう。弥勒様を立たせっぱなしというのも申し訳ないでゲス。

神威 あら、ゴメンなさうい。先に行つてて。

水鏡、弥勒、社、霞、凧、下手にはける。

緋巫佳 羅刹様。

羅刹 なんでゲしよう？

緋巫佳 あの、弥勒とかいう者の団体は何なのですか？

羅刹 交友会の審査委員でゲスよ。緋巫佳殿は元々はこの大陸の出ではなかったでゲス

か？

緋巫佳 私が物心ついた頃には、この大陸を離れていましたもので。

羅刹 そうでゲスカ。では説明するでゲス。

緋巫佳 よろしく願います。

羅刹 まずこの大陸は3つの国に分かれているでゲス。史上初の女性大君に期待と不安が

混じっている国、月華。大君の華紅弥様は民を束ねる為に様々な厳しい法律を作ったようでゲスね。

緋巫佳 私がしばらくお世話になっていた国ですね。

羅刹 (うなずいた後) もう一つは、時間にも女にもだらしのない大君、輪廻様が仕切っている国、陽炎。あの大君をして今も国が回っているのは優秀な側近のおかげでゲス。

神威 でも輪廻ちゃんもアレはアレで結構国の事考えてんのよ。

羅刹 そうでゲスカ？・・・そして絶対的カリスマと視野の広さを持つ、器の大きな大君、神威様が統べる国、影星。緋巫佳殿のような清浄の民が要職に就けるのも、

神威様の器があつてのことでゲスよ？

臈 清浄の民？

臈の言葉に、緋巫佳、かぶっていたフードを取る。赤い髪。

その姿を見て臈、神威の後ろに隠れる。

神威 大丈夫でちゆよ？怖くない、怖くない。．．．緋巫佳ちゃん。

緋巫佳、フードをかぶる。隴はまだ少し警戒。

羅刹 続けるでゲス。三つの国はここ数百年の間、戦争などは起こっておらず平和な時代

が続いているでゲス。と、いうのも千年ほど前に大陸全土を巻き込んだ大戦があり、その時に各国の国民半数以上が死んでしまったでゲスよ。それぞれの大王は2度と同じ過ちをおかしてはならないと考え、戦争はしないと誓い合ったでゲス。緋巫佳殿が賞品となった交友会は、戦争で死んでいった者たちの魂をしずめる為の鎮魂祭として代々受け継がれてきたものでゲス。

神威 それに、ただの慣れ合いでは各国に成長はないでしょ？戦争はダメだけど、やっぱりお互いに切磋琢磨しないと。でも対決するからには公平に見極める審判が必要じゃない？

緋巫佳 ではあの者たちはどこの国にも属していないと？

神威 うん。．．．何、どうかした？

緋巫佳 いえ、その．．．弥勒という者の口ぶりがどうも気になりました。

神威 気になる．．．。

緋巫佳 はい。どうもあの者の口ぶりは神威様に大陸統一をけしかけているような気がしまして……。

神威と羅刹、一瞬顔を見合わせる。

羅刹 神威様。弥勒が分かり易い言動をしているとはいえ、この短い時間で読めるという

のは、やはり緋巫佳殿は使えるでゲスよ。

神威 そうねー。……ねエ、緋巫佳ちゃん。

緋巫佳 はい。

神威 あなたに助言者の地位をあげるけど、ちゃんと私の役に立てる？

緋巫佳 私の持てる知識は全て、この地に埋めるつもりです。

神威 根づくの良いわねー。……そう。じゃあ、私達が進めている計画を教えてあげる。

緋巫佳 計画ですか？

神威、一瞬下を向いた後、すぐに前を向き両手を開く。

神威

三国統一

緋巫佳 三国統一……では弥勒の言葉通りに!?

神威 いや、この計画は俺自身で考えたものだ。弥勒は関係ない。俺は俺の意思でこの大陸を一つにまとめる。

緋巫佳 平和な日々を壊しても、ですか？

神威 今はな。華紅弥と輪廻が大君である間はこの平和も続くだろう。だが、次の代では分からね。千年前に起きたという大陸の半数以上が死んでしまうような戦争が起こらないとも限らないだろう。俺が大君である間にこの大陸を統一国家とし、真の平和を築く。

羅刹 それが我々の目的でゲス。その目的の為に現在、様々な計画を実行中でゲス。

緋巫佳 計画……。

上手から銀狼丸が悠奈をつれて来る。

銀狼丸 悠奈殿が報告にまいられました。

悠奈 神威様、お久し振りでございます。

神威 ご苦労。

緋巫佳 あなたは確か陽炎の道化……。

羅刹 これが計画その1でゲス。悠奈殿は影星が陽炎に送り込んだ密偵でゲスよ。

神威 輪廻の動きに変化は？

悠奈 特にありません。輪廻様………輪廻は日々、国内の問題に精力的に動いています。他国に攻めている、などといった考えは毛頭ないようです。

神威 まああいつの視野なんてそんなものだな。自分の国の事だけを考えるだけで精一杯だ。俺のように大陸全土の行く末など考えた事もないだろう。

悠奈 ですが、輪廻様の民を思う気持ちはとても強いと思います。あの方は自分の事よりも他人の幸せを願う事の出来る方です。

羅刹 あんないい加減な奴がでゲスか？

悠奈 輪廻様はああ見えて最低限の筋は通される方です。自由を信念としていますが、自由には責任が伴う事を理解しておいでです。城内でも慕う者は多いです。

神威 随分、輪廻のカタを持つじゃないか。

羅刹 もしかして、惚れたでゲスか？

悠奈 違います、私は……

神威 まあ、惚れたなら惚れたで構わん。……抱かれて来い。

悠奈 大君……

神威 それでこそアイツの本心を引き出せるかもしれん。悠奈も認めている通り、あいつは本質を見抜く奴だ。油断しているとこっちの計画がバレるかもしれん。

羅刹 まさか……？

神威 いや、輪廻を甘く見ない事だ。あいつが華紅弥くらい分かりやすい奴なら苦勞しないんだがな。

羅刹 華紅弥様は見てて痛々しいでゲスもんね。二背伸び感がハンパないと言っか。

神威 月華は華紅弥が大君を続けたんでは駄目になってしまっ。やはり俺が三国統一をなさなければ、この大陸が廢れるだけだ。

羅刹 神威様のおっしゃる通りでゲス。二

神威 悠奈。この大陸に生きる全ての人の為だ、辛い役目だろうが、続けてくれ。

悠奈 ……かしこまりました。

悠奈、上手に去って行く。銀狼丸も上手に去る。

緋巫佳 ……よろしいのですか？

神威 何がだ。

緋巫佳 今の者。影星の国を裏切る可能性があるのでは？

神威 かもしれんが人の氣持だ。その可能性も考慮した上で動くしかあるまい。

緋巫佳 何か対策を考えておいた方が良いのではないでしょうか。

羅刹 じゃあ、この件がうまくいったら金や地位を与えろというのはどうでゲシヨ？

緋巫佳 いえ、あのような者は自らの欲では動きません。

羅刹 じゃあ・・・。

緋巫佳 あの方、家族は？

神威 確か年老いた母が田舎に1人、いるはずだが。

緋巫佳 ではこの城に呼びましょう。生活の面倒を見てやりつつ、もし裏切ったなら……。

神威 成程、アメとムチというわけか。

羅刹 なかなかゲスな事を思いつくでゲスね。

神威 緋巫佳のような人材が力を貸してくれるのは心強い。今後も遠慮なく意見を出してくれ。

緋巫佳 ありがとうございます。では早速、大君の目的を達成させる為に大きく役立つ情報を。

神威 ほお！それは興味深い。

緋巫佳 実は私がこの大陸に戻ってきたのも、その話の真偽を確かめる為なのでございます。

神威 それで。

緋巫佳 この国には代々の大君が受け継いできた国宝があるはずですが。

神威 ああ。確かにある。

緋巫佳 同じように月華にも陽炎にも国宝と呼ばれるものが、

神威 ある。

緋巫佳 大君は国宝をご覧になられた事はございますか？

神威 自分の国のものならな。刀の柄だった。

緋巫佳 ではどちらかの国には刀の刃の部分と、勾玉があるはずです。3つを一つに組み合わせると一振りの刀になるらしいのです。

神威 それで。

緋巫佳 その刀がどうやって作られたのかは分かりません。が、その刀にはある特殊な力が宿っているとか。

羅刹 特殊な力でゲスか？

緋巫佳 人を超え、神にも等しい力を得る事が出来る、と。先程、羅刹様より千年前の大戦のお話を頂きましたが、それは私も文献で読んだことがあります。大陸の半数以上の人間が犠牲になったのはその刀の力によるものかと思われます。その時の大君達は刀の力を恐れ、3つに分解し、それぞれを国宝として保管する事で平和を手に入れたという事です。

神威 お前はその恐るべき魔性の力の真偽を確かめに来たというのか。中々面白い女だ。

緋巫佳 知識を求める者は真実に縛られているものなのです。

羅刹 では緋巫佳殿はとても運が良いという事でゲスね。このような話、華紅弥様や輪廻様が乗るとは思えないでゲス。

神威 目的のない者に力は必要ないからな。

臈 そのような恐ろしい刀。何という名前なのでしょう？

緋巫佳 ……黄泉の剣(つるぎ)と呼ばれていたそうです。

神威 にわかには信じ難い話だが、試してみる価値はあるか。分かった。計画に加えておこう。

緋巫佳 ありがとうございます。

神威 まずは審査委員含めた食事会だ。周りからはあまり良い顔をされないだろうが、気にするな。

緋巫佳、少し驚いたような顔をして黙っている。

神威 どうした。

緋巫佳 ……いえ、何でもありません。

神威 そうか、先に行っていてくれ。

緋巫佳 かしこまりました。それでは失礼致します。

緋巫佳、3人に深々とお辞儀をして下手に去る。

臙 あのような能力の高いものが清浄の民とは。生まれのせいで酷い目にあつた事でしょう。

神威 髪が赤いだけで清浄の民には優秀な者が多いのだぞ？ 臙は清浄の民を見るのは初めてか？

臙 はい。普段は山の中でひっそりとしているものなのでしょう？ あの赤い髪の毛。悪魔のようで恐ろしいですわ。

羅刹 神威様は清浄の民をご覧になっても平気なのでゲスか？

神威 ある意味尊敬しているからな。

臙 尊敬！ 清浄の民をですか！？

神威 先代の大君から教わったことだが、彼らはこの大陸の先住民だな。今ある文明は元々清浄の民が作り出したものらしい。

羅刹 それは何故今のような扱いを？

神威 あの赤い髪の毛のせいだ。生まれた当初は黒髪だが、成人後ある日急に赤くなるらしい。

羅刹 そのせいで悪魔のようだと言われられ迫害されたのだろう。

羅刹 それで「全ての存在に忌み嫌われる者」になっただけでゲスか。

神威 我が国が誤った認識を改めさせる事によって優秀な清浄の民を招き入れてもいいがな。

羅刹 ・····いえ、それは止めた方がいいでゲス。

神威 何故だ。

羅刹 人間は基本的に差別するものでゲス。どんなに底辺を生きる者でも、自分より下の

ものがいれば安心するものでゲスよ。多くの民の心の平穩の為には清淨の民には引き続き忌み嫌われてもらった方が良いと思うでゲス。

神威 百を生かす為に一を殺すか。

羅刹 国の平和とはそういうものでは？

神威 流石だな。やはりお前は素晴らしい右腕だ。

羅刹、深々とお辞儀。

神威 まあ確かに全ての清淨の民が優秀というわけでもないだろうしな。それに黄泉の

剣……………。あの話が本当なのであればこれ以上の駒はいらん。

羅刹 ……………駒……………でゲスか。

神威 ああ。

羅刹、一瞬鋭い視線を神威に向けた後、ニッコリ笑って、

羅刹 それにしても神威様。清淨の民を助言者に抜擢とは、器の大きさを感じさせる大胆

なご決断で。

神威 俺には必ず成さねばならぬ事がある。その為には手段など選んでいる場合ではない。

結果の伴わない努力など、単なる自己満足でしかない事を俺は知っている。

臆 素敵ですわ二

神威

長話が過ぎたな。まずはあの狸ジジイの弥勒に話を合わせるとするか。アイツもどんな場面で利用できるか分からんからな。

臆、羅刹、うなづく。3人下手に去ろうとするが、

上手から希来李が入って来る。

希来李 お姉様二

羅刹

計画その2、が動いたようでゲスね。ここは私が残るでゲス。神威様は皆がお待ちのはずでゲス。

神威

頼んだぞ。
はっ二

羅刹

神威、希来李には目を合わせず去って行く。

臆、急にワザとらしく病弱そうになる。

臆

まあ、希来李。どうなさったの。そんな恐い顔をして。

希来李 お姉様。私はいつまで自分の身を偽ればよろしいのですか？あの人は・・・可南汰

は等身大の私を愛してくれています。王族の私ではなく、希来李としてみて下さっているのです。私はもうこれ以上、あの方に嘘はつきたくありません。

かわいそうな希来李。月華を探る為の嘘の恋が本当になってしまったのね。でも希来李。どうか耐えてくれないかしら。

希来李 お姉様

私はあなたも知っているように病弱な身。それを常に支えて下さるのが大君。私は大君の力になりたいのよ。

希来李 それは分かりますけど、私は

臃 それに・・・私は今、大君に良く思われていないのよ。

希来李 え！？

臃 私がこんな身体だから、後継ぎさえ出来ない。そんな私に大君の愛は冷める一方。

あなたの協力がなくなったら、私はきつと大君に捨てられる事でしょう。・・・希来李、今のあなたになら分かるはず。愛する者に捨てられるかもしれない恐さが

希来李 お姉様

でも・・・ゴメンなさい。違うわよね。姉の私が、妹の幸せを踏みにじって良いわけがないわよね、いいわ。あなたの想い人に全てを打ちあけてきて。あなたの恋が上手くいく事を願ってる。私は大君に捨てられて、傷心のあまり自殺する事にな

希来李 つても構わない。私はずっと、希来李の幸せだけを祈ってる。二
そんな二自殺だなんて悲しい事言わないでお姉様二私、可南汰も大切だけど、同じ
くらいお姉様も大切なんです。

臙 同じ二あなたが生まれてからずっと一緒に過ごしてきた私が、一年前出会ったハリ
ガネみたいなヒヨロヒヨロ男と同じ二あ、目眩がするわ。手足もシビれてきた。目
を閉じたら川が見える。アレ？向う岸にいるのは死んだおばあちゃんだ。渡っちゃ
え、おばーちゃん二

希来李 お姉様の方が大事二もうすんごい大事二

臙 本当二？

希来李 うん。

臙 じゃあもう少しだけ耐えてくれるわね？

希来李 うん・・・。

羅刹 希来李様、何もずっとと言うわけじゃないでゲスよ。時期がくれば嘘をつかなくて
も良い日が来るでゲス。

希来李 本当ですか？

羅刹 はい。少なくとも現在の状況よりはお二人が一緒になれる可能性が高いと思うで
ゲス。

希来李 どうしてですか？

羅刹

月華の華紅弥様でゲスよ。あれだけ自分の国の事でイッパイイッパイの大君が異国間の結婚なんか認めるわけがないでゲス。その為にはやはり、神威様の三国統一を
実現させるしかないと思うでゲスがね。

希来李

それは・・・。

臆

さ、町娘、希来李の時間はもうお終い。これからは王族としてキッチンとした格好を
しなくては。着替えてらっしゃい。審査委員の方と食事会があるのでですよ？

希来李

・・・分かりました。

希来李、上手に去る。見送る2人。

羅刹

・・・とはいえ、希来李様を利用して月華の情報を得る作戦を考えたのは、臆様
なんでゲスけどね。・・・悪いお方だ。

臆

少なくとも良い人ではないわね。・・・それはあなたが一番良く分かっているで
しょう？

羅刹

・・・はい。

2人、ニヤリと笑って下手にはけて行く。

照明、徐々に暗くなる。暗転になる直前で明かり。

可南汰が下手から入って来る。センターまで移動したあたりで不知火が下手から入って来る。

不知火 おつす。

可南汰 ……ああ。

不知火 昨日は寝れたか？

可南汰 全然。

不知火 大丈夫。面白いって。まだ作ったばかりで慣れてないけど、もう少し練習すれば華

紅弥様も笑ってくれるよ二

可南汰 漫才の話じゃなくて、希来李の事だよ。

不知火 ああ……。まさかあんなに反対されるとはな。……。お前、まさか諦めるつもりじゃないだろうな。

可南汰 そんなわけないだろう。ただ……。出来る事なら華紅弥様にも祝福して欲しいと思う。僕は夫君を裏切りたくない。

不知火 そうだな。……。影星の神威様は国違いの結婚についてどう思ってるんだろう。

可南汰 話してみたいが僕のような地位の者が他国の大君と直接会う事なんて出来ないだろうな。

2人、軽いため息。不知火、何か思いついたように。

不知火 輪廻様だ。

可南汰 え？

不知火 陽炎の輪廻様なら、予定さえ空いていれば他国のものであろうと誰でも謁見が可能と聞いた事がある。

可南汰 本当か！？

不知火 あのお方の場合「ただし、女限定」とか言いそうなのが不安だが、行ってみる価値はあるんじゃないか？

可南汰 輪廻様に相談して、輪廻様から神威様に取りついでもらう！これなら行けるかもしれない！一緒に陽炎まで行ってくれるか！？

不知火 当たり前だろ！

可南汰 不知火！

不知火 可南汰！

可南汰 そうと決まれば、早速、陽炎へ！

2人、上手へ移動しようとするが、目の前に斑鳩。

斑鳩 やめておけ。それも裏切り行為である事に変わりはない。

可南汰 斑鳩様二

斑鳩 今の話は聞かなかった事にしてやる。大人しく新しい漫才の練習でもするんだな。

不知火 斑鳩様二今、この場だけ、立場を捨てて頂けませんか！？

斑鳩 何？

不知火 今、この場だけ、華紅弥様の側近という立場を捨て、男として向き合って頂くわけ

にはまいりませんか！？可南汰は愛する者の為に必死なだけなのです二

斑鳩 男として話しているから聞かなかった事にしようと云ってるんだ二……側

近としてなら今の話、聞いた時点でお前達の首をはねなければならぬ。

斑鳩、刀に手をかける。3人の間に緊張が走る。

突然、水鏡が上手上方から入って来る。

水鏡 おはようございマンモス二

斑鳩、不知火、可南汰、コケる。3人、立ち上がろうとするが、

水鏡 呼ばれてーもないし、飛び出てーもないし、ジャジャジャーンでもない二

3人、再びコケる。水鏡、階段を降りながら。

水鏡 お嬢さん。お入んなさい。．．．結構です。

3人、再びコケる。

水鏡 続きましては下ネタダジャレの連発をお聞き下さい。まずは一発目。「この空港って

斑鳩 国際空港だよね？」。「うん。国際空港。」．．．続いて2発目：「自由か！？」

水鏡 ナイスつつ込み：今のつつ込みナイス：勉強になります。

斑鳩 あなたは影星の道化、水鏡殿。本日はどのようなご用件で？

水鏡 チョイス：二自分、もっと道化として成長したいっつーか。アゲアゲ？ってな感じでいきたいんで一つよろしくっつーか。他国とのコラボも上等ってくらい気合入ってるんで、ゴーゴーゴー。

斑鳩 すみません。分かり易く言ってもらっていいですか？

水鏡 だから自分はー。

斑鳩、刀を少し抜く。

水鏡 武者修行の旅に来ました水鏡です。よろしくお願いします。

斑鳩 武者修行？

水鏡 はい。道化として成長したく、月華の道化の方と笑いについて情報交換出来ればと。

斑鳩 水鏡殿のような伝説の道化が更にも上を目指されるに素晴らしい事です。この斑鳩、感服致しました。我が国の道化は丁度ここに。

斑鳩、可南汰と不知火を水鏡の前に押し出す。

可南汰 どうも。

不知火 ……どうも。

斑鳩 お前達、ちゃんと挨拶を。

水鏡 いやー、どうも、どうもに長い事お笑い対決でやっていますけど、ちゃんと話すのは初めてですよねにいやー月華は道化が二人もいて羨ましいにコンビはやっぱり強いですよ、本当に

不知火 ……毎回、水鏡殿には負けてますけどね。

水鏡 そりゃあんたに場数が違うものにこれでもあんた達の先代と戦ってきたわけだし

ね二その時なんかずつと私が負けてたんだから二

不知火 水鏡殿がですか！?

水鏡 そ。だから、私があんた達に負ける頃に、私が引退するんだろかねって、何でやねん二

不知火 お前が勝手に話すすめてるんだろ二

水鏡 斬新二つつ込みにつつ込みで返す二斬新二勉強になりまーす。．．．お前もなんかしゃべれよ二．．．ってアラ？

斑鳩 如何されました、水鏡殿。

水鏡 あなた希来李様の良い人でしょ？

可南汰 希来李様？

斑鳩 様．．．．。可南汰。お前の恋人はただの召使いではないのか？

可南汰 え？あ、はい。

斑鳩 なのになぜ、国お抱えの道化が只の召使いに「様」を付ける。

可南汰 さあ．．．？

水鏡 召使い？希来李様が？誰かと勘違いしてませんか？

斑鳩 召使いなのだろう？名前は希来李。

可南汰、ゆっくりりうなずく。

斑鳩　ちよと待て・・・希来李？希来李・・・。（水鏡に）確か影星の後の妹も同じような名前でしたね。

水鏡　同じようなも何も、希来李様は影星、大君の一族です。とてもお優しい方ですよ。不知火　どういう事だ？希来李さんが王族って。

可南汰　分らない。

不知火　身分を偽ってたって事か！？

可南汰　何のために！？

不知火　お前から月華の情報を得る為だとしたら！？

可南汰　有り得ない！希来李がそんな事するはずがないだろ！

不知火　じゃあ何で身分を偽る必要があるんだ！？

水鏡　・・・何だか面白くなさそうな会話ですね。それじゃ、私はこれで・・・。

水鏡、上手に去ろうとする。

斑鳩　どこへ行かれるおつもりですか？

水鏡　いや、あの・・・やっぱり陽炎に行こうかと・・・。

斑鳩　そうはまいりません。何故王族の方が身分を偽りうちの者に近付いたのか・・・そ

水鏡
の理由を確かめねばなりません。今の話、華紅弥様にして頂きます。
え！マジンで！？

斑鳩、水鏡をつかまえようとするが逃げる。

不知火 どうする可南汰。本当の事を確かめに影星に行くか？

可南汰 いや、例え身分を偽っていたとしても希来李の愛が真実ならば俺の気持ちは変わらない。それに神威様にお会い出来るのならその時に確かめればいいさ。

不知火 なら予定通りまずは陽炎か？

可南汰 ああ二

可南汰、不知火、一瞬斑鳩の方を見る。斑鳩は水鏡と話をしている。
そのスキに上手に走り去る可南汰、不知火。

斑鳩
（水鏡をつかまえて）よし……。それではお前達も一緒に来い。華紅弥様に報告
だ。

振り返ると2人がいない。

斑鳩 可南汰！？不知火！？

水鏡 あの2人ならさつき城門の方に走って行きましたけど。

斑鳩 何！？アイツら．．．．．仕方ないにまずは報告が先だ。水鏡殿、お付き合い願えますか。

水鏡 どーしてこーなるのー！？

斑鳩、水鏡を引きづりながら下手へ去る。

華紅弥が下手後方から入って来る。後を追うように那由他。階段を降りてセンターへ。

那由他 おはようございます。華紅弥様。

華紅弥 ああ、おはよう。

那由他 どうしたんです、浮かない顔をなさって。

華紅弥 那由他、私には大君としての資質が無いのだろうか。

那由他 え？

華紅弥 この国の民だけではない。陽炎の者も影星の者も、私では国を治められるはずがないと思っっている。私がした事と言えばこの国の法律を厳しくしただけ。．．．．．嫌わ

れて当然だな。

那由他 そんな事ありません。二皆、華紅弥様を慕っておりますし、華紅弥様の為に何かしたいと思っております。お力になりたいと。二私もそうです。・・・・・もう少し周りを信じて頂けませんでしょうか。

華紅弥 信じてはいる。ただ私は大君だ。強くなければならない。

那由他 華紅弥様・・・。

華紅弥 アイドルの件だって、輪廻からの助言はあったが、ちゃんと自分で考えて決めた事。私の責任でやった事だ。

那由他 ・・・・相当ビックリしてましたね。もう少し事前に何か教えておいた方が良かったのではないですか？

華紅弥 サプライズだ。

那由他 華紅弥様、サプライズをはき違えています。

華紅弥 ただ、事前には情報は与えたぞ？先に衣装を渡しておいたからな。

照明、切り換わる。(過去の明かり) 下手後方から琴音、胡桃が入って来る。

琴音 胡桃ちよーウケる。

胡桃 ウケません。似合ってます。二琴音ちゃんだって、その身長でその肩幅ってバランス

おかしくない？
ヒドーイ！これでも気にしてるんだからね！！

玲亜、上手後方から入って来る。

玲亜 うわ、着てるし。ちゃんと着てるし！！

胡桃 玲亜ちゃんだっけ着てるじゃん！！

琴音 足ほっそ…！そして何かエロ…！

玲亜 エロとか言わないで…！

琴音 ね、ね、胡桃見てみ。ちよーウケるから。

胡桃 ウケません、似合ってます…！

玲亜 んー、微妙。

胡桃 ショックだー、玲亜ちゃんにまで言われたー。

玲亜 嘘、嘘。可愛い。似合ってる。

胡桃 ホント？

玲亜 うん。

琴音 華紅弥様からプレゼントもらえるのは嬉しいけど、こんな格好してたら守護者としての使命まっとう出来ないよね。

胡桃 見せパンでもはく？

琴音 あ、ひよっとしてあれじゃない？色気で敵を惑わすとか！

玲亜 色気ゼロの私達にそれは期待してないんじゃない？・・・何だろ、自分で言っていて涙出てきた。

華紅弥 着替えたか？

琴音 あ、華紅弥様！

琴音、胡桃、玲亜、下手から階段を降りて華紅弥の近くに移動。

玲亜 あ、華紅弥様。この服はいいわ・・・。

華紅弥 お前達は今日からアイドルだ。頑張れ！

3人 はい！・・・はい！

華紅弥 歌って踊るんだ。今日から特訓だぞ。

胡桃 守護者の任務はどうするんですか？

華紅弥 解く。これからは自分の身は自分で守る。考えてみれば自分より弱い者が守護出来るわけがないからな。

那由他 華紅弥様、もう少し言い方というものが・・・。

華紅弥 いや、こういう話をする時は変に慰めの言葉をかけても未練を残すだけだ。気持ち

を切り替える為にもハッキリ言つた方が良いだろう。

琴音

華紅弥様……華紅弥様は8年前、身寄りのない私達3人を城へ迎え入れてくださいました。本当に感謝しています。ですから、華紅弥様に命を捧げるつもりで守護者として日々、鍛練してきましたんです。私達は確かに華紅弥様より弱いかもしれませんが、ですが私達にも守護者としての誇りが………!!

胡桃

望むところですよ!!

琴音

望んじやったよ!!

玲亜

あの、一つ質問が。

華紅弥

何だ?

玲亜

アイドルはやりがいのある任務なのでしょうか?

華紅弥

勿論だ。月華の民……いや、この大陸に生きる全ての人々に癒しを与えるのだ。

平和の為に。私はお前達だからこそ、この任務を任せようと思つているんだ。

那由他

成程、そういう事なら全面的に協力しましょう!!

3人

コラコラコラ!!

那由他

どこかの大陸では「ライブ」というものが流行っているそうです。一ヶ所に大勢の人々を集め、そこで歌うのです。

華紅弥

流石、助言者だな。

那由他

ついでに入場料をとって稼ぎましょう。

琴音 完全にビジネスじゃないですか！

胡桃 望むところですよ！

琴音 あんたのモチベーションどっから来るの！？

玲亜 それで、ライブはいつやるんですか？

那由他 今すぐ。

3人 今すぐ！？

照明切り替え。琴音、胡桃、玲亜、上段に昇って歌う。歌っている途中、客が一人ずつ増えていく。

曲の間奏でボリュームダウン。

玲亜 段々お客さんの数増えてきたね！

胡桃 正直、最初にアイドルやれって言われた時は「大君、マジか！？」って思ったけど、

今はこれしかないって感じ！

琴音 チヤホヤされるのって最高に気持ち良いもんね！

玲亜 私はお客さんの笑顔が一番だけど。

琴音 あー、なんか優等生発言！

胡桃 私もそうだよ？

琴音　ちよつと……そーゆー裏切りなし！！3人でミルキーエンジェル！！

玲亜　……でも……

琴音　うん。分かつてる。

胡桃　いざという時にはどんな事があっても華紅弥様の為に命をはる覚悟は出来てる。

3人　少なくとも今は、華紅弥様が望むのなら、私達はアイドルであり続ける……

再びライブに戻る。盛り上がる。歌の終わりです3人、お辞儀。

客は上手、下手と楽しそうに去る。

琴音　今日も盛り上がったね。

胡桃　やっぱりライブは最高……

玲亜　汗かいちゃった。着替えよ？

胡桃　私、華紅弥様と那由他様にライブが終わった事、報告してくる。

玲亜　じゃ、3人で行く。

琴音　玲亜はダメ。あんた最近風邪気味なんだから早く着替えな。この後新曲のバラードの練習もあるんだし。

玲亜　分かった。じゃ、着替えて楽屋で待ってるね。

胡桃　了解。

琴音、胡桃、階段を降りて下へ。セリフは入れないが、2人が華紅弥へ報告しているマイム。玲亜は楽屋へ入るマイム。

姿見があるのか、振り付けの動き等を確認。ある程度満足がいった所で帽子を取る。その瞬間は気付かないが、視界に違和感を感じ、鏡を見る。凍り付く玲亜。間を置いて悲鳴。

その声を聞いた華紅弥、那由他、琴音、胡桃、階段を上がる。

口々に玲亜の名前を呼んだり、「どうした!」等の心配をする。

玲亜、ドアが開かないようにドアノブを押さえる。

華紅弥 玲亜どうした! 大丈夫か!?

玲亜 ご心配おかけして申し訳ありません。少し疲れただけです。

胡桃 疲れてあんな大声出すわけじゃないじゃん! 何かあったの?

玲亜 別に何も無いよ。

琴音 玲亜!!

玲亜 本当に何でも無いの。疲れただけ。だからしばらく一人にして欲しいんだけど。

華紅弥 玲亜、何かあるなら言ってくれ。私で力になれる事なら何でもしてやる。

玲亜 ……ありがとうございます。嬉しくて泣きそうです。

華紅弥 ここを開けてくれないか。

玲亜 華紅弥様……。しばらくそっとしておいてもらえますか。

胡桃 悩みがあるなら聞くよ！

琴音 私達に不満があつたなら謝るから……

玲亜 お願ひ！……しばらく一人にして？……お願ひ。……お願ひだから。

胡桃 でも……

華紅弥 分かつた。お前が本当にそれを望むならそうしよう。だが、これだけは覚えておいてくれ。私達はいつだって、どんな事があつたつて玲亜の味方だ。

玲亜、その言葉に一瞬ドアを開けそうになる。が、思い留まる。

4人は階段を無言で降りる。

玲亜

……分かつてる。皆なら、私が清浄の民でも受け入れてくれるはず。……でも、それでもやっぱり怖い。もし拒否されたら……。私には居場所がなくなってしまう。

玲亜、帽子を拾って。

玲亜

それに、皆に受け入れてもらつたとしても、大勢の人達は違ふ。清浄の民をアイドルとして見れるわけがない！私が居れば皆に迷惑をかけてしまう。……私は……

バラード調の曲が流れる。玲亜のソロ。

途中から琴音、胡桃も歌いだす。(玲亜の方を見て)

玲亜、歌いながら階段を降りる。琴音、胡桃と玲亜、向かい合う。

歌の終わりと同時に琴音、胡桃は下手へ、玲亜は上手へ去る。

照明切り替え。

那由他

それからしばらくして楽屋に戻ってみると玲亜の姿はなく、再開が次の交友会でまさか陽炎として対決することになるとは思いませんでした。

華紅弥

アイドルの任務を楽しんでくれていると思っていたのだが。内心は嫌々だったのだろうか。

那由他

私の目にも嫌そうには見えませんでした。

華紅弥

……私では相談相手になれんか……。民はおろか、近くにいる者の力にもなつてやれないとは……。力があつても活かしきれないというのは齒がゆいものだな。

那由他

華紅弥様。

斑鳩が水境を連れて下手から入って来る。

斑鳩 お話し中申し訳ありません。緊急のご報告が。

華紅弥 どうした。

斑鳩 可南汰の相手の素性が少々怪しいようです。

華紅弥 怪しい？

斑鳩 はい。こちら、影星の道化、水境殿の話によりますと、可南汰の相手、希来李という者は王族の者なのだそうです。しかし、可南汰はそんな事は聞いておらず、召使いだと言われているようです。

華紅弥 希来李が王族というのは本当なのか？

水境 え？あ、はい・・・希来李様とは小さい頃から遊び仲間というか、そういう間柄です。いろんな話を聞いてましたから。月華に想う方がいらっしやって会えないのが辛いと。

斑鳩 身分を偽る理由がありません。何かあるとは思いませんか？

那由他 身分の違いに可南汰が委縮しないように配慮したとは考えられませんか。

斑鳩 確かにそれも考えられます。でもそれなら問題はあります。双方の大君の判断もありますが、2人の考えや気持ちで済む話です。しかし、そうではなく、

華紅弥 影星から月華へ遣わされた密偵であつたなら――。

那由他 まさか！？

斑鳩 至急事実確認をすべきかと。

華紅弥 可南汰はどうした。

斑鳩 それが……私が少し目を離れたスキに逃げられました。おそらく陽炎に向かつてと思われます。

華紅弥 ……陽炎に？影星ではなく。

斑鳩 輪廻様から神威様に取り次いでもらうのが目的です。

華紅弥 何故そこで輪廻が出てくる！？

斑鳩 それは……。

華紅弥 それは？……遠慮するな。ハッキリ言え。

斑鳩 それは……輪廻様なら話を聞いてくれるからと。

華紅弥 ……何？

斑鳩 私の考えではありません……あくまで可南汰の考えです！私含め他の者でそんな考えを持つ者は一人もおりません！……ご安心ください……！

華紅弥 ……そなたが月華にきたのは？

水鏡 道化の修行の為です。

華紅弥 場内の者に部屋を用意させよう。ゆっくりするといい。

水境　ありがとうございます。

華紅弥　斑鳩。準備をしろ。陽炎へ行くぞ！！

斑鳩　陽炎ですか！？

華紅弥　重要なのは人の流出だ。

斑鳩　それは分かりますが、しかし！！

華紅弥　急げ！！

斑鳩　・・・かしこまりました。

華紅弥　那由他は水境を誰かに任せたら城門まで来い。一緒に行くぞ。

那由他　分かりました。

斑鳩、下手階段から上に昇り下手後方へはける。

華紅弥、那由他、水境、下手へはける。照明切り替え。

上手から玲亜、悠奈、修羅が入って来る。遅れて輪廻。輪廻は目隠し状態。

3人、「鬼さんこちら」と言いながら逃げる。修羅が輪廻の前に来るが、輪廻はよける。玲亜と悠奈を追う。しばらくその繰り返し。

やがて、輪廻、玲亜をつかまえて、

輪廻　つかまえた！！この感じは・・・玲亜だな！！

玲亜
当たりです！

玲亜、その場に立ち止まる。再び修羅が目の前に行くが、輪廻、サツとよける。

修羅
輪廻様には何かセンサーでもついてるんですか？

輪廻
つかまえた！このプニプニ感は……悠奈だな！

悠奈
当たりです！

輪廻
あと誰かいたっけか？

修羅
いますよ！

玲亜
美女がいますよ、美女が！

輪廻
美女！よくし、絶対つかまえてやる！！

輪廻、再び辺りを探しはじめる。竜斬丸が下手から入って来る。

輪廻、竜斬丸の顔をつかむ。

輪廻
おっ！誰かいた。……ん？何だ？こいつい顔だな。それに剃り残しもあるぞ。いかなー。手入れもちゃんと出来ない悪い子は誰だ！？

輪廻、目隠しを取る。竜斬丸のアップ。輪廻「オエー」とダメージ。

竜斬丸 輪廻様……

修羅 竜斬丸さん、どうしたんです？

竜斬丸 失礼しました。輪廻様に客人です。

修羅 客人？今日は随分来客がありますね。

竜斬丸 月華の大君がいらしています。

輪廻 華紅弥が来てるのか……マジで……？

竜斬丸 はい。

輪廻 3ヶ月待ちきれなくて会いに来たとか……可愛いところあるじゃねエか……華紅弥……！！

下手から華紅弥が凄い勢いで入って来る。後から斑鳩と那由他。

華紅弥 輪廻……！！

輪廻 (引きながら) 何、何、何？

華紅弥 月華の者がここに来ているだろう……？

輪廻 (玲亜を指差しながら) ん？

華紅弥 違う、玲亜ではない。ウチの道化2人だ。

輪廻 ああ、まあな。

華紅弥 今すぐここへ連れて来い！

修羅 華紅弥様。お言葉ですが、あの2人は我々が呼んだわけでも、まして引き抜きをしたわけでもないのです。何故そのような命令口調で言われたいいけないのでしょうか。誰であろうとこの国に来た者は皆客人。もてなす決まりがあるのです。そうですよね？

輪廻 うん……

斑鳩 そのもてなしで上手く取り入ろうとしているのでは？

修羅 愛国心さえあればどんなもてなしを受けようとも心変わりするものではないでしょう。

斑鳩 陽炎にいる者には揺るぎない愛国心があると？それでは給料が今の倍、毎日美味しいもの食べ放題という条件を我が国が出しても心は全く揺らがないという事ですね？

一瞬間。修羅、竜斬丸、玲亜、悠奈が下を向く。

輪廻 おーい！

斑鳩 見上げた忠誠心ですね。

那由他 斑鳩様。私達は言い争いをしに来たものではありません。……輪廻様、失礼しました。我が民のわがままでそちらに御迷惑をおかけ致しました。お詫びは後日。まず2人を連れて帰らせて頂きます。

輪廻 あのと2人は俺を頼って相談に来たんだ。無下には出来ん。

華紅弥 何故、玲亜といい可南汰といい、お前の所へ来るんだ……

輪廻 俺に言われても……。

華紅弥 どうして大君である私の言うことが聞けないんだ……民の為にどれだけ努力したと思っている……私のどこが悪いと言っただ……輪廻より私の方がよっ……ぼど国の事を思っているはずなのに。なのにどうして私じゃない……どうして……違っ……国の大君に……どうしてお前なんだ。

静寂。華紅弥、下を向いて固まっている。(もしくは輪廻の襟首をつかむ。)

輪廻 ……悪いが2人だけにしてもらえないか。

竜斬丸 しかし……

輪廻 大丈夫だ。

斑鳩 何をする気ですか？

輪廻 心配するな。少し話しをするだけだ。

斑鳩 話をするだけならこのままでも構わないのでは？

那由他 斑鳩様。

斑鳩 2人にするわけにはいきません。華紅弥様は疲れてらっしゃるようですから交渉は

我々で進めるべきです。

華紅弥 斑鳩。

斑鳩 はい。

華紅弥 席を外してくれ。

斑鳩 華紅弥様二

華紅弥 (背を向けたまま) 斑鳩。

斑鳩 かしこまりました。

斑鳩、那由他、下手階段を昇る。修羅、竜斬丸、玲亜、悠奈上手階段を昇る。

輪廻 こうして2人だけで話すのは華紅弥が大君を継いで以来だな。

華紅弥 余計な話が良い。あの2人はどこにいる？

輪廻 余裕ないな。そんなんじや何やっても楽しくないだろ。

華紅弥 楽しいかどうかで国は治められない。違うか？

輪廻 だが楽しいにこした事はない。違うか？

華紅弥 それは……。

輪廻 華紅弥は何でも自分でやりすぎなんだよ。もっと色々部下に任せてみる。

華紅弥 それで何かあったらどうする！？

輪廻 華紅弥が責任取ればいいだろ？

華紅弥 何故私が……

輪廻 大君だから。……厳しい事を言うようだが、今の華紅弥は民の為に働いているようには見えない。自分が大君である事の評価を恐れて視野が狭くなってる。人は人についてくるもんだ。今の華紅弥じゃ、華紅弥という人が見えてこない。

華紅弥 お前はそうやっているのか？

輪廻 ま、俺なりのやり方だな。

華紅弥 陽炎の民は皆、お前の事が好きなのか？

輪廻 自信ない……

華紅弥 ダメじゃないか。

輪廻 だが民は笑っているぞ。それでいい。

華紅弥 民が笑えばそれでいいか……そうだな。

輪廻 だろ？なに何故異国間の結婚を認めないんだ。

華紅弥 民が減れば国力が下がる。

輪廻 相手が月華に来る可能性もあるだろ。

華紅弥 可能性で認められる事ではない。

輪廻 そんなんだから誰も相談できなくなるんだ。民は人だ。ちゃんと目を見て話してるか？道具や駒としてでなく、人として接してるか？

華紅弥 当たり前だ。

輪廻 じゃあ何でお互いに想い合う2人の仲を割くような事をする。大切な人を失うつらさが分からないのか？

華紅弥 恋などくだらん。

輪廻 素直じゃないな。俺がいるだろ？

華紅弥 ・・・・(冷たく) はあ？

輪廻 おつと想定外のダメーシだ。・・・よし！こうしよう！1週間、俺に仕えてみないか？

華紅弥 ・・・・何だと！？

輪廻 俺に仕えている間に俺に惚れさせてみせる。二そうすればもう少し人の言葉に耳を貸すようになるだろ。

華紅弥 正気か？

輪廻 アレ？恐い？恐いの？俺に惚れちゃって自分が自分じゃなくなるのが恐いんだ。

華紅弥 安っぽい挑発だな。・・・だがいいだろう。その挑発にのってやる。1週間だな。だがそれだけでは公平とは言えない。私がお前に惚れなかつたらどうする？それなりのものを賭けてもらわないと合わないが？

輪廻 んー……。じゃあ、この国をやる。

華紅弥 何？

輪廻 陽炎をやる。

華紅弥 ……大した自信だな。

輪廻 この国が華紅弥のものになって、俺が傍にいられるならそれで有りだ。

華紅弥 私がこの国の大君になったらお前など辺境の地へ飛ばしてやる。

輪廻 賭け成立だな。昼間は月華で仕事して夜はこっちで召使いとして働いてもらう。

華紅弥 釈然としないが分かった。……それで、

輪廻 あ、それから、例の道化2人だが、とつくに月華に帰したからな。たった一回反対されたくらいで泣きつくような奴に力は貸せん！つてな。

華紅弥 何！？

輪廻 じゃ、明日の夜から頼む。ウチのモンに華紅弥と分らないように変装してもらうからな。

華紅弥 待て。

輪廻 何だよ。賭けは成立したろ？

華紅弥 最低だな。お前最低だぞ。最低だ。

輪廻 じゃ、楽しみに待ってるから。

華紅弥 斑鳩、那由他。

斑鳩、那由他、修羅、竜斬丸、玲亜、悠奈降りて来る。

華紅弥 話は終わりだ帰るぞ。

斑鳩 華紅弥様、いかがされました？

華紅弥 何でもない。最低だ。お前最低だ。

華紅弥、一人言のようにブツブツ言いながら下手方向へ。華紅弥、輪廻の方を振り返り、

華紅弥 最低だ。

華紅弥、下手へ去る。それを見た斑鳩、那由他、輪廻の方に向かって、

2人 最低だ。

斑鳩、那由他、下手へ去る。

修羅 よろしいのですか、あのような賭け。

輪廻 やっぱり聞いていたのか。……もしかして斑鳩や那由他も？

玲亜 いえ、あの2人は盗み聞きなんてしなれないと思います。

輪廻 でもお前はするんだな。

玲亜 テへっ！

輪廻 もー玲亜、カワイー！

悠奈 大君！

輪廻 冗談だって。ちよつとさわつただけじゃん。

悠奈 そうではなく、何故あのような賭けを？どうして輪廻様がそこまでする必要あるんですか。

修羅 賭けに負けたらこの国は……。

竜斬丸 俺はあの大君に仕えるつもりはありませんよ。

悠奈 道化が三人というのもちよつと。

玲亜 私もこんな形で戻るといのは。

輪廻 俺が負けるの前提で話進めるのやめてくれる？

4人 はっ！

輪廻 大丈夫だって。もしそうなくてもお前達の立場や環境はちゃんとしてもらうから。

悠奈 そういふ事じゃありません！

輪廻 さつきから恐いよ。何怒ってんだ？

悠奈 私は別に……。

輪廻 とにかくもう決まった事だ。悪いが明日から皆も話を合わせてくれ。

全員、個々に「はい」「分かりました」等と返事。

輪廻 よし、じゃあ各自持ち場へ戻れ。

修羅、竜斬丸、玲亜、上手へはける。輪廻、下手へはけようとする。

悠奈 輪廻様。

輪廻 (振り返り)……何だ？

悠奈 輪廻様の自由は時々人を傷つけます。慕えば慕う程、深く傷つけます。私は……私達は輪廻様が大君だから仕えているわけではありません。輪廻様が輪廻様だからついて行くのです。

輪廻 ……すまないな。

悠奈 ……何故謝るのですか？

輪廻 そうだな。……ありがとう。

悠奈、更に言葉を続けようとするが何も言えず下を向く。

輪廻
悠奈？

悠奈
何でもありません。お呼び止めて申し訳ありませんでした。

輪廻
……そうか。

輪廻、下手へ去る。その背中を目で追う悠奈。

悠奈
謝らないでください。謝らなければならないのは……私の方なのですから。

悠奈、上手後方へ去る。

神威と弥勒が上手から会話しながら入って来る。

銀狼丸、羅刹、朧、希来李、社、霞、凧が続き、更に後ろに緋巫佳。

神威
弥勒ちゃん昨日は凄かったわ。超激しくて二

弥勒
皆で宴会をしただけです。誤解を招くような発言は控えて頂けますか。

神威
（盛り上げ隊の三人に）あなた達も最高だった。おかげで楽しい一夜だったわ。

弥勒 まあまあ。……お前達やりきったか？

3人 はい二

弥勒 よーし、じゃあはけて良し。

3人 失礼します二

3人 お辞儀して下手に去る。

社「盛り上げ隊くファイ」2人「おー」社「ファイ」2人「おー」と言いながら。

弥勒 いやー、影星は居心地が良くてつい一泊してしまいました。華紅弥様や輪廻様には内緒ですよ？

神威 分かっているわよ。無理に誘ったのは私って事で。

弥勒 いや、本当に神威様は器の大きな方だ。その器一国の大君では収まりつかないのでは？

神威 あら、弥勒ちゃんもそう思う？じゃあ大陸統一しちゃおうかな。

弥勒 おお二そのような大きな野望、私のような平凡なる者には到底思いつきませぬ二では野望が成された時には私にその国の法律を作らせては頂けませんか。

神威 法を？

弥勒 はい、是非二

神威 まあ別に良いけど……それまでに報酬に見合う動きはしてもらわうわよ？
弥勒 もちろんです。

神威、弥勒、2人顔を合わせた後静かにそして徐々に大きく笑う。

弥勒 いやー神威様も冗談がお上手ですね。

神威 弥勒ちゃんだって。

弥勒 おっとまだ昨晚頂いた酒が残っているようです。

神威 ま、そうは言っても私冗談は嫌いじゃないわ。

弥勒 ……私もです。さて、それでは流石にそろそろおいとましましょう。……

神威様、ご連絡お待ちしてます。また打ち合わせのお時間を下さい。
分かったわ。

弥勒、下手へ去る。

羅刹 あの狸オヤジの目的が分かったでゲスね。

神威 新しい国の法律を作らせる、か。

羅刹 何故法律を？

神威 あの前男の欲しているものは金と権力だろう。しかし絶対的な権力者として大君が存在する。とすれば次に権力を握るのは法を作り出す者だ。

羅刹 セコイ考えをする野郎でゲスね。

神威 セコイ？俺は利になつていと思うが？

羅刹 あ、いや、まあ……それでゲスね。それより三国にとって公平であるはずの審査委員会を引き込んだのは大きいでゲス。そうだな。

羅刹 これで三国統一の野望に一步近づいたでゲスよ。この大陸全ての民が大君にひれ伏し、絶対の服従を誓うでゲス。想像するだけで笑いが止まらんでゲス。シエシエシエシエシエ。

神威 羅刹。

羅刹 何でゲしよ？

神威 お前何か勘違いしてないか？

羅刹 と仰いますと？

神威 三国統一は民を支配する事が目的ではない。この大陸に生きる者全ての意志統一を図りたいだけだ。真の平和を築く事が出来れば極端な話し、大君は俺じゃなくても構わないと思つてゐる。

羅刹 えんという事は華紅弥様や輪廻様が統一大君になられても？

神威 その素質があればの話だ。俺はな羅刹。才能というものは血ではないと思つてゐる。王族だから大君になるなどバカバカしい。民をより良い道へ導く事が出来る者こそ大君になるべきだ。俺は先々民が大君を決める事が出来る制度を作ろうと思つてゐる。

臆 民が大君をですか。

神威 民あつての国だ。その舵取りをする大君を民が選ぶというのも面白いだろ？ 誰しも大君になれる可能性を持つ。俺はそんな国が作りた。

臆 ちよつと目眩が……。

神威 臆、大丈夫か。

希来李 素晴らしいお考えです、神威様。

神威 賛同してもらえるか。

希来李 はい。ただ……何故そのような素晴らしいお考えを持った大君が、今回のようなご指示をなされたのです。

神威 何？

希来李 私の身分を隠すというのはイタズラに混乱をまねくだけだと思ひになられませんか。

神威 希来李。お前には苦しい思いをさせてしまいすまないと思つてゐる。だが目的の為に手段を選んでいる余裕はない。もう少し耐えてくれないか。

希来李 ですが二

臙 ゴホツゴホツにああ、頭がに胸がに

希来李 お姉様！

臙 希来李、お部屋へ連れて行ってちょうだい。苦しくて死にそうよに

臙、希来李の腕を「むんず」と掴んで下手に去る。

神威 ・・・・今、病人が看護人を引きずってったよな。

羅刹 神威様。

神威 何だ。

羅刹 他の大君は今の神威様のお考えについてどう思うでゲスかね。

神威 分からん。同じ思いであることを願うだけだな。ただ・・・。

羅刹 ただ？

神威 華紅弥や輪廻が俺の考えを理解できないというなら仕方ない。潰すまでだ。……………

緋巫佳の助言により、三国統一の具体的な計画も練れた事だしな。

緋巫佳、無言でお辞儀。

神威 3ヶ月後の交友会が楽しみだ。銀狼丸、お前はとうする。こんな悪だくみをする大

君の元では働く気を失ったのではないか？

銀狼丸 俺は金だ権力だなんてのはよく分かりませんし、興味もありません。俺の目的は只一つ。竜斬丸に勝つ事。その機会を作ってくれるというなら、大君を守ります。

神威 俺の為に命をかける等というような言葉よりは信じられるな。頼んだぞ。
銀狼丸 はい。

神威、羅刹、下手に去る。

緋巫佳 銀狼丸様。

銀狼丸 様はやめて下さい。位は緋巫佳様の方が上です。

緋巫佳 しかし、私は昨日から仕えている新参者ですから。

銀狼丸 日が浅いのは俺も同じです。

緋巫佳 では何とお呼びすれば。

銀狼丸 呼び捨てて頂いて結構です。

緋巫佳 そういうわけには……やはり様を付けさせて下さい。

銀狼丸 どうしてもとおっしゃるなら、お好きに。

緋巫佳 ……銀狼丸様は、清浄の民である私と普通に接するのですね。

銀狼丸 良く分かります。そういうのが。髪が赤かろうと緋巫佳様が頭が良いのは事実

です。それに普通というのであれば、大君も含め皆、普通に接しているように見えますが？

緋巫佳　・・・そうですね。

銀狼丸　ところで俺に何か？

緋巫佳　銀狼丸様にはどうしても勝ちたい方がいらっしやるのですよね。

銀狼丸　・・・はい。

緋巫佳　陽炎の守護者ですか。遠くから見ても分かりました。凄くお強い方だというのが。

銀狼丸　里の幼なじみなんです。俺はアイツに勝った事がない。

緋巫佳　この薬を使ってみてはいかがですか？

緋巫佳、小ビンを取り出す。

銀狼丸　それは？

緋巫佳　知識を求める者なら誰もが研究する薬の一つです。人間の能力を最大限まで引き出す薬。これを飲めば必ず勝てます。黄泉の剣とまではいかないまでも人を超える事が出来るのです。

銀狼丸　それを飲めば・・・？

緋巫佳　はい。銀狼丸様のお役に立てればと思い、ご用意しました。

銀狼丸 ……………折角ですが緋巫佳様、それは必要ありません。

緋巫佳 え？

銀狼丸 こんな俺にもちつぽけですが誇りがありましてね。お気持ちはありがたいのですが、

やはり自分の力でどうにかしたいと思うのが男というものです。

緋巫佳 ……そうですか……………そうですね。申し訳ありません。差し出がましい事

をしてしまいました。

銀狼丸 いえ、本当に緋巫佳様のお心は嬉しく思います。

緋巫佳 そうおっしゃって頂けて何よりです……………それでは失礼致します。

緋巫佳、上手へ去る。

銀狼丸 そう……………俺は俺で勝たなければ意味がない。俺のまま勝たなければ意味

がない……………だが、果たして本当にそうだろうか……………俺は……………。

銀狼丸、結論に悩むが一つの答えを決めて上手へ去る。照明切り換え。

華紅弥、斑鳩、那由他、が下手後方より入って来る。階段を降りてセンターへ。

続いて後ろから琴音、胡桃、可南汰、不知火、水鏡が入って来る。

華紅弥、斑鳩、那由他はセンターで三角形に座る。その他は立っている。

華紅弥 今日の会議の議題は何だ。

斑鳩 本日は道化、可南汰と不知火の処遇について。2点目がアイドル、ミルキーエンジ

エルの今後について。そして、先日の大雨により土砂崩れが起こってしまった村の対応についてです。

華紅弥 全く、国おかかえの道化が議題を増やすなど言語道断だな。

可南汰 申し訳ありません

不知火 すみませんでした

華紅弥 悪いと思うなら道化としての腕を上げるしか挽回の方法はないぞ。とりあえず水鏡に笑いの基礎から教えてもらえ。．．．．水鏡。

水鏡 はい。

華紅弥 基礎を一から人に教えるというのもお前の成長につながると思うのだが．．．．頼めるか？

水鏡 はい、喜んでニビシバシ鍛えてやりますよ

華紅弥 任せたららな。次に．．．。

斑鳩 華紅弥様。

華紅弥 何だ。

斑鳩 それだけですか？

華紅弥 何がだ。

斑鳩 この2人は他国の大君を頼ったのですよ！？処罰して然るべきでは！？

華紅弥 他国へ行って話をしてしまっているからの処遇だ。輪廻達はもう事情を知ってしまっているんだぞ？それで重い罰を与えてみる。それこそ笑いだ。

斑鳩 そうかもしれないませんが、しかし！

華紅弥 その分、水鏡にシゴイてもらおうとしよう。

水鏡 任せて下さい！

不知火 目茶苦茶嬉しそうだ！

華紅弥 ついでに言っておくが、これから一週間、各自の業務は午後6時までとする。

斑鳩 何故です！？急にどうしたんですか！

華紅弥 あまり聞くな！色々事情があるんだ！とにかく、日々の業務は午後6時まで。それ以降は自由とする。

琴音 やった！

胡桃 たくさん遊べるね！

華紅弥 ただし、一週間だけだからな！

2人 は、はい！

華紅弥 で、次は・・・。

斑鳩 ミルキーエンジェルの今後についてです。

華紅弥 今後か。お前達も玲亜が居なくてショックなのは分かるが、もう少し頑張らないとな。

琴音 すみません……。

胡桃 でもどうしても乗り切れないんです。正直、歌は玲亜ちゃんです。持っているようなものなので。

華紅弥 だが琴音や胡桃にもファンがいるんだ。今のライブの出来はファンに申し訳ないと思わないのか？

琴音 それは……はい。

華紅弥 3人で歌ってきた歌だから気分がノラないだろう。2人だけの新曲を作れ。それが一番だと思いがな。

胡桃 ……分かりました。

華紅弥 で、最後は土砂崩れの村か……。死者は出たのか？

斑鳩 いえ、幸いにも死傷者は出ませんでした。家屋倒壊により生活困難者が百人程出ているようです。

華紅弥 問題となっているのはその者たちの生活の場か？

斑鳩 はい。それと村の建物自体が老朽化しておりますので、今回壊れなかった建物もいつ崩れるか……。

華紅弥 分かった。まずはその村を視察しよう。この目で確かめてから判断する。

斑鳩 本日はこの後、交友会に要した費用の精査会議の予定ですが、
華紅弥 では明日、早朝に出る。

那由他 明日は来季の介護予算に関する打ち合わせが入っております。
華紅弥 では、

斑鳩 華紅弥様。予定は10日先まですでに埋まっております。

華紅弥 10日後に視察に行けばよいだろうか？

那由他 その間、住む場所のない者はどうするんです。

華紅弥 そうか・・・んー・・・百人だったな？よし、城に連れて来い。その位の人数増え
ても3ヶ月持っただけの蓄えはあるだろう？

斑鳩 確かにありますが、華紅弥様！

華紅弥 ならそうしろ。通達を出し、城へ移動するよう指示しろ。

斑鳩 ・・・・かしこまりました。

華紅弥 あっ！

斑鳩 どうされました！？

華紅弥 城の外壁工事の見積もりが届いているはずだ。確認せねば。

華紅弥、下手へ去る。可南汰、不知火、水鏡、琴音、胡桃も後を追って去る。

那由他、一瞬斑鳩を見てから、下手へ去る。

斑鳩

華紅弥様……あなたはいつも前を向いておられる。その背中を見る者の存在などに止めた事もない事でしょう……。俺ではダメなのですか？……俺では頼りにならないのですか！……俺にはあなたが望むなら全てを捨てる覚悟があるのに何故……。自分のものでありながら自由には出来ないものだな。心というものは……。ましてそれが人の心なら尚更か。

斑鳩、下手へ去る。照明切り換え。

輪廻、修羅、竜斬丸、悠奈、玲亜が入って来る。

玲亜

華紅弥様が本当に来るなんて……。

輪廻

真面目な奴だからな。どんな事でも一度した約束は必ず守るさ。

玲亜

個人的には凄く落ち着かないんですけど。

修羅

ここでは身分を隠していくようですから、気にしない方がいいですよ。あまりギョ

ちないと全部バレてしまいますから。

玲亜

そうですね……。

悠奈

でもどうやって正体を隠すんです？

輪廻

変装だ。普段の華紅弥じゃ考えられないような格好をしてみよう。

竜斬丸 ひよっとして遊びたいだけじゃ……。

輪廻 否定はしない。

華紅弥、メイド服を着て下手から入って来る。

華紅弥 何が否定しないんだ？

全員 おお！？

玲亜 (輪廻に) 何て格好させるんですか？

悠奈 (輪廻に) コスプレがお好きだったのですね？それならそうと早く私に言って下され

ば？

輪廻 違う、違う？それつきとした召使いの制服だ。

2人 そうなんですか？

輪廻 とりあえず紹介しよう。今日からこの城で召使いとして働いてもらう華紅……
あー。えーと。

輪廻、華紅弥を連れて少し離れる。

輪廻 流石に本名を名のるわけにはいかないしな。どうする？って、何だか顔が赤いぞ。

照れてるのか？

華紅弥 照れも確かにある。が、満更でもない自分もいる。

輪廻 マジか！？

華紅弥 輪廻。このメイド服というのは悪くないぞ。

輪廻 反応が予想外すぎて何て答えればいいか分からん。

華紅弥 うむ。私自身も予想外だ。これでお前の召使いなんかじゃなければ最高なんだがな。

輪廻 待て待て。召使いなんだから言葉使いには気をつける。バレルぞ？

華紅弥 それはマズいな。よし、こうしよう！これから話す時は語尾に「にゃん」をつける。

輪廻 何！？

華紅弥 例えば「お疲れ様だにゃん」とか「頑張るにゃん」というようにだ。

輪廻 どうしちやっただお前。

華紅弥 それから名前だがな、プリンちゃんで行こう！

輪廻 俺が悪かった。頼むから帰ってきてくれ。

華紅弥 ダメだ。決定だ。それで行く。さ、私を皆に紹介してくれ。

華紅弥、輪廻を強引に皆の方へ連れて行く。

輪廻 あー。改めて紹介する。今日から召使いとして働いてもらう……プリンだ。

一瞬の静寂。次の瞬間、修羅、竜斬丸、悠奈、玲亜、ザワザワしはじめる。

輪廻 俺が名付けたんじゃないもんね……プリン、皆に挨拶だ。

華紅弥 はい！今日からお世話になるプリンちゃんです……よろしくだにゃん……

一瞬の静寂。次の瞬間4人、ザワザワする。

輪廻 俺の指示じゃないもんね……とにかく皆、仲良くしてくれ。

4人、「はい」と返事。

修羅 私は大君の側近の修羅と申します。分からない事がありましたら何でも聞いて下さいね。

竜斬丸 自分は守護者の竜斬丸だ。よろしく。

悠奈 道化師の悠奈です。

玲亜 えーと、……居候の玲亜です。

華紅弥 居候？

玲亜 あ の、いろいろありまして。

輪廻 ま、挨拶なんてそんなもんでいいだろ。早速会議を始めるぞ。

華紅弥 会議？今からにや？

輪廻 俺達陽炎の国では夜に会議をやって明日の行動を決めるんだ。その方が朝一から動けるだろ？

華紅弥 なるほどにやん。

全員で半円になる。

修羅 ちなみに俺達の会議は立ってやるんです。座ると余計な話をダラダラとしてしまいがちになりますから。これらの決まりは全部輪廻様が考えてお決めになった事なんです。

華紅弥 へー。

輪廻 見直したか？

華紅弥 いいから続けるにや。

輪廻 修羅、今日の議題は何だ？

修羅 はい。先日からの大雨により壊滅状態になった村の対応についてと、城下町に建設

予定の学校についてです。

輪廻 村は確か2つあったよな？

修羅 はい。一つはここからそう離れていませんが、もう一つは竜斬丸さんの居た地域にあります。かなり遠いですね。

輪廻 人の命と生活がかかっているんだ。時間がおしい。竜斬丸。
竜斬丸 はい。

輪廻 お前、全力疾走したとして、里まで行って帰って来るのにどのくらいかかる？

竜斬丸 休まず走ったとして・・・8時間位でしょうか。

修羅 8時間！たった8時間で往復出来るんですか！？

竜斬丸 多く見積もってもその位あれば。

輪廻 決まりだな。悪いが会議が終わったらすぐに発ってもらえるか？

竜斬丸 それは構いませんが、その間、輪廻様は誰が守るのですか？

玲亜 ではその役は私が。

輪廻 そういう事なら寝所まで来て守ってくれよ。

玲亜 殴りますよ？

玲亜、輪廻を殴る。

悠奈 近くの村は私が見て来ます。

修羅 ありがたいございます。では視察の内容ですが、まず死傷者の確認。負傷者がいた

場合最低限の手当てをお願いします。次に家屋を失ってしまった者の人数。

輪廻 いや、家の有る無しに関わらず一旦全員城に呼ぼう。どんな二次災害が起こるか分

からないからな。

修羅 しかし、そこまでの食料の蓄えがありませんが。

輪廻 明日、月華と影星に使いを出してくれ。米を売ってくれってな。

華紅弥、咳払いしながら輪廻を肘でつつく。指でバツテンを作る華紅弥。

輪廻 やっぱり使いは影星だけでいいや。断られたら・・・仕方ない。今月は米を納めろ

と民に伝えてくれ。

修羅 城下町の奴等は普段儲けてますからね。今月はガッツリ頂きましょう。

輪廻 任せた！

修羅 はい。それで次に学校の件なのですが・・・。

俺の考えとしては貧しい奴にこそ勉強を教えてやりたいんだよな。

修羅 しかし、それでは学校の経営が成り立ちません。

輪廻 そこなんだよな。でも勉強したいって奴はたくさんいると思うんだよね。

悠奈 あの・・・。

輪廻 何だ？

悠奈 私、小さい頃、どうしても欲しかった人形がありました、親からおこずかいを前借りした事があるんです。

輪廻 それで？

悠奈 その後は、前借り分のお手伝いをさせられたんです。国でも同じような制度を作れないかなと思ひまして。

竜斬丸 成程、学ぶまでの学費は国が貸して、学んだ後、しっかりと働いて返してもらおう？

修羅 いいですね。利息を取れば国としても採算は合います二

輪廻 はい、それ採用。

悠奈 ありがとうございます。

修羅 ただ、問題はそれですとギリギリの予算で学校を運営する事になります。先生の数が足りないかと。

輪廻 修羅がやれよ。

修羅 私ですか！？

輪廻 校長、兼、先生だ。お前、前に言つてたろ？人に何か教える仕事がしたいって。

修羅 はい、感謝します二．．．ただ．．．やはり先生が一人というのは現実的ではありません。後、2、3人は欲しい所です。

玲亜 2、3人ですか．．．．．難しいですよ。

全員、シーンとなってしまう。

華紅弥 ・・・・そうか、修行だにや。

玲亜 何か思いつきました？

華紅弥 何か一つのを極めんとする者は探求心、向上心があるにや。お笑いを極めようとする者は自分にない技術を得ようとするものなにや。

修羅 それで？

華紅弥 知識を求める者も一緒にや。他の大陸にはこの大陸の知識、文化を知りたいと思っている者がいるはずにや。

修羅 そういう人を学校の先生として招けば良いのですね。知識を求める者なら衣食住さえ与えれば、その他の事にはそこまで無茶な要求はして来ないはずに。

竜斬丸 それどころかそういう奴は多いだろうから、こっちで誰を採用するか選べるんじゃないですか？

修羅 いけますよ、輪廻様。

輪廻 その案、採用。

華紅弥 本当にや！

輪廻 ああ。

華紅弥 でも……私みたいな新人の意見を採用しても大丈夫なのかにや？

修羅 プリンさん。それが輪廻様の考え方です。誰がどんな事を思いつくか分からない。だから皆で考える。そして、良い考えに新人も何も関係ありません。国を良くする為なのですから。

悠奈 仕事もそうですね。私本来の仕事は道化ですが、それ以外の事もやらせて頂いていきます。私はそれが嬉しいですよ。

華紅弥 ……嬉しいにや？

悠奈 はい。嬉しいです。

輪廻 よし、今日の会議は以上だ。各自、諸々任せたからな二

全員 「はい！」と返事。各自、四方にバラバラに去る。

輪廻 華紅弥、ありがとう。助かったよ。

華紅弥 ……なあ。

輪廻 ん？

華紅弥 お前は私をホレさせる為に召使いにしたんじゃないのか？まあ自分とは違うやり方が見れて楽しくはあったが……。あ、もしかしてお前……。私の才能あるひらめきに期待していたとか？

輪廻 もう、華紅弥のそういう所、大好き。

華紅弥 だとすれば期待には応えられたわけだ。

輪廻 そうだな。

華紅弥 でも・・・嬉しいもんだな。自分の出した意見が採用されるというのは。

輪廻 だろ？大勢で意見を出し合った方がより良い方法が生まれる。

華紅弥 より良い方法か。そういう考えはなかったな。

輪廻 それに全部を一人でやってたら時間がかかるだろ。

華紅弥 ・・・・確かに。

輪廻 さて、じゃあこの辺をチャチャッと掃除でもしてくれ。召使いとしてな。俺は自分の部屋へ戻るが勝手に帰っていいから。

華紅弥 急に扱いが雑になったな。

輪廻 明日もあるんだ。体力は大丈夫か？

華紅弥 余計な心配をするな。一週間だろ。約束は守る。

輪廻 じゃあな。おやすみ。

華紅弥 おやすみ。

輪廻、華紅弥をジッと見る。

華紅弥 何だ？

輪廻 ……「おやすみにゃん」って言って。

華紅弥 あまり調子に乗るなよ？

華紅弥、ファイティングポーズを取る。

輪廻 寝る。寝る。寝る。

輪廻、上手に去る。照明切り換えと同時に華紅弥、大君としての衣装にその場で着替える。下手から斑鳩の「華紅弥様」と呼ぶ声。

華紅弥 どうした。

斑鳩、那由他、水鏡が入って来る。

斑鳩 こちらにいらっしやったのですか。定時になっても会議室にお見えにならなかったの心配しましたよ。

華紅弥 悪かった。ちよっと所用でな。

斑鳩 時間がないので、この場で会議を行います。まず最初の議題ですが・・・

斑鳩、言いながら座ろうとする。

華紅弥 待て。今日は立って会議をしよう。

斑鳩 立ってですか？

那由他 どうしたんです急に。

華紅弥 まあ何だ、たまには気分を変えようと思ってな。で、一つ目の議題は？

斑鳩 例の壊滅してしまった村人達が、今後の方針を聞かせて欲しいと言っています。かなり不安がっていますね。

華紅弥 だが状況を確認しない事には軽はずみな事は言えんぞ。

斑鳩 私もそう答えたのですが、ではいつ村の状況を見に来てくれるのだと聞かれました・・・。

華紅弥 この件を優先させる為にその他の予定を変更出来ないのか？

那由他 それは無理です。急を要する問題はこの村の事だけではありません。

華紅弥 そうか・・・。

斑鳩 あんまり・・・

華紅弥 ん、何だ？

斑鳩 ……いえ、何でもありません。

華紅弥、ジツと斑鳩を見る。

斑鳩 な、何でしょう？

華紅弥 全部を一人でやっていたら時間がかかる、か。

斑鳩 はい？

華紅弥 斑鳩。

斑鳩 はい。

華紅弥 お前は私の側近だな。

斑鳩 はい。

華紅弥 側近の仕事以外の事を頼んだらお前は嫌か？

斑鳩 え！…華紅弥様、まさか私にもアイドルになれとおっしゃるつもりじゃ二

華紅弥 そうではない。使いを頼まれてくれないか。

斑鳩 使い…ですか。

華紅弥 斑鳩が村へ行き状況を確かめて来てくれ。知りたいのはとにかく村の生活環境を整える事が出来るかどうかだ。場合によっては新しい土地を開墾する。お前の判断なら私は信用出来るが…頼めるか？

斑鳩 ……はい二是非やらせて下さい二

華紅弥 そ、そうか。では会議が終わり次第、すぐ発ってくれ。

斑鳩 はい二

華紅弥 お前はどうしたのだ？

水鏡 華紅弥様にお礼の挨拶をと思ひまして。

華紅弥 お礼の挨拶？

水鏡 はい。おかげ様で実のある情報交換が出来ました。次の地へ向かおうと思ひまして。

華紅弥 一泊しかしてないだろう。もういいのか？

水鏡 はい。大変、有意義な時間を頂きました。

華紅弥 そうか。それで、次はどこへ行くんだ。

水鏡 陽炎に行こうかと。

華紅弥 ……何？

水鏡 陽炎の道化もあれでなかなか味のある芸を持っております。修行の旅には欠かせないお方かと。

いとお方かと。

華紅弥 駄目だ。

水鏡 はい？

華紅弥 陽炎に行く事は許さん。少なくとも後6日は。

水鏡 どうしてですか？

華紅弥 その、何だ。可南汰と不知火を鍛え直してくれた礼だ。今度は月華の漫才を学んで行くが良い。那由他。

那由他 はい。

華紅弥 可南汰と不知火に漫才の極意をあます事なく水鏡に伝授しろと伝える。

那由他 はい。

華紅弥 私、ピン芸人なんで漫才を覚えても・・・。

那由他 いつか相方が出来るかもしれませんが？

華紅弥 とにかく6日間は一歩たりとも城から出すな！

那由他 はい！

那由他、水鏡の腕をつかんで下手へ移動。

水鏡 やってる事、監禁ですよね！

華紅弥 面白い。面白いぞ水鏡。ナイス突っ込みだ。

那由他、水鏡、下手へ去る。

斑鳩 華紅弥様。それでは視察へ行つて参ります。

華紅弥 そうか。気を付けてな。

斑鳩 必ず華紅弥様にご納得頂けるご報告を致します二

華紅弥 頼んだぞ。

斑鳩 はい二

斑鳩、下手へ去る。

華紅弥 不思議なものだな。任せた途端、斑鳩や那由他を頼もしいと感じるとは。

照明切り換わる。華紅弥、メイド服へ着替える。

輪廻、修羅、竜斬丸が上手から入って来る。

輪廻 おー、見違える程キレイになったな。プリンは召使いの素質があるんじゃないか？

華紅弥 (怒りながら)にやー二

修羅 本意ではないようですね。

輪廻 ま、今日は会議もないし。仕事はこんなもんだろ。少し話してもしょう。

全員、センターで座る。

華紅弥 どんな話をするにや？

修羅 そうですね．．．プリンさんはこの城に来て間もないですから、何か質問があれば何なりと。

華紅弥 質問．．．。

修羅 何でも構いませんよ。

華紅弥 ．．．．．あ。あるにや、質問二

修羅 何でしょう？

華紅弥 2人は何でこんなちやらんぽらんでいい加減で、女ったらしな大君に仕えてるにや？2人程の才能があれば、他の大陸ならもつと良い条件の所があるはずにや。

輪廻 本人目の前にして聞くかな、そーゆー事。

修羅 プリンさん．．．．。大君は確かに今、あなたがおっしゃった通りの方です。

輪廻 おーい。

修羅 ですが、だからこそ自分がすっかりしなくては、と思うのです。大君が私を頼ってくれるように。

華紅弥 大君が頼る？

竜斬丸 輪廻様に仕えて分かった事があります。「弱い」「出来ない」というのは悪い事ではないって事です。俺は確かに剣術では陽炎が一番ですが、それ以外の事は修羅様や

悠奈殿に任せるしかありません。しかし、自分がやるよりも上手くやってくれてるのであれば任せるべきです。

華紅弥 より良い方法をより上手く出来る人が……という事にや？

竜斬丸 はい。

修羅 何よりも輪廻様は大君として一番必要な力を持つてらっしゃいます。

華紅弥 それは？

修羅 ……人を見る目です。輪廻様は人の本質を見抜く力を持っています。

竜斬丸 その通り。二流石、修羅様。分かってらっしゃる。そう。二輪廻様は人を見る目がある。二

俺が初めて輪廻様とお会いした時もそうだった。二

華紅弥 人を見る目か……。

竜斬丸 聞けー二

華紅弥 うん。聞かせて欲しいにや。大君はどんな風だったにや？

竜斬丸 俺が育った忍の里は、里の人間同士でも裏切りが当たり前のつまらない村でした。

それに疲れた俺は一つの噂を聞いたんです。陽炎の大君は刀を抜くことが出来ない程弱いのに守護者をつけていないと。その時、思ったんです。誰か一人に仕える事を自分の存在理由にすれば、俺は生きる目的を作れるんじゃないかと。裏切られて死ぬんじゃない、この人の為なら死ぬって死に方が出来るんじゃないかって。

照明切り換わる。輪廻、修羅、竜斬丸、立ち上がる。

修羅 輪廻様。

輪廻 どうした？

修羅 この者がどうしても輪廻様に会いたいと申しまして。その・・・守護者を任せて欲しいと。

輪廻 守護者を？

竜斬丸 お願います。二俺に生きる目的を与えて下さい。二俺に二俺に守護者をやらせて下さ

い二

輪廻 ……いいよー。

照明切り換え。

輪廻 そんな事もあったなー。

竜斬丸 回想短かつ二

華紅弥 分からないにや。どうして大君はたった一言、言葉を交わしただけで信じる事が出来たにや？

輪廻 言葉じゃない。目だよ。俺はコイツの目を見たんだ。人の本質ってのは目を見れば

大概分かるもんなんだよ。

華紅弥 目を……。

輪廻 ただな、竜斬丸。あの時も言ったと思うが、俺の為に生きるな。命をかけるなら、この国の為に生きる。それでこそ、お前が望んだ生きる意味を作れるはずだ。陽炎にとつて害になるとお前が判断したなら俺ですら排除しろ。分かったな。

竜斬丸 陽炎の事を誰よりも考えている輪廻様が害になるとは思えません。

輪廻 覚悟の話をしている。それは修羅も一緒だぞ。

修羅 はい？

輪廻 お前にも生きる目的があるんだろ？側近でいることで目的に近づけるならいいが、ちゃんと考えないと。

修羅 ありがとうございます。

竜斬丸 修羅様の生きる目的って何なんです？

修羅 え？

竜斬丸 是非、聞かせて下さい。

修羅 いや、そんなに大したものでは……。

輪廻 嘘つけ。その目は中々の事を考えてる目だぞ。

竜斬丸 そうなんですか？

修羅 いや、本当に大した事では。

竜斬丸 大した事ないなら教えて下さいよ。

修羅 またの機会という事で。

華紅弥 駄目にな。そういう話は男らしくこの場で語るものにや。

輪廻 お、いい事言うじゃねえか。たまには夢を語るつても熱いな。教えてくれ。

修羅 ええ。．．．はい．．．私にはその．．．兄弟がおります。

竜斬丸 兄弟。

修羅 はい。兄と弟の3人兄弟でして、今はそれぞれ離れて暮らしてはるんですが、いつか

また皆で暮らすのが夢です。その時は勿論、両親も。

輪廻 何だ、その為にはお前が稼ぎ頭にでもならないと生活できないのか？

修羅 いえ、そういうわけでは．．．。

輪廻 給料足りないなら上げてやるぞ。

修羅 いえいえいえ。

華紅弥 輪廻。．．．様。人にはそれぞれ事情があるものにや。

輪廻 ん．．．まあ、そうだな。

修羅 ．．．ただ、最近はその夢を実現するのに少し悩んでいます。

竜斬丸 どうしてですか？

修羅、輪廻を見て。

輪廻 え、俺？

修羅 輪廻様を支えられる側近なんて私くらいでしょうから。

華紅弥 別に家族と暮らせるようになってても側近は続けられるにや。

修羅 ・ ・ ・ そうですね。そうですね。あ、そっか、そうですね。そうだ、そうだ、そ

うですよ。コマネチ。

輪廻 どうした急に？

竜斬丸 でもいいもんですね。人の夢を聞くというのは。

華紅弥 その人の為に何かしてあげたいと思うにや。それに、自分も頑張ろうって思うにや。

輪廻 お、プリン。

華紅弥 何にや？

輪廻 そのやわらかい笑顔、久しぶりに見たぞ。

華紅弥 え？

輪廻 よーし、今日は久し振りに男同士で飲むか。お前達、付き合え。プリン。お前は早

く帰って休め。また明日な。

華紅弥 お、おうにや。

輪廻、修羅、竜斬丸、上手へ去る。照明切り換え。

大君の衣装に着替える華紅弥。

華紅弥 琴音ニ胡桃ニ・・・・・琴音と胡桃はいないか！？琴音ニ胡桃ニ

下手から琴音と胡桃の「はいニ」という声。

華紅弥 待てニ私から呼んでおいて何だがちよつと待てニ何だか色々、都合が悪い。

琴音 え！？何かあつたんですか、華紅弥様！？

琴音、胡桃、下手から入って来る。

華紅弥 回れ右―ニ

琴音、胡桃、急いで後ろを向く。

胡桃 どうしたんですか！？

華紅弥 いいからニ私が良いと言つまでこつちを向くなよ？

2人 は、はいニ

華紅弥、大君の衣装に着替え終わる。

華紅弥 よし、いいぞ。

胡桃 (前を向きながら)何かご用でしょうか？

華紅弥 うん、何だその……体がなまってないか試してやろうと思ってな。

胡桃 試して……って、お手合わせ願えるのですか！？

琴音 華紅弥様と……いいんですか！？

華紅弥 ああ。刀を持って来い。

2人 (刀を見せながら)持ってます！

華紅弥 ……いつも持ち歩いているのか？

琴音と胡桃、照れ笑い。

華紅弥 まあいい。刀を抜け……………始めるぞ。

胡桃から動く。華紅弥の方へ向かうが弾かれる。琴音も同様。

2回目は2〜3回ほど刀を合わせるが同じように弾かれる。

華紅弥をセンターに琴音、上手。胡桃、下手。琴音、胡桃、顔を見合わせる。

琴音 行くよ二

胡桃 うん二

2人同時に華紅弥へ突進。刀で受け止める華紅弥。

その瞬間、琴音の腕をつかみ、琴音の刀を胡桃の喉元へ。

同時に華紅弥自身の刀を琴音の喉元へ。

2人 参りました。

琴音、胡桃、その場に座り込む。

琴音 やっぱり勝てないです。

胡桃 何が足りないんだろ。力？速さ？

琴音 うーん。

華紅弥 いや、なかなかだったぞ。以前より成長してるな。

琴音 本当ですか！？

華紅弥 ああ。アイドルとは別に特訓してたな？

胡桃 すみません。でも、アイドルもちゃんとやってますから。

華紅弥 分かっている。責めるつもりはない。

琴音、胡桃、安堵の表情。その後、互いにブツブツ言いながら素振りしたりする。
華紅弥、その姿を見て。

華紅弥 お前達。．．．．．やはりやりたい事は守護者なのか？

琴音 ．．．．．はい。確かに今でも守護者として華紅弥様をお守りしたいと思っています。
でも．．．．．

胡桃 今はアイドルという仕事にも誇りを持っています。自分が頑張れば皆が喜んでくれます。それは国の為にもなるし、大君の為にもなります。

琴音 方法は違っても華紅弥様の為になれるなら、どんな事でも嬉しいです二

胡桃 今はここにはいないけど、それはきつと玲亜ちゃんも同じ気持ちのはずです二
華紅弥 ．．．．．ああ。分かっている。

胡桃 華紅弥様．．．。

華紅弥 私はこれからお前達が「守りたい」と思う大君であり続けなければな。

琴音 大丈夫です二私達は華紅弥様の為ならいつでも命をかけられます。

華紅弥 私の為に生きるな。命をかけるというなら、この月華の為に生きる。……

そうか……。あいつもこんな気持でこの言葉を言ったのか……

胡桃 どうかされました？

華紅弥 いや、なんでもない。時間を取らせたな。作業に戻れ。

胡桃 作業ですか？

華紅弥 新曲を作れと言ったろう。明後日には聴かせてもらうぞ

琴音 ガーン

胡桃 ガーン

華紅弥 作業開始

琴音、胡桃、頭を抱えながら「ガーン」を繰り返して下手に去る。

照明切り換え。華紅弥、メイド服に着替える。

悠奈が下手から入って来る。

悠奈、華紅弥に軽く会釈して無言で通り過ぎようとする。

華紅弥 にゃあ。

悠奈 ……はい？

華紅弥 一つ聞きたい事があるにゃ。

悠奈 何でしょう。

華紅弥 (名前が思い出せず)・・・えーと。

悠奈 悠奈です。

華紅弥 悠奈様はその・・・輪廻様の事が好きなのにな？

悠奈 はい！な、なな、何をおっしゃってるんですか！そ、そんなわけ・・・！

華紅弥 お手本のような動揺にな。で、どうなのにな？

悠奈 ・・・・何故そんな事を聞くんです。

華紅弥 ー、何でかにな。気になるからかにな？

悠奈 気になる・・・。気になりますか？

華紅弥 にな。

悠奈 どうして私が輪廻様を好きだと思っんです。

華紅弥 見てれば分かるにな。最近、あいつが・・・輪廻様がちゃんぽらんじゃないっ

て事は分かったにな。でもあんな女ったらしをなんで・・・？

悠奈 あの方が女たらしの真似をしているのは、ある方の気をひく為ですよ。

華紅弥 にな？

悠奈 何でもありません。・・・プリンさん、確かに私はただの道化が持つべきで

はない感情を輪廻様に対して抱いています。ですが最初から諦めていますので。

華紅弥 どうしてにな！？

悠奈 ……それをあなたが聞きますか。

華紅弥 悠奈様？

悠奈

いえ。輪廻様はもう心に決めている方がいらっしやるんです。他国の大君なのですが……私は、とてもお似合いだと思います。ですからお相手の大君にも早く素直になつて頂きたいと思います。……輪廻様の女つたらしが素になる前に。

輪廻、玲亜のスカートをめくろうとしながら入つて来る。

輪廻

ね、この下つて何履いてんの？見せパン？見せパンって見せる為のパンツだよね？

玲亜

やめて下さいって……

輪廻

……あ。

四人、固まる。華紅弥、悠奈、輪廻に向かつて、

2人

何やってるんですか（にやー）……

悠奈

（華紅弥の顔を見ずに）……何を怒ってるんです？

華紅弥

別に怒ってないにや。

悠奈

ですよね。……輪廻様……誰かれ構わずそういう事するのはやめて下さいって

輪廻
何度言えば分かるんですか二
何でお前が怒るんだー!?

悠奈、輪廻を追いかけて上手へ去る。

華紅弥、自分の気持ちについて何か考えている様子。
その姿を見て心配する玲亜。

玲亜
あの。

華紅弥
ん？

玲亜
何かあったんですか？

華紅弥
いや、何でもないにや。

華紅弥、答えた後、その場に玲亜と2人きりだという事に気付く。
気まずい2人。華紅弥、勇気を振り搾って声をかける。

華紅弥
あの、玲亜様。

玲亜
いやいやいや、止めて下さい二様は止めて下さい二困ります二困りますです二

華紅弥
じゃあ、玲亜でいいにや？

玲亜 できれば「にや」もやめて頂けると。

華紅弥 それは駄目にな

玲亜 あ、そうですか……。

華紅弥 玲亜は元々は月華の民と聞いたにや。

玲亜 ……はい。そうです。

華紅弥 何故、国を移ったにや？何か不満があったにや？

玲亜 いえ、不満など二本当にありませんでした。毎日が楽しくて、ずっとこのままでいたいと思つてました。

華紅弥 では、何故…？

玲亜 ……もし、プリンさんが月華の大君だったら私はこう答えるでしょう。理由は話せませんが、どうか私を信じて下さい。私は今でも、華紅弥様の為ならこの命、捧げる覚悟があります。その為に剣の修練は一日も欠かした事ありません、と。

華紅弥 玲亜……。

玲亜 この想い、届く事を祈ります。

華紅弥 ……もし。

玲亜 え？

華紅弥 もし、私が月華の大君だったなら、きっとこう返すにや。……お前の気持ちは良く分かった。事情は分からないが、そんな事はもう良い。……お前が

帰って来たくなかったなら、いつ帰って来てもいいんだぞ。ただ一つだけ。命を粗末にするな。これはお前とまったく同じ想いを抱いている2人にも言った事だ。．．．とこや。

玲亜　．．．ありがとうございます。

華紅弥　「大君だったら」の話にお礼はおかしいにや。

玲亜　そうですね。でもおかげで久しぶりにグッスリ眠れそうな気がします。

華紅弥　今まで寝れてなかったにや？

玲亜　はい。やはり色々考えてしまつて．．．。

華紅弥　．．．なら．．．もう一つ「大君だったら」の話にや．．．玲亜。

玲亜　は、はい二

華紅弥　何も心配するな。お前の気持ちはちゃんと分かったから。だから安心して寝るがいい。

玲亜　．．．やっぱり、ありがとうございます。．．．お休みなさいませ。

華紅弥　ああ。お休みにや。

玲亜、上手に去って行く。

華紅弥　．．．これも計画の内の一つなのか？

輪廻、上手後方から入って来る。

輪廻 え？計画って？

華紅弥 お前は私を馬鹿にしているのか？ここまでの事を考えれば分かる。……これは、

私の大君としての成長計画なんだろう？

輪廻 俺に惚れてくれれば一石二鳥なんだがな。

華紅弥 何でもお前の思い通りに行くと思うなよ？

輪廻 だが後4日ある。その間に親密な関係をだな。

華紅弥 そうはいかん。こうなったら学べるものは全て学んで帰る。今日から徹夜だぞ二覚

悟しろ。

輪廻 えー二一応俺に惚れさせる計画も立てたのに二

華紅弥 それはもういい。大丈夫だ。さ、お前の部屋でみっちり勉強だ。

輪廻 え？もういいって？……え、何、大丈夫って二どういう意味！？ねえ！？

華紅弥を先頭に、輪廻と2人、去って行く。

上手後方より、臙、羅刹、緋巫佳、銀狼丸、希来李。最後に神威が入って来て、下手に去って行く。神威、前の5人が去ったら5人に向かつて。

神威
しゃべれよ二

神威、下手後方へ去る。照明切り換え。

斑鳩、那由他、琴音、胡桃、可南汰、不知火が下手から入って来る。
話しながら入ってきて、センターで全員輪になる。

斑鳩
先日行った立ちながらの会議は進行がはかどって良かったですね。

那由他
そうですね。

斑鳩
流石、華紅弥様だと思いましたよ。

琴音
最近の華紅弥様って何かいいと思いませんか？

胡桃
あ、それ分かる二

琴音
ね、何かいいよね二

那由他
表情が明るくなったからでしょうか？

斑鳩
変わったのは表情だけじゃありません。我々に仕事を任せてくれるようになりまし
た。

胡桃
何かあったんですかね？

華紅弥、大君の衣装になって上手から入って来る。

華紅弥（笑って）皆、おはよう。さ、会議を始めるぞ。

その笑顔に全員無言。

華紅弥　・ ・ ・ ・ ・ どうした。

6人　何かいい。

華紅弥　何がだ。

斑鳩　あ、いえ、何でもありません。さ、始めましょう。

華紅弥　大きな議題は「土砂崩れのあった村」の件だな。

斑鳩　はい。

華紅弥　報告してくれ。

斑鳩　村の被害状況ですが、家屋は15棟中約半数の8棟が倒壊。村の収入源である田畑まで土砂が届いており、復興させるにはかなりの資源が必要かと。

華紅弥　土地を開き、新しい村を作るのとは？

斑鳩　おそらくその方が安く済むかと。

華紅弥　住んでいた村人は何と言うだろうか。土地に愛着もある事だろう。

斑鳩 全員ではありませんが、ほとんどの村人に確認しております。既存の村からそう離

れていなければ新しい土地でも構わないそうです。

華紅弥 そうか。ご苦労。

那由他 いずれにせよ税金が必要になりますね。

斑鳩 名目をどうするかが問題です。月華の民すべてが協力してくれれば一人当たりの負

担額はそう多くないのですが。

華紅弥 分かった。考えて近日中に答えを出す。

斑鳩 かしこまりました。

華紅弥 ・・・・いや、・・・そうではない。本当に村人の事を思うなら近日中など言

ってられないのだな。・・・皆。その・・・協力してくれないか。どうすれば

民一人一人が心良く支援してくれるか一緒に考えてくれ。

6人 ・・・・やっぱいいい。

華紅弥 何だといって。・・・とにかく頼む二

6人 (喜びをかみしめて) はい二

全員、一人で考えたり、隣りの人と話し合ったりする。

ガヤガヤしている中、不知火が手を上げながら、

不知火 あの一

華紅弥 どうした？

不知火 俺、思うんですけど、月華の全ての人に新しい村を作りたいって思わせる事が出来

たら自然にお金は集まるんじゃないでしょうか？

華紅弥 おお二どういう事だ！？

不知火 多分皆、自分とは関係ない所でお金を使われると出しにくいと思うんですよ。必要

な事とは分かっているても積極的には協力しづらいと言うか。

華紅弥 成程。

琴音 月華の人全員を巻き込むような話にすればいいって事ですな二

胡桃 例えば・・・・新しい村の名前を募集したりとか！？

琴音 いいね二

可南汰 どんな村が住みやすいと思うか聞いた方が夢がありません？

那由他 一つに限定する事もないのではないですか？楽しそうな意見はこの際全部採用して

しまいましたよ。

斑鳩 そうですね。ただ・・・・全国民に告知するとなると相当の人手が必要になるの

では。

華紅弥 発想を変えよう。我々が大勢に伝えるのではなく、大勢の人が集まっている所で話

をすればいいんだ。何しろ我が国には超集客力を持つアイドルがいるからな。

那由他 ミルキーエンジェルのライブで告知するんですね

斑鳩 華紅弥様、流石です

可南汰 ではライブに來れない地方には僕と不知火で漫才の営業に行きますよ

華紅弥 そうか。頼んだぞ。

可・不 はい

那由他 丁度ミルキーエンジェルは新曲を、2人は新ネタを作ってますからね。宣伝効果は

バツチリです

斑鳩 いけますよ。これだけの個性豊かな人材がそろっているんですから。

全員、力強くうなずく。華紅弥、全員の顔を見て。

華紅弥 私はこれまで・・・今でもだが、大君として未熟だったと思う。それを認めない

事でお前達にはしなくても良い苦勞をかけてしまった。私にはこんなにも頼もしいお前達がいるのにな・・・新しい村の件だけじゃない。これからは様々な問題にこ
うやって皆で力を合わせて解決していこうと思う。これからも力を貸してくれ

那由他 華紅弥様

華紅弥 よーし皆で力を合わせて頑張るにや

全員、「おー！」と言いかけて止まる。静寂。

「にやつて．．．今にやつて言った．．．」と口々にザワザワし始める。

華紅弥
．．．．．にやー二

照明切り換え。日々が流れて行くエチュード。音楽。

華紅弥は月華と陽炎を行ったり来たりする。衣装を左右半分ずつ着て右を向いている時は陽炎。左を向いている時は月華など、工夫。

影星の民は神威を中心に朧や羅刹、緋巫佳、弥勒が話しかける。朧と羅刹が話をするシーン。朧と希来李が話すシーンも入れる。

銀狼丸は基本的に神威の後ろにいる。素振り等で修行。

水鏡、社、霞、凧が出るとすれば、影星。

曲のフェードアウトと共に次々と人物が去る。

最後に去るのは影星の国の面々。客席の方を向いて「何か企んでいる感」を出して去る。舞台上には華紅弥と輪廻だけが残る。

輪廻
今日で約束の一週間が終わるのか．．．大変だったろ。

華紅弥
寝不足ではあるが．．．皆と話し合って問題を解決していくのが楽しいし嬉し

くてな。

輪廻　　そうか。

華紅弥　皆考え出すと意見が止まらないんだ。会議を短くする為に立って話しても、結局座って話し込んでしまう。

輪廻　　そういう時は——。．．．いや、ここからは華紅弥達で決めて作って行けばいい事だな。

華紅弥　ああ。

輪廻　　折角一週間も会えたのになあ．．．。

華紅弥　何だ嬉しくなかったのか？

輪廻　　嬉しかったよ？嬉しかったけど．．．さ。

華紅弥　輪廻にはこの一週間大切な事をたくさん教えてもらった。感謝している。

輪廻　　．．．感謝ね．．．。

華紅弥　（笑って）そんな拗ね方をするな。可愛いと思ってしまっただろ。

輪廻　　可愛い？俺が？寝不足で頭がおかしくなってるんじゃないか？

華紅弥　まったくくだ。気持ち悪い。

輪廻　　えー。

華紅弥　輪廻のくせに生意気だぞ。

輪廻　　意味が分かりません。

華紅弥 (ため息をつきながら) 私も那由他から良く鈍いと言われるが、お前も大概だな。

輪廻 何の話だよ。

華紅弥 お前の勝ちだと言っている。

輪廻 勝ち？

華紅弥 この賭けはお前の勝ちだ。確かに私は輪廻に惚れたのかもしれない。

輪廻 言い方が華紅弥らしいな。

華紅弥 随分冷静だな。嬉しくないのか。

輪廻 嬉しいよ。でも、ま、そうなると思ってたし。

華紅弥 その自信はどこから来るんだ。

輪廻 まあまあ。よし二晴れて両想いになれたんだ二早速 二

華紅弥 ただ。

輪廻 ん？

華紅弥 今すぐ一緒にはなれない。

輪廻 何故？

華紅弥 私は今まで国家間の結婚を反対してきた。それによって仲を引き裂いてしまった恋人達がいる。そんな私が輪廻に惚れたからといってすぐに一緒になるわけにはいかない。今でも間に合う恋人達の仲を取り持つ事と、引き裂いてしまった恋人達への

謝罪が先だ。そうでないと、私はお前の横に立つ資格がない。

輪廻 なら俺も一緒に……。

華紅弥 いや、これは私一人でやらせてくれ。勝手な話で申し訳ないが自分の愚かさにより人を不幸にしたのであれば、私自身で解決しないと意味がない。

輪廻 本当に勝手だ。

華紅弥 ……すまない。

輪廻 ……ま、惚れた女が待てと言ってるんだ。いつか一緒になれるなら何世紀だって待ってやるよ。

華紅弥 人はそんなに長生き出来んぞ。

輪廻 生まれ変わればいい。

華紅弥 生まれ変わりはあるさ。そんなもの信じてるのかお前。

輪廻 生まれ変わりはあるさ。今の俺が華紅弥と会って懐かしいと感じる時がある。それはきつと前世で出会ってたからだ。

華紅弥 上手いとき文句だな。

輪廻 華紅弥はないか？俺を見て懐かしいと感じる事。

華紅弥 ない………と言えば嘘になる。

輪廻 だから待つ。何世紀でも。ただ………少し寂しいけどな。

華紅弥 そこでなんだが………これを預かっておいてくれ。

華紅弥、細長い袋を取り出す。

華紅弥 月華の国宝だ。

輪廻 何？

華紅弥 輪廻に持っていて欲しい。

輪廻 だがこれは二

華紅弥 いいんだ。私の代わりとして持っていてくれ。お前と一緒になれた時、返してもら
う。

輪廻 ・・・・分かった。じゃあ俺も一つ。

華紅弥 何だ？

輪廻 その服、お前にやるから大切に持っていてくれ。

華紅弥 くれるのか！？

輪廻 ああ。

華紅弥 輪廻から何かもらうなんて初めてだな。嬉しいぞ。宝物にする。

輪廻 そう言ってもらえると嬉しい。・・・宝物にしてくれ。

華紅弥 ああ。

2人、無言になる。

輪廻 ……待ってるからな。

華紅弥 ああ。待っていてくれ。

2人、互いにうなずいて輪廻は上手へ、華紅弥は下手へ去る。照明切り換え。

全員が上手後方、下手後方から入ってきて、階段を降りたり、後方センターに移動したりする。(ほぼ幕が上がった時の立ち位置と一緒)

弥勒 さあ今回の交友会もいよいよ大詰め二お笑い対決と剣術対決のみとなりました二お

笑い対決は月華の新作漫才、陽炎のフリップネタを終えていよいよ大トリの出番です二

霞 前回の交友会から全国に武者修行の旅に出て、その芸に増々研ぎをかけたと聞いています二

弥勒 色々なものを取り入れて方向性を見失う芸人は多いですからね。その辺が若干心配ですが、期待したいと思います。

霞 それではお呼び致しましょう。伝説の女芸人、影星の水鏡二

照明変化。音楽。水鏡が下手後方から入って来る。
衣装がバカキャラに変化。様々な一発ギャグを出しながら階段を下りる。

霞 見失っております。心配した通り完全に方向性を見失っております。

弥勒 芸の方向性どころかキャラクターの方向性まで見失うとは……。

水鏡 皆、待たせたわね。今日は帰らせないわよ。寝かさないわよ。全員笑いの過呼吸で

病院送りにしてあげる。これはもう交友会じゃないわ。私のワンマンショーなのよ。

武者修行の成果、あます事なく見せてあげるわ、覚悟なさい。

霞 残り時間一分です。

水鏡 一分……え、えーと、どうしよう、どうしよう、えー、何やる。アレ？何やるんだっ

け。え、ちよっと待って。アレ？待って待って……

霞 もうすぐ時間です。

水鏡 えー二分かった。分かったから、今やる。じゃ、じゃあ一発ギャグね。えーと、え

ーと、えーと、……えー……〇〇〇〇

水鏡、一発ギャグ。静寂。

全員 からのー？

水鏡 からは止めて――

水鏡、影星側に移動。奥に隠れる。

弥勒 それでは審査員、判定をお願いします――

社、霞、凧、月華の札を上げる。

弥勒 月華。月華。月華――これは凄い――水鏡の連勝を止めてお笑い対決を制したのは月華

だ――

月華、大盛り上がり。華紅弥、下手後方、輪廻、上手後方から入って来る。

弥勒 それでは最後の対決の前に――ここまでの成績を確認してみましょう。

霞 月華六十点。陽炎四十点。影星三十点。

羅刹 神威様――このままじゃ2大会連続最下位になってしまうでゲスよ――

神威 大丈夫。任せなさい。手は打ってあるわ。弥勒ちゃん――

弥勒 はい――今回の交友会から一発逆転ルーレットが採用される事になりました――

輪廻 何だそれ。

弥勒 影星の助言者から案を頂きました。

全員、緋巫佳を見る。

緋巫佳 全ての勝負が十点では、最後の勝負でこの点差では面白くないと思ひまして。勝

負の前にルーレットと呼ばれるコマを回し、出た数字をかけた点数が入るといふ事
にしてみてもいかがでしょうと提案させて頂きました。

輪廻 それいいな二面白いやねえーか二

緋巫佳 ありがとうございます。

弥勒 それではご理解頂けたという事で早速いきましょう。

霞 一発逆転くルーレットく二

霞、ルーレットを回す。数字は4から上を書いておく。

弥勒 決まりました二最後の剣術対決は〇〇点です二これでどの国も一発逆転の可能性が

あります。

華紅弥 しかし、それでは一位だった月華に不公平ではないか？

霞

はい。そういう意見もあるかと思ひ、今回の剣術対決は勝ち抜き戦となつております。二位と三位だった陽炎と影星が先に1対1で戦ひ、勝つた方が一位の月華と戦つて頂くという流れです。

華紅弥

成程、そういう事なら良しとしよう。

弥勒

それでは各国の代表者前へ

影星からは銀狼丸が前へ出る。

輪廻

よっしゃ、たまには俺の良い所見せてやろうじゃねえか

竜斬丸

そういう事はせめて、

竜斬丸、刀を抜いて輪廻へ向ける。輪廻も抜こうとするが抜けない。

竜斬丸

せめて刀を抜けるようになってから言つて下さい。

輪廻

竜斬丸のバカにも知らない

竜斬丸

(玲亜に) よろしいですか？

玲亜

お任せします。

竜斬丸

かしこまりました。

竜斬丸、前へ。銀狼丸と相対する。

銀狼丸 俺はこの3ヶ月程、時間が経つのを長いと感じた事はない。里で修行していた時以上の努力をしてきたんだ。今度こそ貴様に勝つ二

竜斬丸 銀狼丸。俺とお前の間には戦績ほどの実力差はないと思っていた。勝つのは俺だったが、その結果は運だと思っていた。だが3ヶ月前、お前と刀を交えた時、俺は変化を感じたんだ。

銀狼丸 変化？

竜斬丸 俺は里にいた頃よりも強くなったと。

銀狼丸 キサマも里での努力以上の努力をしたという事か？

竜斬丸 そうじゃない。努力という事なら里以上の事は何もしていないからな。

銀狼丸 では何だというんだ。

竜斬丸 気持だよ。銀狼丸、俺には守りたいものが出来たんだ。大切なものを守る為に、俺は負ける訳にはいかない。俺はきっと銀狼丸が言うように精神的に弱いんだろう。

だが、輪廻様が・・・陽炎の仲間達がそれを補ってくれた。俺の命は・・・この力は俺だけのものではない二

銀狼丸 誰かに寄り添わなければ力が出ないのか貴様は。俺はそれが弱さだと言ったんだ二

竜斬丸 哀れな男だ。一人でたどりつける強さの境地などたかが知れている事を教えるのが俺の務めだろうな。

銀狼丸 貴様に教わる事など何もない。．．．．行くぞ二

竜斬丸と銀狼丸の殺陣。2と3手ほど刀を合わせる度に竜斬丸の刀が銀狼丸の喉元へ。それを3回ほど繰り返す。

銀狼丸 貴様、手を抜くつもりか！？

竜斬丸 これは交友会の勝負だ。殺し合いじゃない。

銀狼丸 俺をバカにするな二本気で来い二

再び殺陣。5手ほどで竜斬丸の刀が銀狼丸の喉元へ。

銀狼丸 ．．．．俺はこんなにも弱かったのか．．．．。

竜斬丸 そうではない。お前の軽く見ていた「気持ち」の問題だ。

銀狼丸 気持ちだと？

竜斬丸 勝ちにこだわっただけの者と、大切な人を守る為に負けるわけにいかない者との差だ。．．．．お前の刀は軽いんだよ。それでは俺には勝てない。絶対にな。

銀狼丸 俺は……まだ負けたわけではない。俺は……俺は――

銀狼丸、竜斬丸に向けて刀を振り上げる。

斑鳩、素早く動き、鞘をぬいていない刀で銀狼丸の腹を突く。後ろに飛ばされる銀狼丸。影星の者が介抱する。茫然自失となる銀狼丸。

斑鳩 男は引き際を知るべきと思いますが……もつとも、私も人の事は言えませ

んがね。

華紅弥 斑鳩？

斑鳩 華紅弥様、今回の剣術対決、私に任せて頂けませんか？それでも私なりに華紅弥様をお守りする為、鍛えてきたつもりです。

華紅弥 だが今回は可南汰の為に絶対に勝たねばならんのだぞ？

斑鳩 ……私を信じて、お任せ頂けませんでしょうか。

華紅弥 あの者は強いぞ。自信はあるのか？

斑鳩 はい。

華紅弥 ……分かった。お前に任せる。

斑鳩 ありがとうございます。

斑鳩、竜斬丸と相対する。

竜斬丸 先程の突き、お見事でした。かなり鍛えてらっしゃるようですね。

斑鳩 何事もやるからにはそれなりの成果を出さなくては意味がありませんから。

竜斬丸 だが申し訳ないがあなたの実力では俺に勝つのは無理だ。怪我をする前に辞退する事をおすすめしたい。

斑鳩 これで辞退したらマヌケすぎますね。……お氣遣いなく。全ての結果が実力通りになるとは限らない事を教えてあげましょう。あなたは弱点を晒しすぎた。

竜斬丸 弱点？

斑鳩、懐から小刀を取り出し輪廻に向かって投げる。(実際にはマイムですませる。)

華紅弥 輪廻二

一瞬早く、竜斬丸が反応し、刀で小刀を弾く。そのスキに斑鳩が竜斬丸に近づき、喉元に刀を突きつける。

斑鳩 勝ちにこだわる者にも意地がある事を分かって頂けましたか？

竜斬丸　こんな手を使ってまで何に勝ちたいのですか？

斑鳩　あなたは知る必要のない事です。

斑鳩、霞を睨む。霞が慌てて、

霞　勝者、月華の国に

斑鳩、華紅弥の元へ。

斑鳩　華紅弥様。ご指示通り、無事勝ちました。

華紅弥　斑鳩、お前

斑鳩　・・・何でしょう？

華紅弥　何故、輪廻を狙った。

斑鳩　あの者にとっての弱点が陽炎の大君だった。私が勝つ為に相手の弱点をついただけです。

華紅弥　だが

斑鳩　申し訳ありません。このような勝ち方は華紅弥様の好みに合わなかったのですね。

以後、気を付けます。

斑鳩、月華のエリアの奥へ移動。

華紅弥 斑鳩……。

玲亜 斑鳩様は本気で輪廻様を狙ったんでしょうか？

輪廻 本気かどうかは分かんが、殺気がこもっていいたのは確かだな。……って悠奈。
悠奈 あ、はい……

凄い形相で斑鳩を睨んでいた悠奈、我に帰る。

輪廻 ブサイクな顔になってるぞ。

悠奈 そんな……

輪廻 竜斬丸、ありがとな。

竜斬丸 いえ、当然の事です。ですが……。

竜斬丸、斑鳩の方を見る。

霞 さあ、最終結果が出ました……今回の交友会、優勝したのは勿論この国……

弥勒 月華です二

月華の民、大喜び。

霞 それでは優勝国には主催の影星より賞品として……。

華紅弥 待ってくれ。

霞 ……何でしょう？

華紅弥 賞品についてなんだが、頼みたい事がある。

社 月華の大君、優勝国が賞品に対して指定など前例がありませんが。

華紅弥 分かっている。だが、今回だけ特別に認めて欲しい。

凧 影星の大君。いかが致しますか？

神威 そうねー。あれだけ規律に厳しかった華紅弥ちゃんがそんな事言いだすなんてよっ

ほどの事なんですよ？ま、聞いてから判断するわ。それでいい？

華紅弥 ありがたい。ここにいて、この……可南汰なんだが、影星に恋人がいる。

神威 えー！っそうなの！？いいじゃない。青春って感じね。

華紅弥 それで……可南汰は相手と一緒にいる事を望んでいる。

神威 ふん、ふん。それで？

華紅弥 神威も2人の恋を理解し、認めてやってはくれないだろうか。

華紅弥、頭を下げる。——間。

神威 なる程ね。賞品はいらなから2人の恋を成就させたいって？

華紅弥 そういふ事になるな。

神威 えー、何、何！華紅弥ちゃんってそーゆーキャラだっけ？何かあったの？

華紅弥 うるさいな。

神威 あ、何か照れてる。カワイーイー！

華紅弥 うるさいぞ。

神威 でも、真面目な話、本当にそれを望むなら、この場で簡単に了承できる話ではないわね。華紅弥ちゃんも大君なら分かるでしょ？

華紅弥 ああ。

神威 少し長くなりそうね。ここは一旦これで締めて、影星と月華だけで話しましょ。この後時間とれる？

華紅弥 勿論だ。

弥勒 分かりました。それではこれで一度交友会を締めさせて頂きます。後日、次の主催国を決めたいと思います。皆様、お疲れ様でした！

3人組 お疲れ様でした！

皆、一番近い場所へ去って行く。

輪廻、去り際に華紅弥に向かつて「頑張れよ」のポーズ。華紅弥うなずく。

舞台に残るのは華紅弥、斑鳩、那由他、琴音、胡桃、可南汰、不知火。照明切り換え。

胡桃 どれだけ待たせるつもりですかね。

琴音 もう三十分以上経ちますよ。誰か呼んで来ましょうか？

華紅弥 いや、こっちはお願いをする身だ。影星の都合に合わせよう。

胡桃 お願いって、……だって賞品代わりなんですよ？

那由他 事はそう単純ではないのです。

弥勒、上手から入って来る。お茶を用意。

弥勒 お待たせしてますね。どうです、お茶でも。

華紅弥 結構だ。

弥勒 そうですか？緊張して喉が渴いてらっしゃるのではないかと思っただけですが。

華紅弥 ……そういえばそうだな。やはりもらおう。

弥勒、華紅弥にお茶を渡す。

那由他 何故、弥勒様がお茶を？

弥勒 賞品の件が片付くまでは交友会が終わった事にはなりませんからね。問題が片付く

までは影星のお手伝いをする事になりました。

那由他 そうなんですか。

弥勒 ああ。皆さんの分を用意していませんでしたね、失礼しました。

那由他 大丈夫です。我々は必要ありません。

弥勒 そうですか。

華紅弥 すまないな。おかげで少し落ち着いた。

弥勒 いえいえ。お役に立てて何よりです。．．．．．神威殿もそろそろ．．．．．あ、見

えられましたね。

神威、臈、羅刹、銀狼丸、緋巫佳、が上手から入って来る。

神威 お待たせしてごめんなさいね。

華紅弥 いや、大丈夫だ。

弥勒、神威の方へ移動。互いに目配せする。弥勒、後方へ。

神威　で？優勝賞品の代わりにお願いがあるんだったわよね？

華紅弥　ああ。ここにいる可南汰と、恋人の……。

可南汰　希来李です。

華紅弥　希来李との結婚を認めて欲しい。

神威　それなんだけどね、いろいろ言いたいことがあるのよね。

華紅弥　何だ？

神威　まず、それって異国間の結婚を認めるって事でしょ？私、過去に何回か華紅弥ちゃんに頼んだ事無かったつけ？

華紅弥　それは……。

神威　その度に「異国間の結婚は認められん」って断られたんだけど。

羅刹　そうでゲスね。調べた所、過去7回断られてるでゲス。

神威　華紅弥ちゃんにどんな心境の変化があったのか知らないけどさ、こっちから7回も頼んで断られてよ？そっちから頼まれてホイホイ承諾しちゃったら、ウチの国が安く見られる事は分かるわよね？

華紅弥　すまない。だからこそ、交友会の賞品の代わりという事で話が出来ればと思ってい

る。そうすれば、

神威 弱いわね。国民に納得させる理由としては弱いわ。ウチが賞品を用意してなくて「代わりに」って言うんなら話は分かるけど、こちらが用意している賞品はシカトって事でしょ？それは筋が通らないでしょ。

華紅弥 私が勝手を言っている事は全面的に認める。だがこれからは想いを同じくする恋人同士を割くような事はしたくない。影星の希来李という者も可南汰と一緒にいる事を望んでいるはずだ。

神威 そう、一番ひっかかっているのはそれよ。その名前。希来李？希来李ですって？

華紅弥 ……ああ。

神威 その希来李ってまさか、この子じゃないわよね！？

希来李、王族の衣装を着て上手後方より出て来る。

可南汰 希来李！

希来李 可南汰！

神威 アラ、やっぱりそうなの！でもこの子はね、格好を見れば分かるでしょ？私の立派な身内なの。奥さんの、妹！バリバリの王族！それを一国の専属道化の嫁に出せて！？あり得ないんですけどー！

華紅弥 それはそいつが身分を偽っただけで二

臃 まあ、ひどい二私の可愛い希来李が嘘をついたとおっしゃるんですか！？

華紅弥 嘘というか、何らかの事情があったのだろう。

羅刹 いやいや、おかしいでゲス。好きな相手には見栄をはるのが人間というものでゲスよ。王族なのに、身分を偽る意味が無いでゲス二

希来李 羅刹様、話が違います二私は二

臃 ああ、カワイそうな希来李。大人の都合に振り回されて、利用されてしまったのね二

希来李 お姉様二

希来李、階段を下りて臃の元へ。

神威 華紅弥ちゃん、どう思う？私には羅刹の言ってる事の方が筋が通ってると思うんだけど。

華紅弥 そうかもしれないが、可南汰の言っている事の方が正しい可能性もある。

羅刹 いや、可能性なんて話をしたら、話は永遠にまともらないでゲスよ。そちらはあくまで「お願いをする立場」という事を忘れてはいけないでゲス。

華紅弥 ……私にどうしろと？

臃 まずは私の大切な妹を嘘つき呼ばわりした事を謝罪して欲しいですわ二

希来李 お姉様ニ

華紅弥 ・ ・ ・ ・ ・ 可南汰。

可南汰 はい。

華紅弥 私はお前の言った事を信じる。だが、今、この場においては正しい事に意味はないようだ。 ・ ・ ・ ・ ・ 身分を偽ってダメされていたお前は、それでも尚、希来李と一緒にになりたいと思うか？

可南汰 ・ ・ ・ ・ ・ 華紅弥様。僕は夫君に忠誠を誓っています。が、忠誠を誓った方に土下座をさせてでも、僕は希来李と一緒にになりたいです。

華紅弥 身分を偽っていたんだ。お前に対する気持ちも偽りかもしれないぞ。

可南汰 その時はニ ・ ・ ・ ・ ・ その時は、イチから付き合い直して、今度こそ僕に惚れさせてみせますニ

華紅弥 私に土下座をさせてもか。

可南汰 申し訳ありません。

華紅弥 いや、良く言った。それでこそ月華の民だ。 ・ ・ ・ お前達の幸せが、この頭一つで実現出来るなら安いものだ。

華紅弥、臙の方に向き直り、ゆっくり土下座をする。

華紅弥　今までの事、希来李を疑った事、全て申し訳なかった。私の考えが足りずに影星の方々には迷惑をかけた。心からお詫び申し上げます。

その姿に緋巫佳以外の影星の全員が大笑いする。

緋巫佳、笑い声に耳を押さえる。舞台、暗くなり、緋巫佳の周りのみ明かり。効果音、笑い声。その笑い声に、精神的に追いつめられる緋巫佳。

緋巫佳　笑うな二

全員、静寂。緋巫佳を見る。緋巫佳、ハツとする。

緋巫佳　・・・申し訳ありません。何でもありません。・・・続けて下さい。

緋巫佳、フードを深くかぶる。

神威　ま、一国の大君に土下座までさせたんだから、それなりに考えなくちゃね。

華紅弥　では二

神威　とはいえ、今までの事を水に流すのと、希来李が身分を偽ったなんて疑われた事を

許すだけよ？一緒にする事を認めるかどうかはまた別問題。

那由他 そんなに華紅弥様にここまでさせておいてですか！？

緋巫佳 「ここまで」という線引きは、互いの立場や状況によって変わるものです。

神威 だーかーらーにこうしましょ？月華に国宝あるでしょ、国宝。

華紅弥 国宝？

神威 それで手を打ってあげる。ね？どうしても言うなら月華の国宝を頂戴。

華紅弥 それは構わないが今は手元がない。輪廻に預けてある。

神威 国宝を他国の大君に預けたですって？

華紅弥 と言つてもたかだか刀の刃の部分だけだ。特別切れ味がするどいというわけでもない。大した問題ではなからう。

羅刹 問題でゲスよにアレには人外の力が眠っているでゲスよにそれをに

神威 羅刹に

華紅弥 ・・・・人外の力だと？お前達、何を企んでいる？

神威 あーあー、もう。余計な人に余計な情報を与えちゃった。

羅刹 申し訳ないでゲス。

神威 ま、念の為の保険をうって置いて良かったって所かしら。

那由他 保険？

華紅弥、突然片膝をついて倒れる。

琴音 華紅弥様二

胡桃 大丈夫ですか！？

華紅弥 何だこれは・・・体が動かかん。

那由他 弥勒様二何を飲ませたのですか！？

弥勒 さすが月華の助言者。察しが良い。お茶の中に痺れ薬を少々。

那由他 全ての国に中立であるべき審査委員がどういうおつもりです二

弥勒 神威様は三国統一国家の大君であるべき器の方です。この大陸の未来を考えるなら当然の行動です。

琴音 何が大陸の未来よ二強欲丸出しの顔して二

胡桃 琴音ちゃん、今は華紅弥様の心配してよ二

弥勒 命に別状はありません。半日ほど体が痺れて動けないだけです。

神威 さて、華紅弥ちゃんが動けない今、そちらの人数だけで城内の者全てを敵に回すのは得策じゃないわよね？

華紅弥 この者達には手を出すな。

神威 分かっているわよ。私が欲しいのは国宝だもの。人の命じゃないわ。そこで誰か陽炎

に行つて輪廻ちゃんに伝言頼める？月華の国宝と、陽炎の国宝を持って来いって。

その2つと華紅弥ちゃんを交換つて事で。

斑鳩 私は華紅弥様のお側にいて奴等が危害を加えないよう見張る。(琴音と胡桃に) お前達で行つて来れるか!?

胡桃 私も華紅弥様のお側に!?

那由他 心配する気持ちは分かりますがお願いします。他の者では陽炎につくまでに時間がかかつてしまいます。

胡桃 でも!?

琴音 行こう、胡桃。

胡桃 琴音ちゃん!?

琴音 道中何があるか分からないから行くなら2人で行くべきでしょ?今、この中で一番速く走れるのは私達なんだよ?

胡桃 でも華紅弥様が!?

華紅弥 ・・・私は大丈夫だ。すまないが、胡桃、頼めるか?

胡桃 華紅弥様。

胡桃、琴音、華紅弥の腕にふれる。

華紅弥 気をつけてな。

胡桃 はい。

琴音 分かりました。

胡桃 華紅弥様をお願いします。

胡桃、琴音、下手へ走り去る。

羅刹 とりあえず薬が切れても動けないようにしておくでゲスか？

臃 そうね。あの方は恐い方なのでしょう？

神威 オーマイスイートベイベー。大丈夫よ。どんな猛獣も縛っておけば心配いら
わ。．．．．銀狼丸。

銀狼丸、華紅弥の方へ移動。月華の民が華紅弥の盾になる。

那由他 手荒な真似は許しません。

銀狼丸 どけ．．．．。邪魔をするな。

銀狼丸、刀を抜く。

華紅弥 お前達、私はいい。下がれ……下がれ……これは命令だ……那由他、全員下がらせろ……

那由他、ゆっくり、全員を下がらせる。

銀狼丸、華紅弥を後ろ手に縛る。銀狼丸は月華の民を警戒する。

華紅弥 三国統一だと。また争いを起こすつもりか。

神威 争いなんて大袈裟なもんじゃないわ。真の平和を前にちよつと混乱するだけよ。

華紅弥 人外の力を欲する者が平和を口にするか。

神威 その資格はあるわよ。目の前の事しか見えていない、未熟者の大君よりはね。華紅弥ちゃんが自分の国しか見ていなかった間、私はずっとこの大陸に生きる全ての民の事を考えてきたの。ずっと考えてきたのよ。分かる？

華紅弥、神威をにらむ。

臈 いいわ……その顔。憎しみに満ちた眼差し……悔しさに歪んだ唇……最高の表情よ……

あなた。私、やっぱりあなたについてきて良かった。

神威 そう？良かったわハニ！

臙 これから刺激的な毎日が始まるのね。嬉しいわ二
神威 輪廻ちゃんの出方次第ですけどね。

神威、一度下を向き溜めを作ってからキャラを変える。

神威 アイツが素直に動くとは思えん。何か策を練ってくるだろう。だが二

華紅弥 だが、・・・何だ？

神威 素直に従わないなら従わせるまでだ。どんな手を使ってもな。

神威、刀を抜いて華紅弥の喉元へ。ストップモーション。

琴音、胡桃、下手後方から入って来る。2人、口々に「輪廻様二」と呼びかける。

輪廻、竜斬丸、修羅、玲亜、悠奈が上手後方より入って来る。

どうした、そんなに慌てて。

華紅弥様が・・・影星に捕えられました二

輪廻 何？

胡桃 賞品代わりに異国間の結婚を認めてもらえるようお願いをしたのですが、それを認

めて欲しければ月華の国宝を寄越せと。

修羅 神威様が！？

胡桃 はい。

琴音 華紅弥様の話では、国宝は輪廻様に預けてあるとの事でしたが。

輪廻 ああ。確かに預かつてはいる。だが、

玲亜 華紅弥様の力ならあんな連中すぐに制圧できるのでは？

琴音 玲亜は黙ってて二

胡桃 琴音ちゃん。

輪廻 俺も玲亜と同じ考えだ。華紅弥なら一人でも何とか出来るだろ二

胡桃 それが・・・中立であるはずの審査委員が影星に肩入れし、弥勒様から差し出

されたお茶に痺れ薬が入っていて二

輪廻 ・・・・薬だと？

悠奈 神威様は月華の国宝を手に入れてどうなさるおつもりですか？

胡桃 それは分かりません。人外の力を得るとか何とか言っていました。

修羅 人外の力？

琴音 月華の国宝だけじゃありません二陽炎の国宝も持って来いと。

竜斬丸 2つの国宝と月華の大君を交換というわけか。

琴音 どうかお願いです二国宝を持って我々と一緒に来て下さい二

胡桃 お願いします二

輪廻 勿論だ。修羅、大至急出る準備をしろ。

竜斬丸 俺は反対です二このまま敵の城へ行くなんて無謀すぎます二守護者として大君を危険な目に合わせるわけにはいきません二

輪廻 だけ、竜斬丸。お前にも働いてもらうぞ。

竜斬丸 反対だと申し上げているんです。いくら俺でも数の前では無力です。何の対策もなく敵の陣地に行き、輪廻様を守りきるのは不可能だと思って下さい二

輪廻 俺の事はいい。お前は華紅弥を守ってくれ。

竜斬丸 輪廻様二……その御命令は大君としてあまりにも残酷だと思いいになりませんか。

輪廻 すまない。だが分かってくれ。俺には華紅弥が必要なんだ。

竜斬丸 輪廻様二

竜斬丸、刀を抜き、輪廻の喉元へ。

竜斬丸 申し訳ありません。ですが、輪廻様には輪廻様の思いがあるように、俺には俺の思いがあるんです。俺は絶対に輪廻様を死なせるわけにはいかないんです二

輪廻、ゆっくり竜斬丸の刀の刃を握る。

竜斬丸 輪廻様、何を!?

輪廻 ありがとな竜斬丸。大抵の事だったらお前の言う通りにするよ。そこまで俺を思ってくれるお前の気持ち、無駄にしたくないからな。

竜斬丸 輪廻様離して下さい。

輪廻 でも今捕まってんの華紅弥なんだよ。もし、アイツじゃなかったらお前の言う通りにするよ。でもな、華紅弥なんだよ。

竜斬丸 離して下さい。血が出ています!二

輪廻 だからお前を傷付ける事になつたとしても、俺は命令する。今から影星に行く。竜斬丸もついて来い。そして、華紅弥を守れ。

竜斬丸 分かりました、ですから離して下さい!二

輪廻、刃を離す。悠奈、輪廻の傷の手当てをする。

竜斬丸 ……輪廻様は俺に生き甲斐を下さつた方だ。その上、死に場所まで作って下さる

というなら、文句はありません。

輪廻 簡単に死ぬ事は許さんけどな。

竜斬丸 ……厳しいお方だ。

修羅　それが陽炎の大君ですよ、竜斬丸さん。

竜斬丸　確かに。．．．だが、そんな人に惚れてしまったんだ．．．．仕方ないな。

輪廻　全員、急ぎ準備しろ。すぐに影星へ向かう。

輪廻、客席を向いて。

輪廻　華紅弥、待ってる。必ず助け出す。

全員ストップ。モーションの中、華紅弥だけ動く。

華紅弥　輪廻．．．．輪廻。

全員、客席の方を向く。

——
一幕、終

幕が上がる。下手後方、階段付近に民が立っている。

上手後方から輪廻、修羅、竜斬丸、玲亜、悠奈、琴音、胡桃が入ってくる。

民 お待ちしておりました。こちらです。

民、下手後方の階段を降りる。輪廻一同、下手へ移動し、階段を降りようとする。

悠奈 輪廻様、お話があります。

輪廻 何だ？

神威様の目的についてです。……神威様の目的はこの大陸を統一国家とする事。それが真の平和を築く方法だと確信しておいでです。それが何故、華紅弥様を人質にとらねばならなくなつたのか分かりません。ですが、このような策、神威様の考えとは思えません。作案者がいるとすれば、

輪廻 羅刹か、あの新しい助言者だな。

悠奈 はい。神威様は目的のために手段を選ばない方ですが、筋は通される方です。

竜斬丸 何故、悠奈殿が影星の大君の事にそこまで詳しいのです？

玲亜 まさか。

修羅 そうか、悠奈さんは影星から陽炎に遣わされた…。

琴音 あんたねえ！あんた達のせいで華紅弥様が酷い目に合わされてるのよ…？分かってんの…？

悠奈 申し訳ありません。

胡桃 あなたから大君に言つて華紅弥様を解放出来ないんですか…？

輪廻、琴音と胡桃を手で制して、

輪廻 何勘違いしてんだ。ウチの優秀な部下が有益な情報を提供しただけだろ。

胡桃 勘違いつて…輪廻様…！

輪廻 悠奈は陽炎の民だ。

悠奈 輪廻様…。

修羅 よろしいのですか？

輪廻 よろしいも何も、悠奈は陽炎の民だ。

悠奈 輪廻様…！私はどのような処分も覚悟出来ております…！

玲亜 陽炎にとって不利になるような事は？

輪廻 言っていない……だろ？

悠奈 決して。

輪廻 処分なんて必要ない。お前は今まで通り俺を楽しませればいい。

琴音 でも……！

輪廻 華紅弥は必ずお前達の元へ帰す。だから、これ以上は勘弁してくれ。

胡桃 その言葉、信じて良いのですね？

輪廻 俺は嘘はつかない。

胡桃 ……分かりました。

竜斬丸 しかし、何故、今ここで正体を？

修羅 神威様の話を冷静に聞いて欲しかった、からではないですか？

悠奈 はい。

輪廻 それが悠奈の望みならそうしよう。その後の事も望み通りになるかは分からんけどな。

民 どうされました。輪廻様、どうぞこちらへ。他の方々も今こちらへ向かっております。

玲亜 輪廻様。

輪廻 ん？

輪廻、玲亜以外、下へ降りる。

玲亜　もしかして悠奈さんが影星の密偵だという事も分かってらっしゃったんですか？

輪廻　いくら俺でも流石にそこまでは分からんさ。

玲亜　そうですか。

輪廻　ガツカリしたか？

玲亜　いえいえ、そんな…！

輪廻　ただ信じているだけだ。悠奈は俺を裏切る奴じゃない。

玲亜　そうですね。

輪廻　行くぞ。お前はお前のすべき事をしろ。自分の信念に従ってな。

玲亜　はい。

輪廻、玲亜、下へ降りる。民が下手から入って来る。

民　時間通りですね。(下手に向かって)皆様、こちらへどうぞ。

斑鳩、那由他、可南汰、不知火が入って来る。

那由他　輪廻様、ご迷惑をおかけして申し訳ございません。

輪廻　頭を上げる。迷惑なんて思ってない。それより、華紅弥はどこだ。

那由他 神威様と一緒に居らっしゃいます。手荒な事をされていないと良いのですが。

修羅 向こうの目的は各国の国宝を手に入れる事のようにです。手荒な事をする意味がありません。大丈夫だと思いますよ。

那由他 はい。

上手から弥勒が入って来る。

弥勒 これは珍しい。陽炎の大君がこんなに早く指定場所に到着するとは。やはり華紅弥様の事と

なると少しは真面目になるんですね。どうです？お茶でも。

輪廻 いらねーよ。お前みたいは奴からもらうモノなんて何もねえ。

弥勒 これは随分と嫌われたものです。もしかして痺れ薬でも入っていると思っただのですか？

弥勒、お茶を飲む。

弥勒 うん。美味しいお茶です。緋巫佳様から頂いたお茶なんですけどね。何とも心地よい気分にな

れるんですよ。

那由他 ……このお茶の二オイ……。

斑鳩 どうかされましたか？

那由他 これは知識を求める者の間では禁忌とされているお茶のはず。飲む者を催眠状態に誘うお茶です。

弥勒 禁忌……このお茶が。こんなに気分よくさせてくれるお茶が世に出ないとはおかしすぎます。さて、そこなのですが……輪廻様。

輪廻 何だ。

弥勒 既に聞いてらっしゃるかもしれませんが、神威様は三つの国宝を揃える事を希望していらつしやいます。が、華紅弥様が何らかの事情であなたに預け、輪廻様の手元に二つの国宝がある。つまりこれは、輪廻様が一番「あがり」に近いという事が出来るわけです。

輪廻 だから何だ。

弥勒 華紅弥様を諦めるといふ選択肢もあるって事です。

輪廻 何だと？

弥勒 たかだか女一人。どうでもいいじゃありませんか。それより、影星の国宝を手に入れれば、この大陸を統一する事が出来るそうですよ。そうすれば女など選り取り見取りじゃありませんか。それを望むならこの弥勒、微力ながらお手伝いさせていただきます。もともと、大陸統一を果たした暁には私に法を作る権利を与えて頂く事が条件ですが。

輪廻 結局金か。くだらねえ。

弥勒 人の欲は全て金で満たされるものです。

輪廻 すまないな。産まれてから今まで欲が満たされなかった事が無いので共感出来ん。

弥勒
……それでは交渉は決裂という事ですね。残念です。

民、上手から入って来る。

民
お待たせ致しました。

上手から神威、羅刹、朧、希来李、水鏡、緋巫佳が入って来る。

神威
あらあらあら。皆勢揃いって感じし？

羅刹
何か余裕のない表情が笑えるでゲスね。シエシエシエシエ。

輪廻
華紅弥はどこだ。

神威
銀狼丸ちゃんが連れて来るわ。

胡桃
華紅弥様に酷い事はしていませんか！？

朧
アイドルになってチャホヤされて勘違いしているのかしら？ダメよ？あなたみたいな下々の者が直接大君に話しかけるなんて。

琴音
今は身分なんか関係ありません！華紅弥様は無事なんですか！？

那由他
琴音。言葉には気を付けて下さい。我々の言動が華紅弥様の立場を悪くする可能性がある事を忘れてはいけません。

琴音

でも……!

輪廻、手で会話を遮る。

輪廻

神威。やつと本性を現したな。

神威

やつと？何、輪廻ちゃん私がやろうとしている事、分かってたの？

輪廻

何か良からぬ事を企んでいるのは気付いてた。

神威

良からぬ事……。真の平和を作り出そうとする事は良からぬ事かしら？もしそれが華紅弥ちゃんの事を言っているなら、ものすごく視野の狭い個人的な意見よね。私の信念に比べれば、事の善悪を語る水準にすら達していないわよ？

輪廻

これだけの火種を作っておきながら、それでも尚、自分が正しいと言いきれるのか？独裁者だな。

神威

いいえ………いいえ、違うわ。私は独裁者じゃない。これまでずっと考えてきたのよ。真の平和について。十数年ずっと自問自答してきた。自分の国の事しか考えてこなかった輪廻ちゃんに、私の事を独裁者とは言わせない。絶対に。

輪廻

悪いが俺には俺の信念があるんだ。そう簡単に引くわけにはいかないんだよ。

神威

分かっているわ。続きは華紅弥ちゃんが来てからにしましょう。

銀狼丸、華紅弥を連れて上手から入って来る。華紅弥は後ろ手に縛られている。

輪廻 華紅弥……

華紅弥 輪廻……すまない。

銀狼丸 お連れ致しました。

神威 ありがとうございます。……一応言っておきましょうか。華紅弥ちゃん、私達、手荒なマネはしてないわよね？

華紅弥 これ(縛っている縄)以外はな。

神威 仕方ないのよ。華紅弥ちゃん強いから。縛ってないと大人しくしてくれないでしょ？……と
りあえず安心してくれたかしら？

月華の民、顔を見合わせる。那由他、代表して、

那由他 はい。

神威 そ。良かったわ。じゃあ、早速本題に入ろうかしら。

羅刹 ではまず、月華の国宝は持ってきているでゲスか？

修羅 ……(ニ)。

修羅、袋に入った国宝を前に出す。

羅刹 結構、結構。素直でよろしいでゲス。次に陽炎の国宝を……。

輪廻 その前に聞きたい事がある。

羅刹 何でゲスか？

輪廻 何が目的なんだ。国宝を集めて何になる。それとお前の言う真の平和とどう繋がるんだ。

神威 その子達から聞いてないの？ 国宝を3つ集めると一振りの剣になるのよ。そして、その剣を持つ者は人外の力を持つことが出来るらしいわ。千年前の大戦でも使われたらしいわよ……
そうでしょう？

緋巫佳 はい。

修羅 人外の力など手に入れてどうなさるおつもりですか？ 人が人を越えた先に平和があるとお
思いですか？

神威 欲にまみれた者が力を手にしたなら、それは混沌を呼ぶ道具にすぎないわね。でも私は違つ。
信念あるものが力を手にしたなら、それは道になるのよ。

那由他 その道の先に真の平和があると？

神威 いいわねー。頭の良い人と話をするのは好きよ。

羅刹 で、で、それで、でゲスよ。陽炎の国宝はお持ち頂けたでゲスか？

輪廻 いや、持って来ていない。

羅刹 何でゲスと〜!!

輪廻 2つ揃えた所で無事、華紅弥が解放される保証もないしな。

華紅弥 そろそろお前の信念とやらを具体的に説明してもらおうか。私達が納得出来るような考え
なんだろうな？

神威 そうあってくれる事を願うわね。……いいわ、話してあげる。まず……今のこの大陸って平和
だと思っ？

輪廻 ああ。

神威 華紅弥ちゃんは？

華紅弥 平和なんじゃないか。争いがないからな。

神威 私もそう思う。何故争いがないか？それは三国の大君がそれを望んでいないから。自分の国
を大きくしようなんて野望を持ってないから平和でいられる。

華紅弥 ならどうして。

神威 今はね！でもこれから先は？自分達の子孫がバカな行動を起こさない保証なんてないわよ
ね？未来もずっと平和が続くなんて約束は誰にも出来ない。そうでしょう？

輪廻 だから国を統一し争いを起こす火種を消そうという事か？

神威 そう。

輪廻 国が一つになったって争いが起こる可能性はある。そんな大国になったら後継ぎ問題は今の
比ではないだろう？

神威 そう、それ！！私はその世襲制を変えたいのよ。

華紅弥 世襲制を変えるつて、王族の言つ事か？

神威 だから言つたでしょ？私我真の平和を望んでるの。だつて考えてもみなさいよ。王族に生まれただけで大君になるつておかしくない？政治的才能のない子だつて生まれるわけでしょ？無能な大君が国を治めるなんて民にとつては悲劇以外の何物でもないわ。

輪廻 じゃあどうやつて大君を選ぶんだ？

神威 なりたい者が立候補すればいいじゃない。推薦されてもいいわね。そうした中から民が「この人に大君になつて欲しい」つて人を選ぶのよ。

華紅弥 民が大君を！？

神威 民あつての国だもの。大君も民が選ぶのが筋つてものでしょう？

輪廻 立候補や推薦は誰でもいいの？

神威 そこで下手に線引きしたら意味ないじゃない。誰でもよ。勿論、私達もね。

輪廻 大君を民が選ぶ国か……。いや、だがそれと華紅弥を人質にする事は違うだろ！！

神威 手荒な事をした事は謝るわ。でも先々、起こるかもしれない事を現実的にとらえて欲しかつたから手段は選ばなかつた。こつこつ事がいつか本当に起こるかもしれないのよ。

華紅弥 ……本気じゃなかつたつて事か？

神威 いいえ、本気よ。もし、2人が私の考えに賛同してくれない場合は、強引にでも私は私の道を進む。2つの国を相手に戦争するんですもの。人外の力は必要でしょ？

華紅弥 誰よりもこの大陸の平和を考えて来た……その言葉に偽りは無いようだな。私ではそこまでの事は思いつかない。輪廻はどう思う？

輪廻 俺は……俺は、華紅弥を危険な目に合せた奴の言葉に賛同する事は出来ない。

華紅弥 ……輪廻は何でも完璧にこなす奴だと思っていたが、苦手な事もあるんだな。

輪廻 ……何だよ。

華紅弥 お前は嘘をつくのが下手だ。

輪廻 だって華紅弥が……

華紅弥 輪廻。

輪廻 ……ああ、そうだよ……神威の理想とする国を面白そうだと思っちゃいましたよ……認めますよ……悔しいが俺も思いつかん。……悔しいけどな……

神威 あら、意外とすんなり受け入れるのね。

華紅弥 神威が本気だつて事は目を見れば分かる。……だろ？

輪廻 そうだな。

神威 有難う！この3人が力を合わせれば黄泉の剣以上の力が出せるに決まってるわ！……ところで輪廻ちゃん。愛する者が人質に囚われてるのに国宝置いてくるなんて良い度胸ね。

華紅弥 まったくだ。

輪廻 そうじゃない。俺も預けてあるんだ。

神威 え？

輪廻 神威が何か企んでいるのは気付いていた。考えられるとすれば大陸支配しかないだろう？だとすれば支配した証しとして求められるのは何だ？

神威 国宝。

輪廻 もし万が一、影星に負けても国宝を守れるように華紅弥に預けた。

華紅弥 私に！？

輪廻 正確には華紅弥に、ではないけどな。

神威 私の動きに気付いてそこまで動いてるなんて。流石は輪廻ちゃんといった所かしら。

輪廻 やめる。今のお前に言われても嫌味にしか聞こえない。

神威 素直に受け止めなさいよ。純粹に褒めてるんだから。輪廻ちゃんは私の見えない範囲の視野を持つているよっね。

輪廻 ああ、それで思い出した。さっき言ってた黄泉の剣？の件だが。

神威 何？

輪廻 千年前の戦争でも使われたって言ってたよな？それっておかしくないか？

神威 え、？

輪廻 そんなに強い力を持った者が戦争した後、どうして国が三つに分かれる？それこそ統一国家が出来ていてもおかしくないだろう。

神威 そういえばそうね……。

輪廻 この話、誰から聞いた？

神威 それは……。

華紅弥 おい神威……

神威 何？

華紅弥 話はまとまったろ。私はいつまでこうしていればいいんだ？

神威 あらゴメンなさい。ついつっかりしてたわ。銀狼丸ちゃん、華紅弥ちゃんを放してあげて。

銀狼丸、動かない。

華紅弥 ……おい？

神威 聞いている？早く華紅弥ちゃんの縄を解いてあげなさい。……銀狼丸ちゃん？銀狼丸……！

羅刹 シェンシェンシェン。銀狼丸殿はもう神威様の命令には従わないでゲスよ。

神威 ……どつという事だ？

羅刹 才能ある者が国を……大陸を治める。全くおっしゃる通りでゲス。

神威 ねえ、あなた。先程おっしゃった事は全部本心ですか？本当に大君を民が選ぶのが理想とおっしゃってるんですの？

神威 そうだ。素晴らしい事だろ？それでこそより良い国作りが出来る。それに、俺達だってもっと2人の時間が作れるようになるんだ。

神威 本当に？本当に本気でおっしゃってるの？

神威 勿論だとも……

臃 まああああ……それは残念。

神威 臃？

臃 これから刺激的な毎日が始まるのかと思いきや何なの、この共に高みを目指しているうみたいな展開は。私、そついうの望んでないんだけど。

神威 どうしたんだ臃。

臃 もーやめて。名前で呼ばれるのも嫌。私はね、つまらない男に用はないの。

臃、羅刹の隣りに移動し、頭をあずける。

羅刹 そーゆー事でゲス。神威様……あんたの出番はもう終わったんでゲスよ。

神威 羅刹キサマ……

羅刹 凄まない、凄まない。そんな事をすれば自分のマヌケさに拍車をかけるだけでゲス。

神威 お前達何をしている、早くこの無礼者をひっ捕えろ……

周りの民、誰も動かない。静寂。臃、羅刹、大笑い。

臃 面白い……面白いわ……あなたにこんなに人を笑わせる才能があるなんて知らなかった。大君

より道化の道を進むべきじゃなくて？

希来李 お姉様……！

羅刹 人を駒としてしか扱ってこなかったツケがこうして回ってきたって事でゲスかね。

神威 ……お前達全員裏切ったというのか……？

羅刹 ならんで嘘でゲスよ……！緋巫佳殿にちよつと協力してもらったでゲス。

緋巫佳 薬を使いました。城内の者は羅刹様の言っ事しか聞きません。

羅刹 と、いうわけでゲス。

神威 お前が野望を持った男だという事は分かっていた。だが、正しい方へと向かってくれる事を祈

っていた。俺が認められる器なら大君の座も譲つていいと思つていたんだぞ……！

羅刹 影星のしよう……それじゃあつまらないでゲス。せつかく黄泉の剣の話聞いたのだから、

それを利用しない手は無いでゲスよ。

臈 この大陸全土を支配し、己の欲望のまま生きる事こそ幸せと呼べるのではなくて？

華紅弥 腐つてるなキサマら。

臈、華紅弥の髪をつかみ、

臈 はい？何かおっしゃいました？

輪廻 テメエ……！

神威 臃……

羅刹 まあまあ、そう熱くなるもんじゃないでゲスよ。ま、それでゲスね。今はとりあえずこの城をもらうとして……輪廻様、国宝を月華に預けたというのは本当でゲスか？

輪廻 ああ。

羅刹 もう……面倒臭いでゲスね……！ 全くなんて空気の読めない人なんでゲスか……！

臃 まったくだわ。

羅刹 そうなると当然、在り処は華紅弥様じゃないと分からないって事でゲスか……。斑鳩、お前、分かるでゲスか。

斑鳩 いや、分からない。おそらく華紅弥様のお部屋だろうが、場所までは……。

那由他 斑鳩様？

斑鳩、羅刹に近付きながら、

斑鳩 先程の華紅弥様の反応から、ご自身で国宝を預かったという認識はなさそうだ。という事は何かに紛らせている可能性が高い。華紅弥様本人でないとどれが陽炎からもらったものか分からないだろうな。

華紅弥 斑鳩、お前……。

羅刹 と、なると華紅弥様に取りに行ってもらうのが一番手取り早いって事でゲスか。

斑鳩 ああ。

羅刹 仕方ない。時間がかかって面倒でゲスが、月華に取りに行つて頂くでゲス。

羅刹、華紅弥の縄を解こうとした時、

修羅 それは手順が違う……。

羅刹 ……ん？……ああ……それでゲスね……このまま華紅弥様を解放したら一気にやられてお
終いでゲした……危ない、危ない。

羅刹、刀を抜いて輪廻に突きつける。

羅刹 銀狼丸。華紅弥様の縄を解くでゲス。

銀狼丸、言われた通り華紅弥の縄を解く。自由になる華紅弥。

羅刹 余計な動きはしない事でゲス。

輪廻 そういうことが……修羅。

修羅 はい。

輪廻 兄と弟がいます。離れて暮らしています。いつか一緒に暮らすのが夢です。…何一つ嘘をついてないもんな。頭の良なお前らしい言い方だ。

修羅 もう一つ申し上げたはずですよ。今は迷っていると…！輪廻様、私は……！

輪廻 どうすればいいかなんて俺に聞くなよ？お前がどうしたいかだ。

修羅 本当に分からないのです…！兄弟も大君も私にとってはかけがえのない大切なものです。どちらかを選ぶなど出来ません…！

輪廻 じゃあ目エつぶれ。

修羅 ……え？

輪廻 目エつぶって考えろ。俺達が崖つぶちに居たとしてお前が命綱を握ってる。だが、お前の力じゃ片方しか引つ張る事が出来ない。…どつちを助ける？

修羅 輪廻様、おっしゃって下さい…！俺に付けと…！

輪廻 言わねえーよ。これはお前自身で決めるんだ。

修羅 輪廻様…！

輪廻 テメエの人生だろ…！いつまで他人の作った道歩くつもりだ…！考えろ…！

修羅、目をつぶり、考える。——間。修羅、目をつぶったまま、

修羅 輪廻様。

輪廻 何だ。

修羅 覚えてらっしゃいますか？私が初めて輪廻様に会った時の事。

輪廻 ああ。

修羅 竜斬丸さんの時と同じでしたね。「側近にして欲しい」という私の言葉に2つ返事で了承して下さいました。私の目を見て、了承して下さいました。何の条件も出さず、私の目を見た、ただそれだけで。……どんなに嬉しかったか。そして、どんなに申し訳なかったか。気にすんな。過ぎた事だ。

修羅 それですよ。その器が何より私を惹きつけて、何より悲しくさせるんです。すまないな。

輪廻 輪廻様……。

何だ。

修羅 ありがとうございます。やはり私には身内を捨てる事など出来ません。

輪廻 いいんだよ。お前みたいな優秀な奴が敵に回ってこそ面白いじゃねえーか。

修羅 必ず後悔させてみせます。

輪廻 それでも勝つのは俺だがな、そしたらいつでも帰って来いよ？命令だからな。

修羅 はい……！

修羅、羅刹の方へ移動。

羅刹 話がまとまったようで何よりでゲス。何よりでゲスが……あまりの事に立ちつくしている

人が一人居るでゲスよ。気持ち悪いでゲスね。

神威 神威 キサマ等……俺がこんな事を許すと思っているのか？

臙 臙 見苦しいわね。許すも許さないも今やこの城……いえ、影星は私と羅刹のものなの。命だけは

助けてあげるからさつさと消えて下さる？

神威 神威 臙、お前は……

神威、刀を抜こうとするが周りの兵士も反応する。

それに気付き華紅弥、神威を止める。

華紅弥 華紅弥 よせ……今、この場で抜いても勝ち目はない。

羅刹 羅刹 そんな事あるわけないでゲスよ。華紅弥様が本気になれば我々なんて一瞬でズタボロにされるでゲス。ただ……この方は確実に死ぬ事になるでゲスけどね……

華紅弥 華紅弥 キサマ……。

緋巫佳 緋巫佳 神威様は城から追放……華紅弥様は月華へ戻り陽炎の国宝を持って来る。これでよろしいで

すか？

羅刹 羅刹 と、すればここにいる連中。どうすれば面白くなるでゲスカねー。

臃 ……ねえ、羅刹。
羅刹 はい、何でゲスか？

臃、羅刹に耳うち。

羅刹 シエシエシエシエ…それは面白いでゲス…まず…悠奈殿。

悠奈 はい。

羅刹 悠奈殿はここに残るでゲス。あなたは元々、影星の民でゲスし、何より、輪廻様の事が心配でゲしょ？

悠奈 いいえ…私は今日限りで影星を捨てます…!

臃 あら、あなた、親まで捨てるつもりなの…?ヒドい…ヒドすぎるわ…!

悠奈 ……臃様、母に何をしたんです…?

臃 何もしてないわよ…!むしろ手厚く介護してる位なんだから。

悠奈 臃様…!

華紅弥、悠奈を手で制して。

華紅弥 輪廻の事、頼めるか？

悠奈 華紅弥様！？

華紅弥 奴等の事だ。どうせロクな事を企んでないだろう。お前なら私が戻って来るまでの間、任せられる。時間を稼いでくれると信じている。

悠奈 随分勝手な期待ですね。

華紅弥 すまない。

悠奈 そんな風に期待されたら断るわけにはいかないじゃないですか。

隴 決まりね！？決まり！？悠奈はここに残ると！！

悠奈 分かりました。

羅刹 で、次に水鏡殿。

水鏡 え、はい！？

羅刹 輪廻様を人質にとっているとはいえ、そのまま逃げないとも限らないでゲス。見張りを頼めるでゲスか？

華紅弥 私が輪廻を置いて逃げるだ！？

羅刹 万が一の事を考えてでゲス。

緋巫佳 人は誰しもいざという時には自分がかわいいもの。違いますか？

華紅弥 違うな。自分の命よりも大切なモノはある。

水鏡 あ、私は……。

羅刹 勿論、ただ働きしろと言うつもりは無いでゲス。報酬として……それでゲスね。私が大陸を支

配した暁には水鏡殿以外の道化を排除し、活動できるのはあなた一人だけにしてあげるで
Ges。

不知火 どういう事ですか！？

羅刹 ……何だか意外な所から声が聞こえたでGesね。月華の道化はこんな事も理解出来ないの
でGesか？（水鏡に）とにかく陽炎の国宝を届けてほしいでGes。それが出来れば他の道化は
いなくなり、この大陸全ての民が水鏡殿の芸に酔いしれる事になるでGesよ……シエシエシエ
エシエ。

水鏡 羅刹様、それは……！

臃 頼みましたね。水鏡。

水鏡 臃様……。

弥勒 羅刹殿。

羅刹 何でGes？

弥勒 一応、私も月華まで行きましょう。申し訳ないが水鏡殿だけでは心許ない。

羅刹 ……その辺は……まあ、お任せするでGes。

弥勒 かしこまりました。

羅刹 あとのメンバーは……別にどうでもいいでGesね。好きにするでGes。

修羅 兄さん、もう少し考えるべきでは？

羅刹 何かもう本当に色々面倒くさいんでGesよ……すぐに黄泉の剣が揃うと思っていたのにこの人

が余計な事するからでゲス…!

臆 そうよね…やっと下々の者達の悲鳴と絶叫が聞けると思っていたのに興奮が止まらずわ…後でその罪、たっぷり償ってもらいますからね。

輪廻 おー恐い。

華紅弥 臆とやら。

臆 はい？

華紅弥 輪廻に手を出したら分かっているだろうな。簡単には殺さない。お前の方から百万回「殺してくれ」と懇願するまで苦しみを与え続けてやる。

羅刹 もう、そういうのいらさないでゲスから早く取りに帰るでゲス。

臆 早く行って早く帰ってくればその分だけマシな姿でいられるでしょうね。走って、走って、走りまくるがいいですわ…この方が心配なら…おくほっほっほっほっほ…

華紅弥 その前に。

臆 何かしら？

華紅弥 もう今となつては利用する事もないだろう。可南汰と希来李の事は認めてやってくれ。

可南汰 華紅弥様…。

臆 利用する事もない…か。確かにそうですね。どうせあなたもここに残る気はないでしょう？

希来李 お姉様。お姉様はどうして…？

臃 言つても分からないでしょうし、分かつて欲しいとも思わない。所詮私とあなたは違うのよ。

希来李 私、お姉様が体が悪いと嘘をついている事は分かつてました。でもそれは神威様と一緒にいた
いからだつて……。だから可南汰を騙してまで……

臃 ありがとう心優しい妹。そしておめでとう。全て無駄だつたわね。

希来李 お姉様。

可南汰 希来李、もついい。こつちにおいで。

希来李 でも私は……

可南汰 僕は大丈夫。気にしてなんかいない。希来李にも事情があつたのは良くわかつたから。

希来李 でも……

可南汰 大丈夫。こつちにおいで。

希来李 可南汰は優しすぎるよ……。私はもうあなたの隣にいる資格がない。

可南汰 資格なんていらな……僕が望んでるんだ、希来李に傍に居て欲しい……

希来李 可南汰……。私はもう二度と可南汰に嘘はつかないって言つたら信じてくれる？

可南汰 勿論……

希来李、可南汰の言葉に少し微笑み、臃の方を向いて、

希来李 ……お姉様、どうかお元気で。いつか自分の過ちに気付き、悪い夢から醒める事を祈つていま

す。……さようなら。

臆、目を合わせない。不機嫌な様子。

希来李、その姿を見て寂しそうに背を向け、可南汰の近くに移動。

華紅弥 月華までは一緒に来い。着いたらすぐにこの大陸を出るんだ。お前達は全てを忘れ、自分達

だけの幸せを考えろ。いいな。

可南汰 しかし華紅弥様!!

華紅弥 これは命令でもあり、私の願いでもある。私にも誰かを幸せに出来るんだという自信が欲しい。お前達が幸せになって、私に自信をくれないか。

希来李 わかりました。

華紅弥 急いで月華へ戻るぞ。……神威。

神威 ……何だ。

華紅弥 お前も一緒に来い。神威が本気を出せばかなり強いのは知っている。が、それでも敵の数に屈することになる。機会を待て。

神威 俺に力を貸すと言うのか？

華紅弥 どうやら敵は同じようだ。協力した方が良いに決まってる。だが輪廻が人質にとられている今、「時」じゃないのは分かるだろ。

神威 俺に引けと？

華紅弥 引けではない。耐えるだ。

神威 何があつた。

華紅弥 ん？

神威 前回の交友会から3ヶ月。何があれば人はそこまで変わる？この俺を飲み込むなど大した大君つぶりじゃないか。

華紅弥 聞く必要があるのか？お前なら分かるだろ。

神威 ……輪廻か。

華紅弥 ああ。今の私は、自分で自分が嫌いじゃない。なかなか良いものだぞ。そういうのも。

神威 ……分かった。ここは耐えるでしょう。行こうか。月華に。

輪廻 竜斬丸。

竜斬丸 はい。

輪廻 華紅弥と一緒に行ってくれ。

竜斬丸 しかし…！

輪廻 頼んだぞ。お前になら任せられる。……お前だから任せるんだ。

竜斬丸 ……かしまりました。

輪廻 玲亜。

玲亜 はい。

輪廻 成すべき時が来たって事だな。

玲亜 ……はい。

輪廻 信じる。自分と仲間を。

玲亜 はい。

華紅弥、輪廻に近付こうとするが、周りが警戒。

華紅弥 待っていてくれ。すぐ戻ってくるからな。

輪廻 俺としてはこいつ等が言ったように逃げてくれた方がいいんだけどな。どうせこいつ等じゃこの大陸どころか影星だって3年もたないだろ。

羅刹 輪廻様、一つ良い事を教えるでゲス。私はね、他人をバカにするのは大好きでゲスが、他人にバカにされるのは大嫌いなんでゲスよ。

羅刹、輪廻に正座をさせ、太腿を踏む。

華紅弥 よせ! ……私は必ず帰ってくる。緋巫佳も。お前が今までどんな奴と出会ってきたのかは

知らんが、自分の命よりも大切なものがあるということを教えてやる。

緋巫佳 ……楽しみですね。

華紅弥
行くぞ。

華紅弥、一瞬輪廻を見て、下手へ去っていく。

那由他、琴音、胡桃、玲亜、竜斬丸、可南汰、不知火、希来李、弥勒も続く。

神威、その場に残り、羅刹と臃を見る。

神威
(臃に)これがお前の本性か。

臃
そうね。私は刺激的な事が好き。楽しい事が大好き。

神威
お前の楽しい事とは？

臃
他人の不幸。

神威
その欲求を叶えてくれるのが羅刹だと？

臃・羅

羅刹
でゲス。

神威
俺の知らない所で何か弱みを握られたのではないか？

臃
しつこいわね。あなたじゃ退屈だって言ってるでしょ。その点羅刹は最高。私にゾクゾクした

刺激を与えてくれるわ。争いと混乱。殺戮と略奪の光景を私に見せてくれる。

神威
自分は安全な所からな。

臃
当たり前でしょう。私は特別なものだから。それとも何？あなたが羅刹以上の刺激を私にく

れるっていのの？

神威、臙を見たまま無言。

輪廻

おい神威。まさか一人の女の為に信念を捨てるつもりじゃないだろうな。

神威

ふざけるな………どれだけの時間、理想を追い求めてきたと思ってる。俺の信念はそんなに安くはない。

臙

あらそ。ざーんねん。

羅刹

そんな事より神威様。いいんでゲスか？早く行かないと。置いてかれてるでゲスよ？

神威

………羅刹。

羅刹

何でゲスか？

神威

俺は必ず戻って来るぞ。

神威、羅刹をひと睨みして下手に去る。

羅刹

さうで、これ以後は待つだけでゲスね。

臙

楽しみだわ。

斑鳩

兄さん。……黄泉の剣というものについて教えてくれ。

修羅 それと、今後の方針も決めなければ。

羅刹 そうでゲスね。諸々はこのオモチャで遊びながら。シエシエシエシエ。

斑鳩 覚悟するんだな。どんなに大きな悲鳴も月華までは届かない。

修羅 斑鳩。

羅刹 それでは、緋巫佳殿。……後はよろしくでゲス。

緋巫佳 かしこまりました。(悠奈に)さ、こちらへ。

緋巫佳、上手階段を上がろうとする。

輪廻 キサマ、悠奈に何するつもりだ!!

斑鳩 あんたは他人の心配をしている場合じゃないだろう。

斑鳩、輪廻を殴る。

修羅 斑鳩!!

悠奈 やめて下さい!……行きますから。

緋巫佳 それでは銀狼丸さんもどうぞ。

緋巫佳、悠奈、銀狼丸、上手階段を上げる。

羅刹
お前達。

民1、2、3、移動し、輪廻を押さえる。

羅刹
さあ、宴の始まりでゲス。

羅刹、朧、斑鳩、修羅、民1、2、3、輪廻、上手へはける。

緋巫佳
さ、これを飲んでください。

緋巫佳、一つの小ビンを取り出し、差し出す。

悠奈
これは？

緋巫佳
あなたはただ飲めばいいのです。拒否権が無いのはお分かりですよ？あなたの言動一つ一つで陽炎の大君がどんな目に遭うか。

悠奈、無言で緋巫佳を睨む。

緋巫佳 銀狼丸さんにはこちらの薬を。

銀狼丸、無言で小ピンを手にする。

緋巫佳 どうしても勝ちたい相手がいるのでしょうか？その為には自分を超えなくては……さ、悠奈さんも。

悠奈、無言で小ピンを手にする。一瞬の躊躇。2人で同時に飲み干す。

緋巫佳 髪黒き者どもよ。私の計画は着々と進みつつある。欲深き者どもよ。お前達は自分の醜い行いにより自らの首を絞めるのだ。……清浄の民は先祖代々受けてきた屈辱を忘れない。この大陸を初めに全ての生あるものを滅す。それに伴い多くの同胞を失う事となろう。だが構わぬ……清浄の民を束ねた我がこの忌まわしい人間の歴史に終止符を打つ！……髪黒き者どもよ。恐れおのき逃げ惑え。例え自らの罪を認め後悔し懺悔したとしても私は許さない。……私は許さない。私は……私は許さない。

悠奈、銀狼丸、徐々に苦しみ出し絶叫する。照明切り替え。

緋巫佳、銀狼丸、悠奈、上手後方から去る。

華紅弥、神威、那由他、水鏡、不知火、玲亜、竜斬丸、弥勒、社、霞、凧が下手から入って来る。

華紅弥　ここが私の部屋だ。手分けをして探そう。

神威　質素な部屋は華紅弥らしいな。

華紅弥　豪華な調度品などあつても邪魔なだけだろ。

那由他　華紅弥様。誰かれ構わず……ましてや男性を大君の部屋に入れるなど!!

華紅弥　構わん。大勢で探した方が早いからな。

弥勒　それで、陽炎の国宝とはどんなものなのです？

華紅弥　わからん。私はアイツから預かったものなどないのだがな。

弥勒　神威様は緋巫佳殿から何か聞いているのでは？

神威、何も答えない。

弥勒　神威様？聞こえてますか？

神威　この俺を前にしてよく冷静でいられるな。キサマ。

弥勒 利用しようとしていたのはお互い様でしょう。自分の思い通りにいかなかったからといって拗ねるのはあまりにも大人気ない。

華紅弥 神威、私からも頼む。何か知っていたら教えてくれ。

神威 ……黄泉の剣は3つの国宝で完成する。一つは影星の国宝、刀の柄の部分。もう一つは月華の国宝。

華紅弥 刀の刃の部分。

神威 そして、陽炎の国宝。一振りの刀に収まる勾玉らしい。

弥勒 と、すると、そう大きくはないという事ですね。

琴音、胡桃が下手から入って来る。

琴音 華紅弥様。可南汰さんと希来李さんを港まで送ってきました。

華紅弥 ご苦労。疲れているところ申し訳ないが、一緒に探してくれ。

胡桃 いえ、大丈夫です…！頑張ります…！

那由他 探すのは勾玉です。おそろくあまり大きくはないかと。

琴音、胡桃、「はい」や「分かりました」等と返答し、探し始める。

弥勒、社、霞、凧は動かない。琴音、不機嫌そうにジッと見る。

琴音 ……あなた達は探さないんですか？

霞 それは私達の仕事ではないと弥勒様に言われています。

琴音 仕事じゃないって……、自分達が勝手な事してるのに何言ってるのよ……

胡桃 琴音ちゃん……

琴音 だってそっじゃん……胡桃は悔しくないの？

胡桃 悔しいよ……悔しいけどさ。

琴音 私、さつき影星の城で何も言えなかった。華紅弥様が傷付いてるのに何も言い返せなかった。

何も出来なかった！

胡桃 それは私も同じだよ。何か言いたいの、何かしたいのに何も出来なくて。

琴音 悔しかった……

胡桃 ……私も悔しかった。

琴音 なのに好き勝手やってるこの人達が何もせずに見ているだけなんておかしいじゃん……あなた達も探さないよ……

霞 私の仕事ではありませんから。

琴音 探さないよ……

琴音、霞に詰め寄ろうとするが、華紅弥が琴音を抱きしめる。

華紅弥 ありがとう、琴音。お前は本当に仲間想いな。

琴音 華紅弥様……。

華紅弥 それで、すまないな。不甲斐ない大君で。

琴音 華紅弥様。

華紅弥 私は大丈夫だ。琴音や胡桃………そして、玲亜のように大君想いの部下を持って私は幸せだ。だから大丈夫だ。

琴音 すみません。私、バカだから、どうすれば華紅弥様の役に立てるのか全然分からないんです

けど、でも頑張りますから。華紅弥様の為に頑張りますから……

胡桃 琴音ちゃんばかり華紅弥様に抱きしめてもらってスルい……私だって頑張るもん……

華紅弥 胡桃。………来い。

胡桃 華紅弥様……！

胡桃、華紅弥に抱き付く。頭を撫でてやる華紅弥。寂しそうにそれを見つめる玲亜。

那由他 私だって頑張るもん……！

那由他、華紅弥の方へ行くこうとして、

華紅弥 那由他。……お前はいいだろ。

那由他 そんなー？

神威 しかし、仮にも国の宝物を相手の認識外の所で渡すとは。……輪廻の考える事は分らん。

華紅弥 ちよつと待て。……宝物？その言葉どこかで……輪廻の口から聞いた事がある。いつ……どっぴ……。

玲亜 そういえば……正確には華紅弥様に預けたんじゃないって仰ってましたよね。アッって何かの手掛かりなのでは……？

神威 華紅弥以外の誰かに渡したって事か？

那由他 私は何も受け取っておりません。

琴音 私も。

胡桃 私も。……あ、玲亜ちゃんは……？

玲亜 私……私も輪廻様から何かを預かった事は……。

華紅弥 違う、そうじゃない。……そういう事か。あのバカ……！

華紅弥、下手袖、もしくは下手階段下に置いておいたメイド服を持ってくる。周りざわつく。

那由他 ……何です、そのメイド服は……。

華紅弥 この服に関しての質問は一切禁じる……

神威 ま、おおよその想像はつくけどな。

華紅弥、メイド服を隅々まで探る。スカート部分に勾玉を見つける。

華紅弥 これか……！

神威 全く………輪廻らしいとか何というか。

竜斬丸 ではそれを持って早く影星へ……！

華紅弥 ああ。

華紅弥、下手へ移動しようとしたとき、弥勒が前に来る。

弥勒 まあ、そう焦る事ないではないですか。少し話をしましょう。

華紅弥 話？

弥勒 黄泉の剣というのは3つの国宝が揃ってはじめて人外の力を得る。……そうでしたね？

神威 それがどうした。

弥勒 刀身と柄だけでは只の刀にすぎません。それが何故そこまでの力を出す事が出来るの

か……それは、その勾玉に力がある……そう考えるのが妥当だと思いませんか。とすれば、勾玉を持つ者が一番有利といえます。国宝3つの内2つは相手の手に渡っていますが、交渉次第ではまだまだ逆転出来る。

華紅弥
……何が言いたい。

弥勒
ま、有り体に言えば「手を組みませんか」って事です。

神威
ふざけているのかキサマ……

弥勒、神威の怒りに対し、指で静かにするよう促す。

弥勒
羅刹殿と今後について話をした事がありますが、あまりにも考えが低俗すぎて目まいがしま

した。正直、あの人の器でこの大陸を治めるなど、とてもとても……。

華紅弥
私も似たようなものかもしれないぞ？

弥勒
いえいえ、中々どうして。最近評判ですよ。大君としての行動に威厳が出てきたと。

華紅弥
持ち上げているようだが、嫌味にしか聞こえんな。私を手の中で転がせる。……そう思っているからの提案なのだろう？

水鏡
あの、私としましてはあまり面倒な会話をして欲しくないのですが。このまま影星に行って頂くわけにはいきませんか？

竜斬丸
早く輪廻様の所へ行きましょう。

華紅弥 分かった。

弥勒が立ちふさがる。

華紅弥 どいてもらおうか。

弥勒 ……仕方ありませんね。

弥勒、体を開き道をあける。華紅弥、前へ進もうとした時、

弥勒 そうそう、神威様。利用していたのはお互い様。今回は私が上を歩きましたがね。でもね、神

威様を認めている所もあったんですよ。例えば……目的の為に手段を選ばないところなど、私には出来ない事です。

神威 お前の言葉はいちいち回りくどいな。

弥勒 が、時には無茶をすることも必要なのですね。華紅弥様。私の前職、何か御存知ですか？

華紅弥 知るはずないだろう。

弥勒 泥棒です。

弥勒、言い終わりと同時に華紅弥から勾玉を奪う。

弥勒と華紅弥の間に社、霞、凧が入る。

那由他 審査委員会の人間が元泥棒というのはどういう事です！？

弥勒 頭の固いお人だ。(審査委員会の洋服を掴んで)コレも盗んだんですよ。数年前、アジトの近くで事故がありましてね。アジトというのが……まあ山の中にあつたんですが、道は狭いし山肌は崩れやすい。慣れていない者が歩けば高さ三百メートルの崖下へ真つさかさまでず。

那由他 なりすましたのですか！？

弥勒 まあそういう事です。

神威 どうりでな。品の悪さは隠せないものだ。

弥勒 負け犬の遠吠えにしてもっとマシな言葉を吐いたらどうです。お前達、行くぞ！！

弥勒、下手へ去る。社、霞、凧も続くが止まる。

弥勒が後ずさって戻って来る。

可南汰、刀を弥勒の喉元へ突きつけながら、希来李と一緒に入って来る。

可南汰 これ以上あなたのような人にこの国をかき回されるのは我慢できませんね。

華紅弥 可南汰！？

可南汰 華紅弥様、申し訳ありません。ですが、どうしてもお役に立ちたくて戻って来てしまいました。

希来李も分かっています。

希来李 私は可南汰が行く所なら、どこへでもついて行きます。

可南汰 ありがとうございます。……さあ、それを華紅弥様に返してもらいましょつか。

弥勒 何を……。

可南汰 無駄な抵抗はやめて下さい。僕も刀を抜いた以上、覚悟を決めていますから。

弥勒 ……ここまでですか。

弥勒、両手を上げて観念する。華紅弥、勾玉を取り戻す。

神威 縄はあるか？

那由他 あ、はい。少々お待ちください。

胡桃 私が持っています。

胡桃、縄を取り出して神威へ渡す。神威、弥勒を後ろ手に縛る。

神威 こいつの処分はどうする。俺の方で裁くか？

華紅弥 いや、こいつは月華の法で裁く。

神威 ……殺すのか？

華紅弥 殺しはしない。が、相応の罪は償ってもらおう。

神威 ……。そいつらは？

華紅弥 この者達は……。

弥勒 今回の一件は全て私一人で計画したものです。そいつらは関係ありませんよ。

華紅弥 ……そいつなのか？

霞 弥勒様から何も聞いていないのは確かです。でも……。

弥勒 頭の悪い連中ですからね。そのまま解放しても何も出来ませんから安心してください。

凧 そんな……だって弥勒様はどうするんですか……

社 弥勒様が牢に入るなら僕たちも一緒ですよ……悪い事してるって知っていながら止めなかった僕達も同罪です……

弥勒 馬鹿野郎……この私とお前が同じなわけないだろう。今日をもって弥勒組は解散です。……お前達はどこへでも好きな所へ行くんですね。

社・凧 弥勒様……

弥勒 さ、行きましようか。こうなったらジタバタしても仕方がないですから、牢でもどこでも言われる通りにしますよ。

華紅弥 こいつらはどうするんだ。

弥勒 言ったでしょう。弥勒組は解散です。私の知った事じゃありません。

華紅弥 しかし、

彌勒 あいつらは関係ないんです。さっさと行きましょう。
華紅弥 ……分かった。

華紅弥、彌勒、上手へ移動しようとした時。霞が土下座をする。

霞 華紅弥様……どうか……どうか許して下さい……勝手な事を言っているのは承知の上です……ですがどうか見逃してください……我々4人は彌勒様を頭にずっと一緒にいました。彌勒様は常に私達の事を考えてきてくれたんです。彌勒様がお金にこだわっていたのも全て私達の生活の為。二度と貧しい思いをしないで済むように考えてくれたの事なんです……どうかお願いです……許して下さい……

華紅弥 ……本当なのか？

彌勒 どうでしょうねえ。確かに最初の目的はそうだったのかもかもしれませんが……。

霞 お願います……彌勒様を許して下さい……もしくは……社さんが言ったように彌勒様の計画を知りながら止めなかった私達も同罪です。同じように裁きをして下さい……

彌勒 霞……

霞 約束したじゃないですか……この4人で生きていくって約束したじゃないですか……ですか……関係ないなんて言わないでください。

琴音、霞の前に来る。

琴音 ……あなた、自分がどれだけ自分勝手に我儘な事言ってるか分かってる？

霞 ええ。

琴音 これだけ私達に……華紅弥様に迷惑かけておきながら許せですって？さっきまでの勢いはど

こ行ったのよ…！

霞 バカにするならしなさいよ。私は華紅弥様に頼んでるの。一緒に生きていくと誓った仲間を

見殺しに出来ない…！

琴音 あなたにとつて仲間って？

霞 ……命よ。

琴音、刀を抜き、剣先を霞の喉元に。

琴音 それを証明できる？

霞 勿論。

霞、琴音の腕をつかみ、刃を首元へ。首を斬ろうとした時、琴音、腕を引く。

琴音
それだけの覚悟があるなら何であの人を止めないのよ、バカ。
霞
そうね。今になって気付くなんて。本当にバカだわ。

琴音、華紅弥の前に来て膝まづく。

琴音
華紅様、私からもお願い致します。この者たちにどうか寛大な処置を。

胡桃
琴音ちゃん！？

琴音
進む方向は間違っていました。彼等の仲間を思う気持ちは本物のようです。私は……例えそれが誰であろうと、仲間を思う者を見過ごす事は出来ません。

霞
あなた……。

琴音
ただし、約束して。もう二度と進むべき道を誤らないって。

霞、ジッと琴音の目を見た後、強くうなづく。

神威
どうする？この手の人情話は嫌いではないが、これだけの罪に対して丸々目をつぶるとい
のは賛成しかねるが。

華紅弥
分かっている。無かった事には出来んな。

琴音
華紅弥様！！

希来李
可南汰。

希来李、可南汰に耳うちする。

可南汰 ええ!? 本気!?

希来李 聞いてみて。

可南汰 うん……。あの華紅弥様。

華紅弥 何だ?

可南汰 はい。その……この4人の罰なのですが、この大陸からの追放、という事でいかがでしょうか。

華紅弥 国……ではなく、大陸からの追放か。

可南汰 しばらくの間、僕と希来李がこの4人のお目付け役として同行します。

華紅弥 何?

可南汰 一生というわけではありません。判断は一任頂きたいのですが、僕がもう大丈夫と思うまでの間、見張ります。

華紅弥 しかし希来李が……。

希来李 可南汰の願いは華紅弥様のお役に立つ事。そして私の願いは可南汰の願いを叶える事です。

可南汰 お任せ頂けますでしょうか。

華紅弥 ……分かった。宜しく頼む。

可南汰 かしこまりました!!

霞、弥勒の近くに。社と凧も続く。

霞 さ、弥勒様。

弥勒 寛大なる処罰、心よりお礼申し上げます。我ら4人、二度とこの地へ戻らぬ事を約束致します。

華紅弥 戻らぬ事ではない。さつき琴音が言っただろう。もう二度と道を誤らぬ事を約束しろ。
弥勒 そうですね。……はい。約束致します。

弥勒、霞、社、凧、下手へ移動。

不知火 寂しくなるな。

可南汰 勝手な事ばかりして悪い。

不知火 何言っただよ。一緒になれって言い出したのは俺なんだからさ。

可南汰 でも残された不知火が……。

不知火 俺は大丈夫。何とか新しい芸を生みだして道化師を続けるさ。

可南汰 僕の所にも噂が届くくらい大きくなれよ!!

不知火 ああ!!希来李さんもお幸せに。

希来李 ありがとう。

可南汰 またいつか会えるといいな。

不知火 じゃあな。元気で。

可南汰 うん。元気で。

不知火 ちゃんと希来李さん幸せにしろよ!?

可南汰 分かっているっての。お前こそお客さんの前でスベッたからって一々落ち込むなよな。

不知火 うるせーよ。……まあ、とにかく何だ!……元気でな。

可南汰 元気でな。またいつかな!!

不知火、笑って手を振る。

可南汰 華紅弥様、今までありがとうございました。月華での日々は僕の一生の宝物です。皆さんも

お元気で!!

可南汰、希来李の手を取り、下手へ去る。

続く弥勒、霞、社、凧、全員下手へ去る。竜斬丸、華紅弥に近付き、

竜斬丸 さ、早く輪廻様の元へ。

華紅弥 ああ。

神威 しかし華紅弥。弥勒は小物の悪党ゆえ人情も効果的だったが、羅刹相手にそれは通用しないぞ。どうするつもりだ。

華紅弥 人情？輪廻を人質にとったんだ。例えそれが通じる相手だったとしても許すはずなからう。

神威 何？

華紅弥 竜斬丸がいる時点でどうするかは決まっている。……戦だ！

全員、「戦！？」と驚く。

玲亜 あの、人質がいるのに戦を仕掛けるんですか！？

華紅弥 ああ。奴等も人質がいるという事で油断しているだろう。

竜斬丸 しかし、輪廻様の身が！

華紅弥 大丈夫だ。あいつなら心配ない。羅刹達のスキをつけて逃げてくれるだろう。

竜斬丸 しかし！

華紅弥 大丈夫だ。輪廻なら私の考えている事がわかるはずだ。

神威 言い切るな。

華紅弥 ああ。

神威 全く……。それだけの自信があるならそうなんだろう。ここは一つ華紅弥の作戦にのりかないか……

胡桃 ああ、私達も……

華紅弥 ああ、頼りにしている。

琴・胡 はい……

華紅弥 水鏡には申し訳ないが、こちらに付き合ってもらおう。敵が混乱すればする程、輪廻が逃げやすくなるからな。……竜斬丸頼んだぞ……

竜斬丸、華紅弥を見ている。

華紅弥 竜斬丸？……どうした？

竜斬丸 いえ、その……今、輪廻様に命令されたような錯覚が。

華紅弥 輪廻に？……似ていたのか？

竜斬丸 はい、凄く。

華紅弥 そうか……。

神威 何をニヤけている。

華紅弥 嬉しいからな。

神威 素直な事で。

華紅弥 神威、お前も来るんだろ？お前なりの決着をつけに。

神威 当然だ。

華紅弥 まさか神威と共闘する日が来るとはな。……那由他、大至急月華の兵を全員集めろ！影星に向けて進軍を開始する……

那由他 はい……

全員下手へ去る。照明切り換え。影星の明かり。上手後方から羅刹と朧が入って来てセンターで止まる。

羅刹 こつちでゲス……こつちの方が広いでゲスよ……！

黒い衣装を着た影星の民が5、6人上手から入って来る。上手袖から斑鳩の雄叫び。人を殴る音。上手から輪廻が転がるように入ってくる。センター付近で倒れる輪廻。周りの民が無理矢理起こす。上手から斑鳩が入って来る。

斑鳩 どうした。たかがこの位で倒れるとは、一国の大君が情けないとは思わないのか？

輪廻 (縄を見せながら)これのせいで均衡がとりにくいだだけだ。大君の底力つてのはこんなもんじゃ

ない。

斑鳩 ……それを聞いて安心した!!

斑鳩、輪廻を殴る、蹴る。その度に周りの民が動いて輪廻を斑鳩の方へ押す。羅刹と臙、嬉しそうな声を上げる。輪廻、自力で立てなくなるが両脇に抱えられて起こされる。

輪廻 抵抗できない奴をここまで出来るとは。お前もなかなかのクソ野郎だな。

斑鳩 クソ野郎に生まれ変わったんだよ。あんたのせいだな。

輪廻 俺のせい？

斑鳩 華紅弥様は確かに大君として成長したよ。一人で抱え込まなくなった。我々にいろんな仕事を任せて下さるようになった。何より……たくさん笑って下さるようになった。あんたのお陰でな!

輪廻 だとすれば礼を言われるならまだしも、恨みをかうような事はしてはいけないと思うがな。

斑鳩 あれは華紅弥様ではない!! 華紅弥様はもつと孤高の存在でなければならぬ!! 何者も寄せ付けず、自らの思うがまま突き進むのが華紅弥様の大君としてのあり方だ!! 今の華紅弥様では……!!

輪廻 皆に好かれるから独占出来なくなってしまふ……か?

斑鳩 何?

輪廻 孤立してる華紅弥の側にいるのが自分だけでありたいだけだろ。そうすりゃ頼られるのは自分だけだもんな。

斑鳩 黙れ。

輪廻 で、お前は華紅弥を手に入れた気分に関りたいわけだ。

斑鳩 黙れ!!

輪廻 華紅弥は孤立を望んでいないのに!!

斑鳩 黙れ!! 黙れ黙れ黙れ黙れ!! 黙れ!! 黙れ!!

斑鳩、輪廻を何度も殴る。押さえていた民もろとも殴り飛ばす。

自分で起き上がる輪廻。

輪廻 嫉妬か? ……残念ながら華紅弥がお前を見る事は絶対にないぞ。何で分かるか?

斑鳩 ……殺す。

斑鳩、刀を抜く。

輪廻 お前が本当の華紅弥を見てないからだよ!! 自分の都合の良い人物像を押しつけやがって。い

いか? お前ごときが華紅弥に惚れる資格なんてこれっぽっちもないんだよ!!

斑鳩　死ね！
臙　待ちなさい！

斑鳩、刀を振り降ろそうとした時、臙が止める。階段を降りて斑鳩の前まで来る臙。

臙　全く……。同じ兄弟でもどうしてここまで出来に差があるのかしらね。(輪廻を見ながら)これは大切な人質。殺したらその役目が無くなって私達が不利になる事くらい分かるでしょう？いいからあなたは下がってなさい。

斑鳩　俺は……
臙　何？まだ何かある？

斑鳩、臙の勢いに押されて何も言えなくなる。下手へ移動。

臙　ここからは私の時間ね。凄く楽しみ。
輪廻　これは正直まいった。……あなたに回る前にもう少し時間稼ぎをしておきたかったんだが、でしょ？うん。私もその空気読んだ。あ、この子で時間稼ぎしてるなって。
斑鳩　何だと？

いーの。へたしは黙ってなさい。あなたは所詮器じゃないのよ。

輪廻

……楽しそうだな。

臃

ええ。楽しいわよ。肉体はとくに限界でしように、精神がそれを上回っているのね。さすが一
国の大君といったところかしら。そんな人を壊せるのかと思うとゾクゾクするわ！銀狼
丸……

銀狼丸、出てきて赤い灼熱の棍棒を臃に渡す。

臃

ね、ホラ、見て見て……鉄製の棍棒がこんなに赤くなってる。ずっと熱し続けた成果ね。どう？

輪廻

どうとは？

臃

熱くて固くて太い棒。ね？ゾクゾクするでしょ？私さつきから体の火照りが止まらないの。
だつてず〜つとおあずけをくってるんですもの。私ね、苦痛の叫び声が聞きたくて、聞きたく
て、聞きたくて、聞きたくて頭がどうにかなりそう……だから私にちよーだい。叫び声……
ううん。唸り声でも構わない。私に頂戴。

臃、ゆつくり輪廻に近付く。羅刹、興奮して、

羅刹

やるでゲスカ！？その棒を押しつけるでゲスカ！？どこでゲスカ！？どこに押しつけるでゲス
か……

臃 まずはそのねー。……ま、ここかしら？

臃、棍棒を輪廻の右肩に押しつける。肉の焼ける効果音。唸り声を上げる輪廻。大声で高笑いする臃。

臃 あははははははは……やっと聞けたわその声……最高よ……ホラ……ホラホラホラホラ……分かる

る？肩が焼けているのよ……肉が焼けているの……凄いニオイだわ……あはははははは……凄いニオイでガス……が、人間の肉のニオイはあまり美味しそうではないでガスねえ。

そうかしら？（棍棒を離して羅刹の方へ向けて）ホラ、棍棒にこの人の肉がこびりついてるわ。食べてみる？

遠慮するでガス。若い女のなら喜んで食べるでガスが。

だって。残念ねー。

臃、輪廻の左太股に押し当ててる。効果音と唸り声。

臃 どう？右肩と左足。これでバランスがとれるんじゃないかしら？なあーにその格好。ね、見て見て、この人うずくまってるわ……じゃあ……背すじを伸ばしてあげる。

朧、輪廻の背中に押し当てる。朧の高笑い。

朧

アラアラ。あんまり動くと危ないわよ。ただでさえ背骨付近は肉が無いんだから。(棍棒を少し離して)ほら。だから言ったでしょ。骨かしら？筋かしら？白いのが見えてるじゃない。気持ち悪い。

羅刹

え！？見えてるでゲスか！？

朧

骨らしきものがね。

羅刹

も〜！朧様ばかりズルイでゲス！ズルイズルイでゲス。

朧

そんなに拗ねないの。あなたにもやらせてあげるわよ。

羅刹

本当でゲスか！？

朧

勿論。降りてらっしゃい。

羅刹

了解でゲス！！

羅刹、下手の階段から降りてきて輪廻を見る。

羅刹

キモッ！見えてるでゲスね！！

朧

見えてるでしょう。

羅刹

早く！！早く！！

臃
しょうのない人ね。

臃、棍棒を羅刹に渡す。

羅刹
お前達。輪廻様を立たせるでゲス。

民達、輪廻を立たせる。グツタリしている輪廻。

羅刹
私は……勿論ここでゲスねー。

羅刹、輪廻の左頬に棍棒を押しつける。臃の高笑い。

臃
いつちやったのね!?

羅刹
うおー、凄いでゲス! 棍棒、こしに肉の焼ける感触が伝わってくるでゲス! これは面白いでゲス……ね……

羅刹「ね……」と同時に今度は腹部に押しあてる。

臃 あー…もう、お腹は私がやろうと思ってたのに…！

羅刹 臃様、こっつうのはやったもん勝ちでゲスよ…！

臃 あなたが拗ねるから貸してあげたのにヒドイわ…！

羅刹 まあまあ。今度はどこにするでゲスか？手の平とか面白そうじゃないでゲス？

臃 いいわねえ…！

羅刹 ではそこは臃様が。

臃 あら、悪いわね。

羅刹、臃に棍棒を返そうとした時、緋巫佳と悠奈が上手から入ってくる。悠奈の目には生気がない。

緋巫佳 羅刹様、準備が整いました。

羅刹 おろ…！待っていたでゲスよ。さ、こっちへ。

緋巫佳を前に悠奈と2人上手の階段を降りてくる。

羅刹 薬の方は？

緋巫佳 効いています。何なりと御命令を。

羅刹 臙様。我々が直接手を出すのも結構ですが、やはり高い所から見てこそ幸福が味わえるでゲ

スよ。

臙 そうね。

羅刹 では上へ。

羅刹、臙、下手の階段を上がってセンターへ。移動中、

羅刹 (緋巫佳に) 悠奈殿に例のものを。

緋巫佳 かしこまりました。

緋巫佳、悠奈に小刀を渡す。通常の小刀よりも刃が短い。

臙 あれでやるの？

はい。

臙 にはしては短すぎるんじゃないかしら。本気で殺すわけにはいかないにしても。

だからこそ長く楽しめるんでゲス。

臙 羅刹、素敵よ。

羅刹 お褒めに預かり光栄でゲス。……では。

羅刹、緋巫佳に合図。緋巫佳、悠奈に耳うち。緋巫佳、上手の階段を使って上へ。悠奈、ゆつくり輪廻の方を見る。

輪廻

……悠奈？

悠奈、ゆつくり輪廻の方へ。近付くにつれ小刀を掲げる。

輪廻

どうした悠奈。……悠奈……

悠奈、小刀を振り降ろす。何とか避ける輪廻。

輪廻

キサマ等……悠奈に何をした！？

二つの国の間で悩み苦しんでいたようなので楽にしてあげただけでガス。

輪廻

前々から言おうと思ってたんだけどな。……ガスガスうるせーんだよ、変態野郎！！

臈

元気になって何よりだわ！……うーんと私を楽しませてね。ホラ、逃げないと大怪我するわ

よ……っ

悠奈、フワフワと動きながら小刀を振る。避ける輪廻。朧の高笑い。

朧 あはははははは……面白い……面白いわ……

羅刹 何か死にかけの虫みたいでゲスね……

悠奈、ゆっくり近付きながらフツフツとつぶやく。

悠奈 ……どうして……どうして私では駄目なのですか？こんなに想っているのにどうして分かって

くださらないのですか？どうして？

輪廻 悠奈……。

悠奈、小刀を振る。避ける輪廻。しかしバランスを崩し斑鳩の足元へ倒れる。

斑鳩、輪廻の首をつかんで起こす。

斑鳩 そうか……お前も……。

悠奈 違う……。分かってる。これは押しつけてはいけない事。私には私の気持ちがあるように、輪廻様にも輪廻様の気持ちがあるから。

斑鳩 そんな事はない……欲しいモノを手に入れたと思うのは人間として当然の事だ……何故我慢

をする必要がある。初めから諦めていたら叶うものも叶わないだろう…！

悠奈　でも諦めたくない。輪廻様の隣にいるのは私でいたい。誰かにとられるなんて嫌。私が誰よりも輪廻様の事を思っているのだから…！

斑鳩　そうだ…！欲しいモノを手に入れる為の手段は選ぶな…！諦めて満足出来るものなど一つもないのだ…！

悠奈　でも違う……。私では輪廻様を本当の笑顔にする事は出来ない。私は輪廻様の笑った顔が好き。だから…。

斑鳩　だから諦めると言うのか！？自分一人だけが諦めて他人の幸せを願うと！？それでお前に残る。くすぶり続ける気持ちを抱えたまま想い人の笑顔を見てどんな満足を見出せると言うんだ…！自分の気持ちに嘘をつくな…！人間はそんなにキレイじゃないだろ…！

悠奈　私は…。

斑鳩　どうしても手に入らないなら仕方ない。それは仕方ない。だが相手の気持ちを自由には出来ない。それなら…！

悠奈　私は。

斑鳩　それならどうする…！

悠奈　それならいつそ…。

斑鳩　それならいつそどうする…！

斑鳩、輪廻を悠奈の方へ押す。倒れる輪廻。悠奈ゆっくり輪廻に馬乗りなる。

悠奈

それならいつそ、輪廻様を殺して私も……。

臈

ちよつと人質なのよ？分かつてる？

斑鳩

殺せ。……殺せ……

羅刹

バカ、やめるでゲス……

斑鳩

殺せ……

悠奈、小刀を上に掲げる。一瞬止まった後、刺そうとした瞬間、修羅が上手後方から入ってくる。

修羅

やめなさい……

悠奈、ピタッと止まる。

臈

んー何でしょうこの感じ。助かったような、面白いものを見逃したような。

羅刹

何かモヤモヤするでゲスね。

修羅

兄さんこれはどういうことですか。

羅刹 何がでゲスか？

修羅 何故人質に拷問する必要があるんです…！

朧 いやな言い方ね。これは暇つぶしよ、暇つぶし。

修羅 暇つぶし？この状況を暇つぶしとおっしゃるんですか…！

羅刹 うるさいでゲスね。お前はどっちの味方でゲス？

修羅 それは…！

緋巫佳 そういう事ですか。

修羅 ……何がです。

緋巫佳 修羅様はこちらの陣営にいる事によって輪廻様を守ろうとなさったのですね？

修羅 変な言いがかりはやめて下さい。私は必要のない拷問を責めているんです。

緋巫佳 言いがかりですか？

修羅 言いがかりです。仕事はちゃんとこなしますからご安心を。

緋巫佳 そうですか。

修羅 さ、悠奈さんも、刀をおさめて下さい。……悠奈さん？悠奈さん。

悠奈 輪廻様、私は…。

悠奈、言いかけて口を閉じる。輪廻の右手を自分の左頬に。

その後、ゆっくり輪廻に、刃を自分に向けて小刀を握らせる。

悠奈 どうかいつも……笑っていて下さい。

悠奈、喉元を刺すように頭を前へ。その瞬間、輪廻、左腕を出して刃と悠奈の間に入れる。

悠奈 ……輪廻様？輪廻様……どうして……

輪廻 お前の願い、叶えてやる。俺はこれからどんな時でも笑ってるから……だから悠奈も俺の願いを聞いてくれ。……生きる……これから先、どんな事があっても生き続ける……いいな。生きる……

悠奈 ……はい……。

輪廻 修羅。

修羅 はい。

修羅、階段を降りて悠奈を起こす。その後、輪廻の左腕に刺さっている小刀を抜く。

悠奈 輪廻様。

悠奈、輪廻の左腕にふれる。

輪廻 前に俺の自由は人を傷付けると怒られた事があつたが、また傷つけてしまったな。

悠奈 そんな事より手当てを。

輪廻 だが、これから先も傷つける事になるだろう。

悠奈 ……え？

輪廻、修羅と悠奈の体をつかみ。

輪廻 この一件が片付いたら陽炎に戻って来い。これは命令だ。分かったな。

悠奈 ……はい。

修羅 お前達。……悠奈さんを部屋へ。

民達、悠奈をつれて上手へ去る。

修羅 この一件が片付いたらですか……。勝つ気満々ですね。

輪廻 勝つさ。お前が本気を出さなければな。

修羅 本気を出すつもりです。

輪廻 お前がそのつもりでも……。周りが耳を貸すかな？

輪廻、羅刹と朧を一瞥する。

修羅
確かに。

羅刹
何か嫌な感しでゲスね。

修羅
私の本気を出す頃には手遅れだった、なんて事にならなければいいですが。

朧
それにしても遅いわね、あの人達。まさか戻って来ないつもりじゃないでしょーね……

斑鳩
あの方は必ず助けに戻って来る。誰一人として見捨てはしない。そういうお人だ。

輪廻
やっぱりお前は華紅弥の事を分かってないな。

斑鳩
何だと？

輪廻
助けに来るわけないだろう。

斑鳩
分かっているのはお前の方だ。あの方は必ず来る。

輪廻
来るさ。そんなの分かりきってる事だろ？

斑鳩
……何？

輪廻
あいつは来るには来るが、俺を助けになんか来ない。……賭けてもいい。華紅弥は……この国に戦をしかけに来る……！

途端に城内が騒がしくなる。

臃　これは！？

羅刹　まさか本当に戦をしかけに来たでゲスカ！？

修羅　輪廻様がいるのに！？

輪廻　俺のホシた女は少々過激だね。

民が上手後方から入って来る。

民　お伝え致します！！月華が大軍で攻めてきました！！敵大君が先陣をきつて突入しております

す！！いかが致しましょう！？

羅刹　マジでゲスカ！？

臃　意味ないじゃん！！あなたの存在意味ないじゃん！！……どうする？

羅刹　んー。ここでゲス野郎らしく逃げるというのも手でゲスが、こうなった場合、それなりにやら

ないと面白くないでゲスね。

臃　戦うの！？

羅刹　臃様には黙っていましたが、大君の座を狙うからには、腕にはそれなりに自信があるでゲス

よ。

臃　素敵！！身近な人達が殺し合いをするのね！！それが間近で見れるのね！！

羅刹 月華の大軍の中におそらく神威様もいるはずでゲス。
臃 夫と愛人が殺し合うなんて、興奮して頭がどうにかなりそう!!

民が上手後方から入って来る。

民 月華の軍勢、城門を突破!! 現在城内への侵入をくい止めるべく応戦しております。兵をどのように配置致しましょう!!

羅刹 まずは正門の守りをかためるでゲス。全体の4割をつかせ、後は3等分して各方向に配置するでゲスよ!!

民 かしこまりました!!

2人の民、上手後方へ去る。

修羅 兄さん!! 敵の思惑が分からない中で兵を分散させるのは危険です。まずは中心に兵を集め、状況をみてからの方が!!

羅刹 うるさいでゲスね!! お前は大人しくそこで見ていてゲスよ!!
斑鳩 俺は見ているのは性に合わない。好きにやらせてもらう。

斑鳩、上手へ去る。

羅刹 では私達も戦場へ向かうでゲス。銀狼丸。お前は私について来るでゲス。

銀狼丸 はっ…!

修羅 兄さん…! 輪廻様はどうするんです…!

隴 存在価値のない人質に構ってる暇はないでしょ? もうその人はいてもいなくても同じなの。

修羅 しかし…!

羅刹 私は今、武士(ものぶ)としての血が騒いでいるでゲスよ…! 邪魔するでないゲス…! いざゆか

ん…! 好敵手の元へ…!

隴 ソクゾクするわ…!

羅刹、隴、下手後方へ去る。銀狼丸、下手へ去る。

輪廻 思った通り、貸す耳は持って無いようだな。

修羅 大事な勝負所だというのに、目の前の事しか見えていないようです。

輪廻 兵にとつて本当の敵は戦っている相手じゃない。…! 愚かな指揮官だ。

修羅 それでも私が勝つつもりですよ。勝って、私が実権を握り、全てを元に戻します。

緋巫佳 この戦、勝っても負けても三国が羅刹様のものになる事はない…! と?

修羅 兄さんがその器でない事は弟の私がよく分かっています。

民が上手後方から入って来る。

民 こちらに羅刹様はいらっしゃいますか…?

修羅 どうしました…?

民 月華の勢いが止まりません…このままでは城内への侵入を許してしまいます…

修羅 兄さんは先程西門へ向かいました。

民 ありがとうございます。

修羅 待ちなさい…

民 はっ…!

修羅 今下手に動かせば一気にやられてしまいます。バラけている兵を城内に集中させて下さい。

民 羅刹様からの指示でしょうか…?

修羅 それは…。

輪廻 おい、修羅。

修羅 は、はい…!

輪廻 俺を野放しにしているのはこの怪我を考慮しての事か？だとしたらお前は太君というものをナメてるな。

修羅

……え？

輪廻

死にそんな状態からもう一踏んぱりが出来る。それが大君なんだよ……じゃあな……！

輪廻、下手へ去る。

修羅

輪廻様……！

民

修羅様……！いかががいたしましたでしょうか……このままでは……！

修羅

私が指揮を取ります。あなたには伝令役を命じます。

民

かしこまりました……どの門から先に行きますか……？

修羅

いえ、まずは戦況の把握です。……上へ……！

民

上ですか……？

緋巫佳

上から全体を見るのです。一番危険な所がすぐに分かります。

民

なるほど……！

修羅

行きましょう……！緋巫佳さんは兄をお願いします……！

修羅、緋巫佳、民、上手後方へ去る。照明切り換わる。

華紅弥、神威、竜斬丸、琴音、胡桃、玲亜、那由他、水鏡、不知火が下手から入って来る。

神威 どうやら城の者達は皆、薬で操られているようだな。

華紅弥 薬の力を使わないと人の心を掌握出来ない者が大陸を治めるだっ身の程知らずもこま
で来ると哀れだな。

神威 本人にその自覚がない以上あいつの暴走は止まらんだろうさ。

那由他 華紅弥様。作戦はいかが致しましょう。

華紅弥 戦は輪廻が城から逃げる為の時間稼ぎだ。

神威 城の外で暴れ続けられれば城内の警備が薄くなるって事か。

竜斬丸 問題はどっやっつて輪廻様に自力で逃げてくれと伝えるかですね。

華紅弥 大丈夫だ。あいつなら言わなくても分かる。

竜斬丸 え？

華紅弥 分かる。

竜斬丸 しかし…！

華紅弥 絶対に分かる。私のホレた男は、私の考える事なら何でも分かる。

神威 この城の裏門に当たる南側は城壁も厚く、攻めるのは難しい。その他の三方向から攻めるの
が得策だな。

那由他 では華紅弥様は正門をお願いします。琴音と胡桃の二人は東へ。

琴音 はい…！

胡桃 分かりました。

神威 なら俺は西へ行こつ。

那由他 お願ひ致します。その他の方達は柔軟に動いて下さい。

華紅弥 無理して制圧する必要はないぞ。あくまで時間稼ぎが目的だ。いいか、こんな所で命を落とすことは許さん……生きる事を第一優先としろ。分かつたな……

月華の民「はい……」と返事。

竜斬丸 では俺も正門へ……。

華紅弥 いや、竜斬丸。お前は神威と一緒に行ってくれ。

竜斬丸 俺は華紅弥様を守れと命令されているんです。

華紅弥 だが神威の方が心配だ。

神威 俺もそこそこ強いぞ？

華紅弥 分かっている。だがこの人数だ。数の力は侮れん。

竜斬丸 それが分かっているのに正門の敵を一人で受けるつもりですか。

華紅弥 あの程度の数なら大したことはない。だが、神威の事を心配した時にスキが出来る可能性がある。お前がついていてくれるなら私は心配する必要がない。

竜斬丸 ……全く。人をその気にさせる方法まで似てきましたね。

華紅弥 本心だ。

竜斬丸 分かりました。ま、それぞれの国の守護者をやるというのも悪くない。

神威 期待しているぞ。

竜斬丸 任せて下さい。

神威 華紅弥。

華紅弥 何だ？

神威 影星の大君として頼みがある。城内の兵士は皆、羅刹達に操られているだけだ。殺さないでやってくれないか。

華紅弥 分かった。私がお前の立場でも同じ事を思うだろうからな。

神威 すまない。恩にきる。

華紅弥 やめてくれ。……それより安心した。

神威 何がだ。

華紅弥 信じていた者に裏切られてすっかり気力が無くなったんじゃないかと思ってな。

神威 馬鹿を言え。俺の信念はそんなにヤワじゃない。

華紅弥 そうだな。

華紅弥、全員の顔を無言で見渡す。全員、無言でうなづく。

華紅弥 よし、行くぞ…！

華紅弥、下手へはける。神威、竜斬丸、上手へ去る。

玲亜、那由他、水鏡、不知火、下手階段を上がり下手後方へ去る。

琴音、胡桃、下手階段を上がる。照明切り換え。

琴音、胡桃、上手後方へ移動。影星の民が5〜6名入って来る。

琴音

胡桃。とうとうこの日が来たんだね。

胡桃

うん。やっと守護者として華紅弥様のお役に立てる。

琴音

覚悟は出来てる？

胡桃

そんなの8年前からとつくに出来てる！！

琴音、胡桃、上手階段を降りる。鞘は抜かず、そのまま構える。

民、5〜6人が琴音と胡桃に襲いかかる。殺陣。

難なく民を退ける2人。刀で殴られた民はそのままの勢いで上手・下手にはける。

胡桃

ね、私達、超凄くない！？

琴音

凄く凄く……やっぱり特訓の成果だよね……

胡桃

このまま一気に蹴散らす？

琴音 おう……やったるーじゃん……

斑鳩、下手から入って来る。

斑鳩 そう簡単に制圧出来ると思わない事だ。

琴音 斑鳩……

斑鳩 この私を呼び捨てとほいい度胸だ。

胡桃 あんたなんか呼び捨てで充分よ、裏切り者め……

斑鳩 感謝して欲しいぐらいだがな。今、そうして守護者としての充実感を味わえるのは私のおかげなのだから。

琴音 バカ言ってるんじゃないわよ……華紅様を悲しませておきながら感謝ですって？

斑鳩 悲しむ？……誰が？

琴音 だから華紅様様だと言ってらるでしょ。

斑鳩 何故？

琴音 何故って……。言いたくないけど信用していたあんたに裏切られたからに決まってるじゃん……

斑鳩 ……信用か……。

胡桃 信用じゃ不服？

斑鳩 一番欲しいものではない、な。

胡桃 だから裏切った。

斑鳩 欲しいものが手に入らないならいつそ壊してしまった方が諦めがつくというものだろうか？

胡桃 分かった。今よく分かった。

琴音 胡桃？

胡桃 私、あんたみたいに本当はガキなクセに見栄だけで大人ぶってる男が大嫌いってよく分かった。

斑鳩 だったらどうする？その程度の実力で私に勝てるだけでも？華紅弥様を守る為に剣の修行をしたのはお前達だけじゃないという事を教えてやる。

斑鳩、琴音、胡桃の殺陣。途中、斑鳩が胡桃の肩を斬る。倒れる胡桃。

琴音 胡桃！！

胡桃 大丈夫！！少しかすっただけ！！

斑鳩 余所見をしている余裕は無いだろ！？

斑鳩、琴音の刀を大きくはじく。刀を落とし体勢を崩す琴音。斑鳩、刀を大きく振りかぶる。

斑鳩　少し動けなくなってもらおうか。

胡桃　琴音ちゃん……！

胡桃、琴音の上に覆い被さる。

同時に下手から玲亜が入って来て斑鳩の刀を大きくはじく。距離を取る斑鳩。

胡桃　玲亜ちゃん……？

琴音　玲亜……！

遅くなつてコメン。周りのザコを片付けてた。

琴音　何しに来たのよ……助けてくれなんて頼んでません……！

胡桃　こんな時くらい素直になりなよ。

琴音　私は素直です。

そうだな。私の事を裏切者と責めるなら、まずその者から責めて然るべきだな。

玲亜　私は華紅弥様を裏切つてなどいない。

ある日急に姿を消し、月華を捨てた者が何を言っている。

玲亜　私は今でも華紅弥様の為なら命を張れる。弱いお前と一緒にするな……！

斑鳩　口では何とでも言えるな。月華と陽炎の間をフラフラしている状態で言っても説得力はない

ぞ。

玲亜 それは認める。私は自分の身に起こった事で迷い、悩み、そして逃げた。その結果2人を傷付けた事は確か。……琴音、胡桃。本当にゴメン。私がバカだった。

胡桃 ……自分の身に起こった事？

玲亜 すぐに許してくれなんて言わない。これから先、何百回だって何千回だって謝る。私は私の覚悟をもってここへ来たんだ。

胡桃 玲亜ちゃん……。

玲亜 私はもう逃げない。私の命は華紅弥様の為にある。いつも大君と共にある。そして……2人の命と共にある……私は……私は月華の守護者だ……！

玲亜、帽子を取る。その姿に驚く3人。

琴音 玲亜、その髪……。

胡桃 清浄の民？

玲亜 うん。……黙っててゴメン。

胡桃 バカだね。本当バカだよ玲亜ちゃんは。

玲亜 ゴメン。

胡桃 たったそれくらいの事で悩んだの？赤い髪だからって私達の態度が変わると思った！？

玲亜 違う、そうじゃない……

胡桃 じゃあ……

琴音 私達に迷惑がかかると思った。

玲亜 ……うん。

胡桃 やっぱバカだよ。誰に何を言われたって迷惑だなんて思わない。そんな事より何も言ってくれない方が嫌だよ。黙って居なくなっちゃう方が嫌だよ。

玲亜 ゴメン。

胡桃 もう、どこにも行かないよね。

玲亜 うん。

胡桃 ずっと一緒だよな？

玲亜 うん。

琴音 ちよつと……私は許すなんて一言も言っていないんですけど……

胡桃 琴音ちゃん……

……私が清浄の民だったら2人を巻き込んでるわよ。2人の髪を無理矢理赤く染めたりして巻き込んで巻き込んで巻き込みまくってるわよ……

そうして欲しいんだって。

琴音 歌もダンスも今まで以上に頑張って、誰にも何にも言わせない位、凄くライブしてやるんだから。

胡桃 そうしてくから覚悟しろよって。

琴音 私は別にどーでもいいけど、胡桃が喜んでるからさ、戻って来てでもいいけど一つだけ条件がある。

玲亜 ……何？

琴音 華紅弥様から新曲作れって言われてるの。作詞も作曲も振り付けも、全部一人でやりなさいよ…

胡桃 でもね、

琴音 通訳はいい…ちゃんと自分で言う…でも、一人で作るのがしんどかったら言いなさいよね。…手伝うから。

玲亜 ……ありがと。

琴音 いいの…お礼なんかいらないの…三人でミルクィーエンジェル…

玲亜 うん。そうだね。その時はよろしく…

胡桃 じゃあ、さっさと終わらせよ？

2人 りよーかい…

琴音、胡桃、玲亜、刀を構える。

斑鳩 たかだか一人増えた位で私との実力差が埋められると思ってるのか？友情ごっこも結構だ

がもう少し現実を見るべきだな。

上手から「ピー」と笛の音。

斑鳩　これは、召集の合図！？

斑鳩、上手の方を一瞬見た後、再び視線を三人に戻す。斑鳩、構えをゆっくり解き、姿勢を正す。

斑鳩　城内で何かあったらしいな……。私は戻るとしよう。

斑鳩、上手へ去る。

琴音　待ちなさいよ……

胡桃　逃がさないんだから……

琴音、胡桃、斑鳩の後を追おうとするが、

玲亜 待つて…！

胡桃 何？

玲亜 あの人を追う必要もないでしょ。ここの城門は制圧出来たし。

胡桃 でも…！

玲亜 それより正門に移動しない？

琴音 そつか、正門は華紅弥様一人で応戦してるんだった…！

胡桃 行こう…！華紅弥様の所に…！

琴音、胡桃、玲亜、上手へ去る。修羅、上手後方からセンターへ。

修羅 狼狽えないで下さい…！冷静にならなければ同士討ちの可能性ががあります。皆さん落ち着いて。状況を報告して下さい…！

民が上手から入ってくる。

民 修羅様…！東門が制圧されました。被害甚大です…！

修羅 城内から五十名程東門へ向かわせて下さい。内三十名は東門の奪還に動き、二十名は怪我人を城内へ運ぶのです。

民　かしこまりました!!

民、上手に去る。入れ違いで民が下手から入って来る。

民　現在西門に月華軍が進攻!!数はこちらが勝っておりますが一人一人の戦力は向うの方が上

かと!!

修羅　バラバラに戦うのではなく必ず複数で一人を相手にして下さい。

民　しかし、羅刹様の命令では数で押し切れと!!

修羅　その方法ではこちらの被害も大きいでしょう。

民　ですが!!

修羅　構いません!!私の指示で動いて下さい。責任は私がとります。

民　修羅様!!

修羅　行って下さい。

民　はっ!!

民、下手へ去る。

修羅　現在、一番激しい戦闘区域はどこですか!?

民、下手後方から入って来る。

民 報告します……現在、正門にて月華の大君が三百人の兵を相手に戦闘中……誰も止める事が

出来ません……

修羅 華紅弥様が正門に……？

民 はい……

修羅 ……おそろしく神威様も戻ってきているはず。大君2人が組んでこんな作戦は芸がない……いや

無さすぎる。主力が正門を攻めるなどイタズラに戦を長引かせるだけ……。まさか……？

修羅、下手後方に走り去る。民も続く。神威、竜斬丸が下手から入って来る。

神威 この兵を動かす采配。羅刹ではないな。あいつではこんな芸当出来んだろう。

竜斬丸 優秀、という事ですか？

神威 そうだ。

竜斬丸 だとすれば、修羅様ですね。

神威 修羅か……それは少々やつかいな相手だな。少なくとも俺達は城を落とすつもりで事に当た
らんと苦戦するかもしれんぞ。

竜斬丸 承知しました。

羅刹、銀狼丸、朧、緋巫佳が上手後方から入って来る。

羅刹 神威様、発見でゲス〜!!

神威 羅刹!!

いや〜、至る所で争い、争い!! 朧様じゃないですけどゾクゾクするでゲスよ。

神威 その興奮にあてられて総大将自らが前線に出てきたのか。大局が見えず己の欲のみに生きる愚か者が。

羅刹 あまり私の事をバカにしない方がいいんじゃないでゲスかね? その愚か者に利用されたのは神威様ご自身なのでゲスから。

神威 まったくだ。目的地が眩しすぎて足元が見えなくなっていたようだな。

羅刹、銀狼丸、階段を降りる。

羅刹 足元が見えていないのは今も同じかもしれないでゲスよ?

神威 お前の実力が分からん以上油断するつもりはない。……が、負けるつもりもない。

神威、羅刹、構える。

竜斬丸　こんな最低な奴等に力を貸すのか。こんな事の為に技を磨いてきたのか！？

銀狼丸　俺はお前と戦う場を与えてくれるなら誰でもいい。

竜斬丸　銀狼丸？

銀狼丸　俺はお前を殺す。ただその為に生きている。

竜斬丸　銀狼丸！！

銀狼丸　本気で来い。今の俺は……少し違うぞ。

銀狼丸、竜斬丸に突進。刀を受ける竜斬丸。しかし、飛ばされる。

竜斬丸　銀狼丸、お前！？

神威　緋巫佳、キサマか！？

緋巫佳、冷たい笑顔を浮かべながら小瓶を見せる。

臙

さあ、私に殺し合いを見せて！？刀の一振りに怒りを込めるのよ！！憎しみを爆発させるのよ！！命を惜しんでつまらない斬り合いなんて見たくないわ。さあ私に殺し合いを見せてちょ

うだい!!

神威

臆……今からでも遅くはない。こちらに来る気は……

臆

やめてちよーだい。気持ち悪い。これ以上幻滅させないで。

神威

幻滅……か。

羅刹、神威のスキをについて急に斬りかかる。すばやい動きでそれを受ける神威。

神威

言つたろう。油断はしないと。羅刹。お前に実力があればこんな事をせずとも堂々と大君になれる社会を作ろうとしていたのだ。何故こんなバカな真似をした。

羅刹

残念ながら制度の定着には数十年かかるでゲス。年老いてから権力を握ってもつまらないだけでゲスよ。私は今すぐこの大陸の全てを手に入れたいんでゲス!!

神威

その我欲、通すわけにはいかん!!

神威&竜斬丸 対 羅刹&銀狼丸の殺陣。

基本的には神威と羅刹が、竜斬丸と銀狼丸が戦うが、少しだけ相手が変わったりするなどの変化をつける。1.5秒程度の殺陣。途中、竜斬丸が銀狼丸に何度か斬られる。傷を負う竜斬丸。

最終的な動きとして、センターに神威と羅刹が罅迫り合いをして、2人は上手、下手に広が

る。竜斬丸と銀狼丸は逆に上手下手からセンターへ最後の一撃を放ちに寄る。勝つのは竜斬丸。刀の刃は寸止め。

銀狼丸 俺は……これでもキサマに届かないのか。俺はまた負けるのか？

竜斬丸 お前はお前に負けたんだ。自分を責め通せなかった時点で勝負は決まっていた。

銀狼丸 ……殺さないのか。これは交友会などではないのだぞ。

竜斬丸 今のお前では殺すにも値しない。だからといって――。

銀狼丸、自らの刀で首を斬ろうとするが、竜斬丸、その刀をはじいた後、刃を返し、銀狼丸の首筋に峰打ち。気を失う銀狼丸。

竜斬丸 自害する事も許さん。

呼び笛の音。上手後方より修羅と斑鳩が入って来る。

修羅 兄さん……敵の目的はこの城を攻め落とす事ではありません……これは輪廻様を城から逃が

す為の時間稼ぎです……

臍 何ですって……

緋巫佳

人質に価値が無いと思わせておいて逃がす……良い作戦ですね。

羅刹

褒めてる場合じゃないでゲス……早く輪廻様を見つけないと……

羅刹、上手の階段を上げる。

神威

待て……

神威、羅刹を追おうとするが、竜斬丸が膝をつく。

神威

竜斬丸……

修羅、斑鳩、羅刹、臙、緋巫佳、一瞬竜斬丸の方を見て一気に上手後方へ去る。

竜斬丸

俺は大丈夫です。あいつ等を追って下さい。

神威

いや、お前に何かあったら輪廻と華紅弥に何を言われるか分かったものじゃない。

竜斬丸

神威様……。

神威

人を見る目が……。それだけは、一生あいつに敵わないだろうな。

竜斬丸

大丈夫です。それ以外はほとんど勝ってますから。

神威 少なくとも剣が抜けるだけマシ、という事にしておこう。……さて、コイツをこのまま放置しておくわけにもいかんだろ。

神威、銀狼丸を活入れて起こす。銀狼丸、周りに自分以外の影星の人物がない事で自分が見捨てられた事を悟る。

銀狼丸 自分を捨ててお前に挑み、それでも敗れた。そして死ぬ事すら許されぬ俺は……どうすればいい？

竜斬丸 どうするかは自分で決めろ。それがお前の強さになる。ただ、今は……。

銀狼丸 今は？

竜斬丸 肩を貸してくれ。

銀狼丸 ……ああ。

銀狼丸、竜斬丸に肩を貸す。反対側を神威が支えて、3人上手へはける。照明切り換え。民が上手後方、下手後方、上手から現れ下手を見る。華紅弥、下手から入って来る。

華紅弥 お前達はまだ意識が戻らんのか？

民達、身構える。

華紅弥　　そうか……ならば仕方ないな……。

華紅弥、身構え、ゆつくり刀を抜く。

華紅弥　　薬によって操られているお前達に恨みはない。それに、神威と約束したからな。殺すつもりもない。だから刀は返そう。

華紅弥、刃を返し峰打ち状態にする。

華紅弥　　利き手も使わん。

華紅弥、刀を左手に持ちかえる。

華紅弥　　力も加減してやる。後は……まあ、そんなものか。それでも命を落としたなら、すまんが運が悪かった諦めてくれ。さて、覚悟はいいか？

華紅弥、剣先を民に向ける。

華紅弥 私の全身全霊をかけて想い人の元へ行かせてもらう。……我が名は月華の大君、華紅弥。推して参る……

華紅弥と民の殺陣。民は斬られたらすぐに上手か下手に一度はけ、再び入って来る。華紅弥 MAX五十人斬り。最後の五十人目を斬ったら決めポーズ。

華紅弥 気を失うならせめてその先で……良い夢を見るんだな。

華紅弥、刀を納める。琴音、胡桃、玲亜が下手から入って来る。

玲亜 華紅弥様……!

華紅弥 お前達……怪我はないか?

胡桃 はい、大丈夫です……!

華紅弥 ……やはり3人並んだ方がしっくりくるな。

3人、嬉しそうに笑う。

胡桃 ニヤニヤしている場合じゃなかった。華紅弥様、ご報告があります!!

華紅弥 どうした?

胡桃 城内の動きがおかしいです。もしかしたら作戦がバレたのかもしれませんが!!

華紅弥 何だと!?

胡桃 城内から呼び笛が鳴った後、半数近くの兵が城内へ戻っていきました。

玲亜 輪廻様の身が危険です!!

琴音 4人で一気に正門を突破しましょう。

華紅弥 分かった。先陣は私が切る。琴音は右翼の敵を。胡桃は左翼の敵を排除しろ。玲亜は後方から支援を頼む。

胡桃 分かりました。

玲亜 はい!!

琴音 了解です。

華紅弥 余計な戦闘は避ける。全走力で駆け抜ける!!

華紅弥、琴音、胡桃、玲亜、上手へ去る。照明切り換え。上手後方より輪廻が入って来る。

輪廻 アイツら大分派手にやってるようだな。

輪廻、階段を降りる。下手に去ろうとする途中で膝をつく。

輪廻

変態野郎が。人の体で遊びやがって……。絶対、泣かず。

輪廻、立ち上がる。民が5、6人程、上手と下手から入って来る。手には小刀。

輪廻

後少して外だつてのにこれかよ。

民が襲いかかって来る。避ける輪廻。

輪廻

おいおい……攻撃に殺意がこもってるぞ。命令されたのは捕えろじゃなくて殺せか？

民が再び襲いかかって来る。輪廻、避けるが、しだいに攻撃を受ける。

輪廻、センター壁側へ後退。民が半円で輪廻に近づく。刀の刃先を輪廻に向ける。

輪廻

こんな事なら竜斬丸に体術でも学んでおけば良かったな。

民全員、輪廻に止めを刺そうと小刀を大きく振りかぶる。その瞬間、

上手後方より羅刹、朧、緋巫佳、上手より修羅、斑鳩、

下手後方より神威、竜斬丸、銀狼丸、

下手より華紅弥、琴音、胡桃、玲亜、那由他、水鏡、不知火が入って来る。

華紅弥 やめる!!(同時に)

羅刹 止まるでゲス!!(同時に)

神威 そこまでだ!!(同時に)

民。ピタリと止まる。斑鳩、そのまま輪廻に走り寄り刀を喉元へ。

羅刹 危ない!!流石にこれは危なかったでゲス。危なかったでゲスが……終わり良ければ全て良し
つて事でゲスかね。

朧 最高よ、最高。凄くドキドキしたわ。

羅刹 益々惚れさせてしまったでゲスね。罪な男でゲス。神威様、覚えておくと良いでゲス。朧様は
こっというのが好きなんでゲスよ。こっというのが。

羅刹、朧、階段を降りる。斑鳩、輪廻をつれて上手側へ。民もそれに合わせて上手側へ移動。

華紅弥 輪廻!!

輪廻からの返事がない事に不安になる華紅弥。

華紅弥 輪廻?……輪廻!!輪廻!!

羅刹 大君の底力もさすがに限界でゲスか。

華紅弥 キサマ等……輪廻のその傷はどういう事だ!!

羅刹 一緒に遊んだだけでゲスよ。

臃 退屈だったんだから仕方ないでしょ?誰かさんが戻って来るのが遅かったんだから、怒るな

ら自分のノロマさに怒ったらいかが?

神威 臃!!

華紅弥 お前達の目的は国宝だろう!?……持って来たぞ。取引をしよう。

羅刹 勾玉があつたでゲスか?

華紅弥 ああ。

羅刹 見せるでゲス。

華紅弥、勾玉を見せる。

羅刹 素晴らしいでゲス。それでは早速……。

斑鳩 華紅弥様。

華紅弥 何だ？

斑鳩 華紅弥様はそんなにこの男が大切ですか。あなたが大君に就いて以来、何年も、毎日尽くして来た私よりもこの男の方が大事ですか！？

華紅弥 斑鳩……。

斑鳩 華紅弥様はいつも常に前を走っておられた。何も見ず、何も聞かず、己の道をひた走るあなたは戦う女神のようでした。私は一度も振り返らないその背中をずっと見続けてきたのです……それを……

斑鳩、輪廻の喉元に刀を突きつける。

斑鳩 それをこんな男に汚される事になるとは……。私のどこの男に劣るといいます……

華紅弥 ……お前をそこまで追い込んでしまったのは私なのだな。いつもそうだ。私はいつも大切な事を見落としてしまう。

斑鳩 私がこいつに劣るものなど何もありません……私が……私こそが華紅弥様にふさわしいはずなのです……

輪廻 耳元で好き勝手な事言ってるじゃねーよ。

華紅弥 (ほっとして) 輪廻……。

斑鳩、輪廻の頭を掴んで刀を構える。

華紅弥 よせ！……分かった。それ程に自分に自信があるなら斑鳩を受け入れよう。

輪廻 華紅弥……！

華紅弥 ただし、本当にお前が優れている事を証明できればの話だな。

斑鳩 どうすれば良いのです？

華紅弥 決まっているだろう。これだ。

華紅弥、刀を構える。

斑鳩 華紅弥様、剣の実力がそのまま勝敗に結び付かない事は……。

華紅弥 御託はいい。お前の全てをにかけて挑んで来い。私に勝つ事が出来たら妻にでも奴隷にでもなつてやる。

斑鳩 そういふ事でしたら、本気でいかせてもらいます。

華紅弥 本気？そうか、ならば私も半分くらいは本気を出してやる。……来い。

華紅弥と斑鳩、相對する。斑鳩が先に動き、合わせるように華紅弥も動く。

斑鳩、袈裟斬り。華紅弥、それを払い胴払い。そのままの勢いで斑鳩に背を向ける華紅弥。斑鳩、膝をつく。

竜斬丸 一撃!?

華紅弥 斑鳩!…まだ気を失う事は許さん。…立て!!

斑鳩、氣力を振り搾って立ち上がる。華紅弥、ゆっくり振り返り斑鳩の顔を見る。

華紅弥

お前は私が大君に就いてからずっと私を助けてくれたな。大君として未熟だった私をいつも支えてくれた。お前が側近でなかつたら私は今頃大君の座から降ろされていただろう。どんなに感謝しても足りない位だ。…月華にいる何千という人の中で…いや、この大陸に生きる者全ての中で、私の背中を任せられたのは、斑鳩、お前だけだ。お前は最高の側近だった。

斑鳩 華紅弥様…。

華紅弥 私に人生を捧げるのはここまでだ。これからはお前自身の人生を歩むがいい…務め、ご苦労!!

斑鳩、寂しそうな、嬉しそうな笑みを浮かべる。

斑鳩　　やっぱりだ……。やっぱり華紅弥様は……。美しい。

斑鳩、痛みに気を失う。倒れる斑鳩。羅刹、輪廻を人質にとりながら。

羅刹　　華紅弥様、少々下がってもらえるでゲスか？

華紅弥、大人しく下手へ下がる。

羅刹、斑鳩に近づく。しばらく見下した後、斑鳩の体を踏みつける。

羅刹　　まったく、余計な時間をかけて結果がこれとは、我が弟ながら情けないの一言でゲスね。とこ

とん使えない奴でゲス。

華紅弥　　キサマ……

羅刹　　振っておいて良い人ヅラするのはやめてもらえるでゲスか？……お前達コイツを部屋へ運ぶでゲス。

民数名が斑鳩を上手へつれてはける。

羅刹 さて、ようやく本題でゲス。水鏡殿。

水鏡 はい。

羅刹 華紅弥様が持っている勾玉を持って来てもらえるでゲスカ。今のその人に近付く程、私はバカじゃないでゲス。

水鏡 勾玉を渡したら……輪廻様をちゃんと解放するんですか？

臈 それはあなたが気にする事じゃないでしょう。

羅刹 (華紅弥に) 主導権がこちらにある以上、心証を書さない方がいいでゲスよ？

華紅弥 ……水鏡。

華紅弥、勾玉を出す。

水鏡 ……よろしいのですか？

華紅弥、無言。水鏡、勾玉を受け取る。

臈 さ、こちらへ。

水鏡、ゆっくり上手へ移動する。2、3歩、歩いた時ピタリと止まる。

羅刹 ……どうしたでゲス？こっちに来て勾玉を渡すでゲス。

水鏡 私、できません。

羅刹 は？

水鏡 道化としての勘が言ってます。これを渡したらきつと多くの人の顔から笑顔が消えるつて。私、それだけは出来ません。

羅刹 何を言ってるでゲスか。それを渡せばこの大陸で道化は水鏡殿だけ。皆の視線は一人占めでゲスよーそれに……水鏡殿から見れば我々はお客。道化はお客のいう事を聞いて当然でゲスよー？

水鏡 あんたらは客じゃねー！！確かに私ら道化はお客が楽しんでくれるなら何でもするさ。でもあんたらは違う。他人を傷つけ、壊し、奪う。そんな奴を私は客とは認めない！！こんな私だつてね、道化としての誇りぐらいいあるんだ！！

水鏡、振り返り華紅弥に勾玉を返そうとするが、不知火が刀を抜いて水鏡の首元へ。

不知火 全ての道化が同じ考えを持つとは限りませんよ。

華紅弥 不知火！？

不知火 羅刹様。勾玉をそちらに持っていく役割、別にこの人に限った事ではないですよね？

羅刹 これはこれは……。意外な所から意外な味方が現れたものでゲスね。

不知火 まったく冗談じゃありませんよ。やっと邪魔者の可南汰を排除して月華で僕一人が道化になれたっのに。

水鏡 不知火あんた……。

不知火 嫌だな、そんな顔して。水鏡さんだっけ考えた事くらいあるでしょう？ 全ての人が自分に注目する光景を。

水鏡 そりやあるさ。道化に生きる者なら誰だっけであるはず。でもね、それは芸を磨いて一生懸命努力して見るべき光景。こんな事に手を貸してまで手に入れるべきじゃない。絶対に。

不知火 だから道化代表みたいな言い方はやめて下さいよ。ムカつくから。

不知火、刀を持つ手に力を込める。

神威 よせ！……勾玉を渡すんだ。

水鏡 でも……！

華紅弥 渡せ、水鏡……。

水鏡、少し悩み、顔を上げて不知火に勾玉を差し出す。

水鏡 覚えておきなさい。いつかあなたの根性、たたき直してやる。

不知火 いつかなんて来ませんよ。

不知火、勾玉を受け取り、羅刹の方へ移動。羅刹に渡す。

不知火 これで道化は僕だけです。

羅刹 ま、そうなるでゲスかね。これからも私の為に役に立つでゲスよ？

不知火 はい。

羅刹 さて、これでやっと三つの国宝が揃ったというわけでゲスね。

神威 羅刹。

羅刹 何でゲスか？

神威 もう人質の必要はないだろう。輪廻と華紅弥を解放しろ。

羅刹 ー、そうでゲスね……。でもこの勾玉が偽物だという可能性もあるので、もう少しこのままでゲス。

華紅弥 それは本物だ。

羅刹 と、思うでゲスけどね。一応……。さて、お前達。

上手から民が黄泉の剣を持って来て羅刹に渡す。

羅刹　これをここにハメるでゲスね……。

羅刹、剣に勾玉をハメる。

羅刹　うおおおおおー！……って、ビックリする位、何の変化もないでゲスね。緋巫佳殿。

本当にこれで良いんでゲスか？

緋巫佳　はい。黄泉の剣は完成しました。

羅刹　これで私は人外の力を手に入れたでゲスか……。実感ないでゲスけどね。

緋巫佳　いいえ。剣を完成させただけでは……。

臚　力を引き出す使い方があるという事かしら？

緋巫佳　はい。

羅刹　早く、早く教えるでゲス……！

緋巫佳　その剣で自らの胸を貫いて下さい。

羅刹　………え？

緋巫佳　胸を貫くのです。

羅刹 胸を貫く……でゲスか？

緋巫佳 そうする事によって剣の力が体に注ぎ込まれ、人外の力を手にする事が出来るでしょう。

羅刹 ちよつと刺すくらいじゃダメなんでゲスかね？

緋巫佳 文献には貫くとありましたので、その程度では。

羅刹 貫く……。その文献は絶対なんでゲスか？

緋巫佳 それを確かめに来たのです。

羅刹 もし文献が間違っていたり、これが偽物だったら私は……。

緋巫佳 死ぬでしようね。

羅刹 死ぬ……。死ぬでゲスか……。

羅刹、刀の刃を自分の方に向ける。刺そうとするが、なかなか刺せない。大きく深呼吸する
羅刹。

輪廻 ……つたく、やるならさつさとやれよ。

華紅弥 輪廻……！

羅刹 ……何でゲスか？

輪廻 大陸全土の支配なんて大きな野望を持ちながら自分の命はかけられないのか？そんな中途
半端な覚悟しかない奴が、俺達の平和の邪魔してんじゃねーよ……！

羅刹
黙れ！！

羅刹、輪廻に近付く。

羅刹
言つたはずでゲス。私は他人をバカにするのは好きでゲスが、バカにされるのは大嫌いだと。

輪廻
俺も言つたよな？……ゲスゲスうるせーんだよ変態野郎！！

羅刹
私をバカにするなでゲス！！

羅刹、輪廻を殴る。輪廻、羅刹の目を見る。

輪廻
お前さ、小さい頃に父親に殴られた事あるだろ。酒飲んで酔っぱらった親父から理不尽な暴力を受けた事あるだろ。

羅刹
黙れ。

輪廻
それに加えて貧しい育ちのお前は周りの奴等からイジメられたんじゃないのか？

羅刹
黙るでゲス。

輪廻
そういう奴等全部見返す為の支配か？小っせえ男だな。

羅刹
黙れ！！

輪廻
所詮器じゃないんだ。引つ込んでろ、ゲス野郎。

羅刹 黙れ……黙れ……黙れ……黙れ……黙れ……黙れ……

羅刹、何度も輪廻を殴る。輪廻倒れる。

華紅弥 輪廻……

華紅弥、輪廻を助けようと動く。上手より民が華紅弥を押さえに来る。4人に押さえられる
華紅弥。

羅刹 起こすでゲス……

羅刹、民に輪廻を起こさせて再び殴る。殴り疲れて動きが止まる。シーンとした間。

羅刹 緋巫佳殿。

緋巫佳 はい。

羅刹 黄泉の剣………これの効果は一度きりなのでゲスか？一度使ってしまったらもう使えないで
ゲスか？

緋巫佳 いえ、そのような事は書かれていませんでした。

羅刹　　それでゲスか……なら、効果を「試せる」という事でゲスね？

羅刹、黄泉の剣をグツタリしている輪廻の胸元へ。

神威　　やめろ……国宝は全て本物だ。試す必要などない……

羅刹　　国宝が本物でも、文献が本当だとは限らないでゲス。

華紅弥　　羅刹……

羅刹　　ああ……？

華紅弥　　お前の執念を認めよう。お前の勝ちだ。……大君の座を譲る。

月華の民、口々に「華紅弥様……」の声。

華紅弥　　皆、すまない。私には輪廻が必要なんだ。輪廻に生きていて欲しいんだ。

羅刹　　大君の座を譲る……でゲスか。

華紅弥　　これでお前は影星、月華を手に入れた。それで満足してくれ。この大陸のほとんどは羅刹のものだ……

羅刹　　ほとんど、というのが気に入らないでゲスね。私は全土を支配したいんでゲス。

羅刹、輪廻の胸元に刃を突きつける。

華紅弥 分かった……落ち着いたら輪廻に陽炎を渡すよう私が説得する……私が必ず了承させてみせ

る……だから……

羅刹 説得する自信はあるでゲスか？

華紅弥 絶対だ……絶対説得してみせる………ただしいか……もし輪廻にこれ以上何かしてみろ。私

はお前を絶対に許さない。一欠片の肉片になるまで切り刻んで殺す……必ず殺す……

羅刹 っ、どうするか悩むでゲスね……

華紅弥 羅刹……お前の心の中に少しでも慈悲の心があるなら………少しでも誰かを大切に思う気持

ちが理解できるなら、どうか………どうかお願いだ。輪廻を解放してくれ。

それを聞いた羅刹、一瞬の間をおいて輪廻を刺す。羅刹、笑みを浮かべながら、

羅刹 何か言ったでゲスか？

華紅弥 輪廻……

輪廻、黄泉の剣が刺さったまま倒れる。華紅弥、茫然自失となる。力が抜ける華紅弥。膝をつく。

羅刹、輪廻の様子を伺う。ぐったりして倒れ掛かる輪廻。羅刹、輪廻の首の頸動脈をさわ
る。

羅刹 ……死んでるでゲス。緋巫佳殿、これはどういう事でゲスか？死んでるでゲスよ？こいつ死

んでるでゲスよ！…どういう事でゲスか！？

緋巫佳 そうですか。

羅刹 そうですか？そんな返事はいらなくてゲス。私はどういう事かと聞いているんでゲス！…お前

は私に嘘をついたでゲスか！？

緋巫佳 嘘など言っていないよ、私は文献に書いてあった事を伝えただけです。

羅刹 しかしこれは…！

羅刹、動かなくなった輪廻を見て。パニックになる。そんな中、神威が動く。

神威 華紅弥、何をしている。しつかりしろ…！

華紅弥 神威。輪廻が…。

神威 お前には分からないのか…！これはあいつが自分の命をかけて作ってくれた反撃の好機なんだぞ…！

華紅弥 え？

神威 輪廻は死ぬ事によってお前の足かせを解いたんだ……立て……

華紅弥 でも、輪廻はもう……。

神威 立て、華紅弥……輪廻の思いを無駄にするつもりか……

華紅弥 輪廻の思い……。

神威 それは考えや方法は違えど、俺達共通の思いだったはずだ……

華紅弥 この大陸の平和。

神威 託された者が地面に膝をついてどうする、華紅弥……

華紅弥、立ち上がる。

華紅弥 羅刹……

羅刹 こうなったら戦でケリをつけるでゲスよ。お前達……大君2人に的を絞って突撃するでゲス……

華紅弥 許さんぞ羅刹……

華紅弥、羅刹に斬りかかろうとした時、ピタリと止まる。輪廻の体が動き、黄泉の剣が体から抜かれる。全員、輪廻の方を見る。

羅刹 ……動いた……でゲスか？

効果音。心臓の音。

神威　これは……。

華紅弥　輪廻の鼓動？

緋巫佳　ついに……ついに我々の復讐が成される時が来た。黒き髪の者共よ、覚悟しろ。これより先お前達に安住の地はない。黄泉の剣に貫かれし人外の者が、この世に生きる者全てを殺し尽すだろう。千年前のあの時と同じようにな。

羅刹　……どういう事でゲスか？

緋巫佳　千年前。この大陸は一つの国だった。その時の王は清浄の民である私の祖先。しかし欲に目がくらんだ黒き髪の者共が黄泉の剣の力を使い王の座強奪を企てた。だが剣の力は人間の意志で扱える代物ではない。人外の者は王族だけでなく、大陸に生きる者の大半を殺してしまつた。人外の者が止まつたのは倒せたからではない。単にその者の寿命が尽きただけだった。

緋巫佳、上手の階段を使い、話ながら上がる。

緋巫佳　その後黒き髪の者は黄泉の剣を3つに分解し、国も3つに分けた。そして王族の血筋である清浄の民の迫害を始めたのだ……他の清浄の民は忘れても直属の血筋である私は忘れない。

忘れるわけにはいかない。お前達に復讐するまで。さあ、目覚めるがいい、人外の者よ。そしてこの世に生きる全てを滅ぼすのだ…！

緋巫佳、上手後方に去ろうとする。民は一気にはける。

華紅弥
緋巫佳…！

緋巫佳、振り返り、華紅弥を見る。目が合う2人。

華紅弥
緋巫佳……。

緋巫佳、上手後方に去る。心臓の音が段々大きく、早くなる。照明フラッシュ。効果音が止まると同時にフラッシュも止まる。輪廻が黄泉の剣を持って立っている。

羅刹
……輪廻様？

輪廻、動かない。

羅刹　その刀、返してもらおうでゲスよ……。

羅刹、ゆっくり輪廻に近付く。同時に刀を振り上げる輪廻。

羅刹　え？ちよつと待つでゲス……。

輪廻、刀を振り下ろす。何とか持っていた刀で防ぐ羅刹。しかし吹き飛ばされ気を失う。輪廻、視界に入った不知火の方を向く。

不知火　あの、すみません。さっきのは違うんです。冗談っていうか、その、夢の為に一生懸命だったというか……。

輪廻、無言で不知火に近付く。ゆっくり刀を振り上げる輪廻。

不知火　すみません、違うんです。すみません……すみません……謝りますから……もうしませんから……
水鏡　何やってんのよ……！

水鏡、不知火に横からタックル。同時に輪廻の刀が振り下ろされる。間一髪助かる不知火。

不知火　……どうして？

水鏡　どうしてもこうしてもあるかバカタレ！あんたが人で、私も人だからに決まってるでしょ！！

華紅弥　……輪廻。

華紅弥、輪廻に近付く。月華の民、華紅弥を心配して口々に華紅弥の名を呼ぶ。

輪廻、華紅弥の方を向く。刀を振り上げる。

華紅弥　輪廻！！

2人、同時に刀を交える。一瞬止まるが、飛ばされる華紅弥。

輪廻、華紅弥に追い打ちをかけようと更に攻撃するが、神威がそれを止める。飛ばされそうになる前に竜斬丸が輪廻を攻撃。避ける輪廻。同時に神威と竜斬丸を攻撃。飛ばされる神威と竜斬丸。

華紅弥のガードが居なくなった瞬間、琴音、胡桃、玲亜が華紅弥を庇うようにガードする。竜斬丸、すぐに体勢を整え輪廻に向かう。

竜斬丸 輪廻様!!我々が分からないのですか!?

竜斬丸、輪廻と刀を交える度に飛ばされそうになるがこらえる。
最終的に刀を交えた時。

竜斬丸 輪廻様!!

竜斬丸、輪廻に語りかけるが、大きく刀をはじかれ、2回斬られる。

銀狼丸 竜斬丸!!

銀狼丸、竜斬丸をかばうため、輪廻に突進するが、逆に飛ばされる。
輪廻、大きく雄叫びを上げて下手へ去る。

華紅弥 輪廻!!

華紅弥、輪廻を追おうとするが、琴音、胡桃、玲亜に止められる。

華紅弥 離せ!!

玲亜 華紅弥様!!今は危険です!!一度態勢を整えましょう!!

胡桃 お願いです、落ち着いて下さい!!

神威 華紅弥!!

神威に一喝され、ようやく冷静になる華紅弥。

華紅弥 このままでは輪廻が……。

神威 分かっている。だが今はその者達の言いつ通り態勢を整えるのが先決だ。それと、

神威、倒れている羅刹と臆に刀を向ける。

神威 この者達の裁きがな。

羅刹 ……死刑でゲスか？

神威 さて、どうするか……。華紅弥。こいつらの罰、俺に預けてもらえるか……。華紅弥？華紅弥。

華紅弥、何かを考えている様子。大きく深呼吸する。

華紅弥 すまない。もう大丈夫だ。……ああ。そんな奴等に構っている暇はない。影星の事は影星が

片付けろ。

神威 だ、そつだ。お前の存在など眼中に無いらしいぞ。……立て。

羅刹、神威を睨みながら無言で立ち上がる。

神威 殺しはしない。……お前はこれから死ぬまで両手両足を鎖につながれたまま牢獄で暮ら

すのだ。一生陽の光を見る事もなく。誰とも交わる事もなく。ただ心臓を動かすだけの物となれ。……臃よ。お前は……あれがお前の本性なのか？本当にあれが？

臃 あなた……私、怖かった……羅刹にずつと脅されましたの！

羅刹 臃様！

ずつと信じてた。こつして私を救ってくださると……

臃、神威に歩み寄り、体を預ける。

神威 脅されていた？あれがお前の本性ではないのだな？

臃 はい。私はあなただけのものです。

神威 一緒になった時、俺も同じ事を誓ったな。

臃 ええ。私、あの頃の気持ちと何も変わっていませんわ。

神威 俺もだ。

神威、臃の体を離し、羅刹に近付く。臃、神威の後ろに回る。

髪から櫛を取り、神威へ。神威、その手を掴む。

神威 俺は……それが悲しい。……修羅。

修羅 はい。

神威 この2人に縄をかけろ。

修羅、腰紐等を使い2人を後ろ手に縛る。

神威 お前の手でこの2人を牢獄へ入れろ。それがお前の罰だ。

修羅 え？

神威 そして、それが終わったら悠奈をつれて陽炎に行き、国の発展の為に一生尽くせ。

修羅 神威様……それではあまりに不平等では……

神威 (華紅弥に)それでいいか？

華紅弥 ああ。

修羅 華紅弥様……。

神威 その不平等を背負うのも、罰だと思え。

修羅、神威の顔を見て強く頷き、修羅、羅刹と臙を上手へ連れていく。はける寸前で羅刹、臙、止まる。

羅刹 覚えておくがいいでゲス。私は例え何年、何十年かかっても必ず脱獄してみせるでゲス!!今

度はこんな周りにくどい事はせず、まず真つ先に大君の首を斬るでゲス!!楽しみに待っている
がいいでゲス!!

臙 私は毎夜、あなたの為に呪いの歌を歌ってあげますわ。歌は力となって全身にまとわりつくで
しょう。一つ一つ、壊れて死になさい。

神威 ……楽しみだ。

修羅、羅刹と臙をつれて上手へ去る。

神威 待たせたな。さ、輪廻を追うぞ。

華紅弥 いや、私は緋巫佳を追う。

神威 緋巫佳を？

華紅弥 あいつはおそらく人外の者になってしまった輪廻の止め方を知っている。

神威 何故そんな事が分かる。

華紅弥 ……目を見たからな。

神威 目を？……そうか。

華紅弥 それに緋巫佳を救わなければ本当の意味で問題は解決しないだろう。

神威 緋巫佳を救う？

華紅弥 神威は輪廻を追って時間稼ぎをしてくれ。私は必ず人外の力を消す方法を聞き出して来る。

琴音 私達も行きます…！

華紅弥 お前達…。

胡桃 使命をまっとうさせてください。

玲亜 絶対に足手まといにはなりませんから…！

華紅弥 分かった。くれぐれも無茶はするなよ？

3人、「はい…！」と返事。

竜斬丸 俺は神威様と行きます。

神威 その体で大丈夫なのか。

竜斬丸 はい。

銀狼丸 俺も行こう。

水鏡 (不知火に) あんたも来るんだ。

不知火 ええ!?

水鏡 一緒に戦えなんて言わないさ。でもね、遠くからでもちゃんと見るんだ。自分のしでかした罪を目に焼き付けなさい。

不知火 ……分かりました。

竜斬丸 那由他殿。

那由他 はい。

竜斬丸 途中まで御同行願えますか。

那由他 え? あ、はい。

華紅弥、琴音、胡桃、玲亜、上手後方へ移動。

神威、竜斬丸、銀狼丸、那由他、水鏡、不知火、下手へ移動。

華紅弥 神威! ……輪廻の事、よろしく頼む。

神威 任せておけ。

それぞれ、袖へはける。照明切り換え。

緋巫佳が上手から入って来る。ずっと走ってきたのか足元がおぼつかない様子。一度立ち止まり後方を確認。再び前を向いて、下手の階段を目指すが、途中で止まり、頭を抱える。ヨロヨロとセンターへ。照明、センターのみに明かり。緋巫佳の頭の中の声。

父 緋巫佳……緋巫佳……早く勉強しなさい……

母 お前は頭が良いのだから少しでも多くの事を学ぶのです。

父 そして一日でも早く国へ帰り、黒き髪の者どもに復讐するんだ。

母 いい？決して忘れてはいけないよ？私達から全てを奪ったあの人達を許してはだめ。憎んで、憎んで、憎み続けるの。

父 早く勉強しなさい。そして一日も早く復讐を……

子供の嘲笑。

子供1 お前の親の髪の毛で赤いんだ！？

子供2 気持ち悪いよな……

子供3 ひよっとして病気じゃないのか！？

子供4　じゃあお前も？近寄んなよ…！

子供1　悪魔みたいだな…！

子供2　本当に悪魔なんじゃないか？

子供3　じゃあ火あぶりだよ…！

子供4　そうだ、火あぶりだ、火あぶりだ…！

以後、父の「緋巫佳、勉強しなさい」、母の「一日も早く復讐を」、子供たちの「気持ち悪い」「悪魔」「火あぶり」「近付くな」等の言葉が合わさり、段々ポリウムが大きくなっていく、最高点の時、

緋巫佳　黙れ…！

頭の中の声、ピタリと止まる。緋巫佳、下手の階段を昇る。

華紅弥、琴音、胡桃、玲亜が上手から入って来る。

華紅弥　緋巫佳…！

緋巫佳、止まり振り向く。華紅弥達4人、センターへ。

華紅弥 輪廻を戻す方法を教えてもらおう。

緋巫佳 人外になつた者を戻す方法などありません。

華紅弥 いや、ある。

緋巫佳 誰よりも黄泉の剣に詳しい私が無いと言っているのですよ？

華紅弥 ある。

緋巫佳 何故そう言い切れるのです。

華紅弥 お前の目がそう言っている。……頼む、教えてくれ。輪廻を人に戻す方法を。

緋巫佳 仮にそんな方法があつたとして、私が素直に教えると思えますか？

緋巫佳、手で合図を送る。上手、下手から民が入つて来る。胡桃、華紅弥の前に来て上手の民へ刀を振る。上手の階段への道が開く。

胡桃 ここは私達が引き受けます。華紅弥様は先に行ってください……

華紅弥 胡桃……

胡桃 大丈夫です。私達結構強いですよ……今なら華紅弥様にだつて負けません……

玲亜 3人一緒なら誰にも負けないんです……

胡桃 だから行ってください。

華紅弥 分かった。お前達……頼んだぞ!!
3人 はい!!

華紅弥、上手の階段を昇る。緋巫佳、下手後方に去る。

華紅弥、一度3人を心配そうに見た後、下手後方に去る。

琴音、胡桃、玲亜、3人背中合わせになる。胡桃、少し笑う。

琴音 胡桃。何笑ってるのよ。

胡桃 嬉しいなって思ってる。

玲亜 嬉しい?この状況が!?

琴音 正気!?

胡桃 だって嬉しいじゃん。琴音ちゃんがいる。玲亜ちゃんがいる。3人で華紅弥様の為に命をかける。私、2人の事、大好きだからね!

ちよつと、今そーゆー事言うの無し……ギョってしたくなるでしょ……!

それはまあ、この人達をやっつけてからって事で。

向こうは殺す気で来るの!こっちは殺しちやいけないうってズルくない?

アイドルが人殺しちやマズイでしょ?

胡桃 琴音 そっか……。じゃあ殺しはしないけど。正気に戻ったら私達のグッズ買いなさいよね!!

琴音、胡桃、玲亜と民の殺陣。少し刀を交えてすぐにストップ。照明切り換え。後方のみ明かり。

神威、銀狼丸の2人を先頭に竜斬丸、那由他、水鏡、不知火が入って来る。

神威 この先に輪廻がいるな。

銀狼丸 こんなに離れているにもかかわらず殺気が感じられるとは……。

神威 まさしく人外という事か。……銀狼丸。

銀狼丸 はい。

神威 すっかり正気に戻ったようだな。

銀狼丸 はい。それが良いのか悪いのか……。

神威 良いに決まってるだろ。あんな操り人形状態のままでは生き残れるはずないからな。

神威、刀を抜く。それに続く銀狼丸。

神威 行くぞ。

神威、銀狼丸、水鏡、不知火、上手後方にはける。那由他也去ろうとするが、腕をつかみ止め

る竜斬丸。

竜斬丸 那由他殿。

那由他 どうされました？傷が痛みますか？

竜斬丸 いえ大丈夫です。それより……。

那由他 はい。

竜斬丸 那由他殿もお持ちではないですか？銀狼丸が飲んだ薬を。

那由他 え？

竜斬丸 人の力を超えるというのは知識を求める者なら誰もが研究するもの。那由他殿も同じような効力を持つ薬をお持ちのはず。

那由他 それは……。

竜斬丸 俺にくれませんか。

那由他 竜斬丸様……！

竜斬丸 お願いです。その薬を俺に。

那由他 無理です。人の力を超えるという事は体に相当の負担があるのです。その傷で耐えられるわけがありません。

竜斬丸 お持ちなのですね？

那由他 ……持ってはいます。ですが……！

竜斬丸　お願いです。時間がありません。

那由他　私に人殺しになれと仰るのですか！？

竜斬丸　業を背負わせてしまうかもしれない事、申し訳なく思います。ですが、大君の為に命をかける喜び、逆に大君の役に立てない憤り。那由他殿ならご理解いただけるのではありませんか？

那由他　…それは、痛い程。

竜斬丸　どうかお願いします。力を貸して下さい。俺は華紅弥様が戻られるまで輪廻様を足止めしなければなりません…！

那由他　分かりました。私も覚悟を決め、業を背負いましょう。

那由他、薬瓶を取り出し、竜斬丸に渡す。

竜斬丸　ありがとうございます…！

竜斬丸、薬瓶を手にして一気に飲む。上手後方へ去る。照明切り換え。

再び琴音、胡桃、玲亜の殺陣。1秒程度。民は次々と上手、下手へはけていく。最終的には3人が揃って決める。

琴音 玲亜、何か言ってあげな。

玲亜 アイドルなめんなよ……

胡桃 早く、華紅弥様の所に……

琴音、胡桃、玲亜、下手へ去る。照明切り換え。緋巫佳、下手後方から入って来て下手階段を
使つて下へ。

センターまで移動したら華紅弥が下手後方から入って来る。

華紅弥 緋巫佳……

緋巫佳、立ち止まり、華紅弥の方を振り返る。

緋巫佳 しつこい方ですね。人外になった者を戻す方法などないと言ったはずですが。

華紅弥 少し前の私ならその言葉を鵜呑みにしていた事だろう。だが私は変わった。いや、変わった。
緋巫佳の目を見ればお前が嘘をついている事が分かる。

緋巫佳 目を見たら何が分かると言っているのです。

華紅弥 怒りと憎しみに満ち溢れている瞳の奥深い所でもう一つ隠している感情があるはずだ。

緋巫佳 隠している感情？

華紅弥 可能性に対する期待。

緋巫佳 抽象的すぎて良く分かりませんね。

華紅弥 言葉通りだ。緋巫佳は心の中ではいろんな可能性に期待しているはず。例えば……。

緋巫佳 くだらない。聞きたくありません。

華紅弥 例えば復讐を止めてくれる人が現れる可能性。

緋巫佳 聞きたくないと言っているんです。

華紅弥 例えば心の底から笑える日が来るかもしれない可能性。

緋巫佳 黙れ……。

華紅弥 清浄の民でも受け入れてもらえる日が来るかもしれない可能性。

緋巫佳 黙れ。

華紅弥 そんな可能性に期待しているお前が何の解決策もない復讐を選ぶわけがない……

緋巫佳 黙れ……あなたに何が分かる。幼い頃から両親に復讐を義務づけられ、清浄の民として差別を受けてきた私の何が分かる……可能性を奪ってきたのは黒き髪の者だろう……

華紅弥 確かに緋巫佳の言う通り清浄の民を迫害し、差別してきたのは私のような考えの足りない

者だ。他人の評価を恐れ、自分よりも下の者を作り出す事で心の安住を得ようとする弱い者達だ。

緋巫佳 それが分かっているならこれまでの罪を認め自らの命で償え……それでこそ我々の恨みは晴

らされる……

華紅弥 それで亡くなっていった者達の魂は浄化される事だろう。しかしそれでは緋巫佳が救われ
ない。

緋巫佳 ……え？

華紅弥 この大陸の正当なる大君の末裔よ。数百年にわたり不当な差別を受け、苦しい思いをさせて
しまった事、お詫び申し上げる。許してくれとは言わない。ただ清浄の民の怒りは私一人に
向けて欲しい。そして見て欲しい。これから私が清浄の民の為にする事を。私は必ず差別を
無くし、すべての民が笑って暮らせる世を作る。

緋巫佳 そんなものは陽炎の大君を助けたい一心から出た言葉では…？

華紅弥 勿論輪廻は助けない。だがそれだけではない。もう二度とこのような事が起こらないように
する為にも……緋巫佳が救われる為にも必要な事だ。

緋巫佳 私を救う？狭き世界に生き、一人では何も出来ないあなたに何が出来るというのです…！

華紅弥 緋巫佳。一人で出来る事などが知れている。私はこの数か月でそれを学んだ。何か大き
なことを成すには多くの仲間と協力する事が大切なんだ。誰かと何かを一緒にするとい
うのは楽しいぞ。私は緋巫佳にもその楽しさを味わってもらいたい。

緋巫佳 何を…。

琴音、胡桃、玲亜が入って来る。

琴音 そのお話、私達に任せてくれませんか。
華紅弥 琴音。

3人に対し警戒を強める緋巫佳。

玲亜 安心して下さい。話を聞いてほしいだけです。……華紅弥様。私達にも協力させてください。きっと私達だから出来る事がありますから。私、この髪のままアイドル続けます。誰に何を言われても大丈夫。琴音と胡桃がいてくれれば頑張れます。そして、いつか必ず皆に私の事を認めてもらいます。

緋巫佳 愚かな。人はそんなに優しくありませんよ。

玲亜 分かっています。だから覚悟を決めてずっと続けるんです。諦めず、ずっと続けるんです。

緋巫佳 あなたはまだ多くの人から清浄の民として迫害された事がないから前を向けるのです。

玲亜 でも少なくとも私には2人がいます。清浄の民としてではなく、一人の人間として見てくれる2人がいます。

緋巫佳 この2人があなたを裏切るとは思わないのですか？

胡桃 否定的な可能性より前向きな可能性を見ませんか。少なくとも緋巫佳様を受け入れてくれる人がいるのは確かですよね？

緋巫佳 それは……。

胡桃

私達が全ての民の架け橋になります。私も琴音ちゃんも玲亜ちゃんも、一生ずっと一緒にいてみせます。大陸を全部回って、他の大陸にも行って、いろんな事があるだろうけど、でもずっと一緒にいてみせます。

緋巫佳

口では何とでも言えるでしょう。先の事など誰にも分からないのだから。

胡桃

はい。ですから緋巫佳様も一緒に行きましょう。

緋巫佳

……え？

胡桃

信じられないと言うなら見届けてください。

琴音

絶対に崩れない関係があるって事を教えてあげる。

玲亜

だから行きましょう。

胡桃

ただし緋巫佳様もずっと一緒にいて下さいね。

緋巫佳

……私に共に来いと？

胡桃

はい。まだ試してもいない事を否定するのはズルいと思いませんか？

緋巫佳

清浄の民が増えればそれだけ問題も多くなりますよ？

胡桃

大丈夫です。問題なんて慣れっことです。毎日素直じゃない2人の意地の張り合いを仲裁して

るんで。

琴音

ちよつとそれどついついっ事……

玲亜

私は素直です……

胡桃

騒々しい日が続きますけどすぐに慣れますから。ですから一緒に行きましょう。一緒に、皆

が笑って暮らせる差別のない世界を作りましょう！

胡桃、手を差し出す。琴音、玲亜も続く。

困惑する緋巫佳。3人を見る。優しく微笑む胡桃、琴音、玲亜。

緋巫佳

……その言葉、信じた。あなた達から伝わってくるあたかさを信じてみたい。でも……怖いのです。人を信じた後、裏切られるのが怖い。手に入れたものを失ってしまうのがたまらなく怖い。……怖いのです。

胡桃

2度3度なんて言いません。この1度だけ、勇気を出して下さい。

玲亜

緋巫佳様、行きましょう。

琴音

私達を信じてくれと言ってるわけじゃなくて、1回くらい可能性にかけてくれて言ってるの。信用なんて追々でいいんだから。

緋巫佳、動けない。琴音、緋巫佳の手を取る。驚いて手を引っ込めてしまう緋巫佳。琴音、緋巫佳の目を見た後、ゆっくり緋巫佳の手を取り自分達の手の上に乗せる。

緋巫佳

可能性にかける……か。この大陸に帰ってきた時から思っていたのです。時代は変わっているのだ。ひと世代前では清浄の民が大君に謁見し直接話をする事など考えられない事でした。

た。でも……華紅弥様も神威様も輪廻様も、この赤い髪を気にせず声をかけて下さった。内心
どれだけ嬉しかったか。

玲亜

緋巫佳様。

緋巫佳

それでも！……嬉しくとも許せないのです。黒き髪の者が。何世代にも渡る憎しみの連鎖
が私の体を支配し復讐へと駆り立てるのです。私はこれまで自分の人生を歩んだ事がなかつ
た……。

琴音

……私達の手、あつたかいでしょ？

胡桃

このぬくもりは緋巫佳様のものです。緋巫佳様だけのものです。

緋巫佳、重ねている手を見た後、華紅弥を見る。

華紅弥

どうした？

緋巫佳

華紅弥様は強い方なのです。手に入れたものを失うかもしれないのに、私を救う事まで考
えられる。

華紅弥

輪廻もきつと同じ事をしただろうからな。

緋巫佳、ゆっくり手を離し、華紅弥に向き合う。

緋巫佳 ……一つだけ……。一つだけ、輪廻様を戻す方法があります。

華紅弥 教えてくれるのか！？

緋巫佳 しかし、その前に華紅弥様は残酷な選択をしなければなりません。覚悟はありますか？

華紅弥 軽はずみに「どんな事でも受け入れる」と言える感じではないな。……だが逃げるわけにもいくまい。……教えてくれ。

緋巫佳 方法は単純です。黄泉の剣を、今度は背中から貫けば良いだけです。

華紅弥 背中から貫く……。それで？

緋巫佳 剣の力は強大です。一度体内に入ってしまった力を消費させるには長い眠りにつく必要があります。

華紅弥 その間、輪廻と話が出来ないという事か。確かにつらいな。だがあいつが死ぬよりはマシか……。それで、どのくらいの間、眠ったままなんだ？

緋巫佳 少なくとも千年。

華紅弥 ……千年？

緋巫佳 輪廻様を止めた瞬間、華紅弥様はもう、二度とお話をする事ができません。

玲亜 そんな…！

琴音 華紅弥様。

華紅弥 ……千年か……。流石にそこまで長生きする自信はないな……。

緋巫佳 何より不可能なのは肝心の黄泉の剣を輪廻様が持っているという事です。それを奪い、背中

を取り、貰く。

胡桃 奇跡でも起こらない限り無理ですよ。

緋巫佳 奇跡は起こらないからこそ奇跡なのです。奇跡は人間が見る儂い夢であり、夢は決して現実にはなりません。

華紅弥、目を閉じ、考える。やがて目を開け緋巫佳を見る。

華紅弥 だが緋巫佳も勇気を出し希望が出来た。例え結果がどうであれ、挑みさえすれば可能性は

ゼロではない。

緋巫佳 しかし、仮に成功したとしても……

華紅弥 すまない。……あまり言わないでくれ。絶対的な決意を持って挑むわけじゃないんだ。……お前達。

3人 はい。

華紅弥 今日、今を以て月華直属の任を解く。これからは好きな所へ行き、ライブをしる。そして、全ての民が笑える世界を作る為に力を貸してくれ。

3人、華紅弥に抱き付き、華紅弥の名前を呼ぶ。

華紅弥、3人の頭を撫でてやる。

華紅弥 つらい事も多いだろうが、頑張ってくれ。私も頑張る。

3人 はい。

華紅弥 たまには月華にも遊びに来るんだぞ?……緋巫佳。

緋巫佳 はい。

華紅弥 三人の事、よろしく頼む。

緋巫佳 ……かしこまりました。

華紅弥 まずは安全な場所まで避難しろ。場合によってはこの大陸から出るんだ。

琴音 華紅弥様、私達も……いえ何でもありません。

華紅弥 私は私のすべき事をする。お前達は、

琴音 私達のすべき事をします…

華紅弥 ……琴音、胡桃、玲亜。お前達の事は娘のように、妹のように、友達のように思っ

ていた。お前達の大君でいれた事、誇りに思う。……元気でな。

胡桃 華紅弥様もお元気で…絶対無理しちゃダメですよ?

華紅弥 分かった。

玲亜 今度月華でライブやる時は、ドーンと派手にやりますから…

華紅弥 楽しみにしているぞ。

琴音 私達、少しは恩返し出来たでしょうか?

華紅弥 充分だ。たくさんもらった。

華紅弥、少し下手へ移動。四人は上手へ。

華紅弥 走って行くんだ。振り返らず。

琴音、胡桃、玲亜、緋巫佳、顔を見合わせ、走って上手へ去る。

華紅弥、見返った後、下を向く。

華紅弥 千年か……。

華紅弥、前を向く。

華紅弥 それでも行かなくてはならない。全てを終わらせに。

華紅弥、下手へ走り去る。照明切り換え。

輪廻、下手後方から入って階段を降りる。すぐに神威が下手後方から入って来て、そのまま上手後方まで移動。水鏡、不知火も下手後方から入って来る。

神威 輪廻^三

輪廻、センターで止まる。銀狼丸、下手から入ってくる。神威、階段を降りながら、

神威 すまない……。こんなことになってしまったのも俺の責任だ。

銀狼丸 お一人で責任を感じる事はありません。俺にも少し分けてください。

神威 銀狼丸。

銀狼丸 今ならアイツが言った事、分かる気がします。守りたい人を守る為に負けるわけにはいかない。

神威 輪廻……悪いがしばらく付き合ってもらおうぞ^三

神威、銀狼丸、輪廻の殺陣。15秒程。最終的に神威は上手へ銀狼丸は下手へ飛ばされる。

那由他、下手後方から、竜斬丸、下手から入って来る。竜斬丸、手を貸して銀狼丸を起こす。神威も立ち上がる。

竜斬丸 だらしなないぞ。もつと根性見せろ。

銀狼丸 竜斬丸、お前……。

竜斬丸 己の力にこだわってる場合ではなさそうだからな。

銀狼丸 耐えられるのか、その傷で

竜斬丸 ああ。

竜斬丸、輪廻の方へ移動しながら、

竜斬丸 輪廻様……。おつしゃいましたよね。陽炎の害になると判断したなら俺ですら排除しろと。その約束、果たさせて頂きます。

竜斬丸、輪廻へ斬りかかる。神威、竜斬丸、銀狼丸、輪廻の殺陣。

紙威、銀狼丸は刀を交えた場合飛ばされるが、竜斬丸は罅迫り合いで耐える事が可能。

竜斬丸 俺としては刀を抜く事さえ出来ない輪廻様の方が好きですけどね。

数回刀を交差した後すぐに再度罅迫り合い。

竜斬丸 輪廻様……。俺の声は届きませんか？……。輪廻様

輪廻、一瞬動きが止まった後、竜斬丸を飛ばす。すぐに立ち上がるうとする竜斬丸。

神威　もうよせ竜斬丸^三これ以上はお前の体がもたん^二

竜斬丸　大丈夫です。それより今俺の呼びかけに輪廻様が一瞬反応しました。

神威　何^三

竜斬丸　もしかしたら少しは意識があるのかもしれない。

神威　輪廻^三聞^二こえるか輪廻^二

銀狼丸　輪廻様^三

神威、銀狼丸、輪廻に近付きながら声をかける。が輪廻の攻撃を受け2人とも下手に飛ばされる。

竜斬丸、立ち上がる。

竜斬丸　俺が知ってる陽炎の大君は女っつらしい加減でやらんぼらんな人です。およそ大君と

は呼べない方ですよ。でも、誰よりも人を大切にする方です。どんな相手だろうと真っ直ぐに目を見てくださる方です。……そうですね？それが陽炎の大君、輪廻様ですよね^三

輪廻、少し意識を取り戻したような表情を浮かべるが、すぐに竜斬丸を攻撃。一瞬耐えるが

上手に飛ばされる竜斬丸。倒れず踏み止まる。

銀狼丸
竜斬丸

竜斬丸 影星の大君……協力をお願いしたい。銀狼丸も。

神威 どうする？

竜斬丸 もっと近くから呼びかけたいのです。スキを作って頂ければ。

銀狼丸 それは危険だ

竜斬丸 俺は輪廻様を信じる。

神威、銀狼丸、輪廻に向かって行く。飛ばせられないように踏ん張るが、堪えきれずに飛ばされる。

その間、竜斬丸が輪廻に近づく。

竜斬丸
輪廻様

竜斬丸、呼びかけと同時に刀を離し両手を広げる。輪廻、振り向きざま竜斬丸を斬る。輪廻動きが止まる。華紅弥下手後方から走って入ってくる。

輪廻

……竜斬丸？

竜斬丸、輪廻の刀を持つ手をつかみ、

竜斬丸 それでこそ我が大君です。

華紅弥 竜斬丸^三

竜斬丸 良かった……間に会ったのですね。

華紅弥、階段を降りる。

竜斬丸 方法は……？

華紅弥 黄泉の剣を私に。

竜斬丸、輪廻から黄泉の剣を受ける。

竜斬丸 輪廻様。俺やはり里を出て正解でした。短い時間ではありましたが、里にいた頃よりも何倍

も……楽しい日々を送る事が出来ました。

輪廻

竜斬丸。

竜斬丸 この時の為に里での修行があつたのだとしたら、あの日々も決して無駄ではなかったと思います。

輪廻 お前の強さに俺は救われたんだな。

竜斬丸 ……ありがとうございます。

竜斬丸、ゆつくり輪廻とすれ違い華紅弥に黄泉の剣を渡す。

竜斬丸 後は頼みました。

華紅弥 任せる。だからお前は…安心してゆつくり休め。

竜斬丸 はい。

竜斬丸、華紅弥とすれ違い、銀狼丸の方へ。

竜斬丸 少し、つきあってくれないか。

銀狼丸 どうした？

竜斬丸 最後にもう一勝負しよう。

銀狼丸 分かった。……今度は負けん。

銀狼丸、竜斬丸に肩をかしながら下手へ去る。

輪廻、ゆっくり振り返り華紅弥を見る。人外の力が出ようとしているのか頭を押さえ苦しむ輪廻。竜斬丸の剣を拾う。華紅弥、じっと輪廻を見ている。意識が戻った輪廻も華紅弥を見る。

華紅弥　……神威、こは私一人に任せてくれないか。

神威　無茶だ。今のあいつを一人でどうにか出来るわけないだろう。

華紅弥　頼む。

神威　華紅弥。

華紅弥、振り返り神威を見て、

華紅弥　……頼む。

神威　……分かった。

神威、階段を昇る。再び輪廻と向かい合う華紅弥。

輪廻　……やれやれ。万事丸く治まるって顔じゃないな。

華紅弥 輪廻の中から人外の力を消す方法はある。

輪廻 どうするんだ？

華紅弥 この剣を……今度は背中から貫く。

輪廻 なるほどね。それで俺は、

華紅弥 死にはしない。ただ……。

輪廻 ただ？

華紅弥 ……千年の眠りにつく事になる。

輪廻 千年？……そつか……。……そつか……。

華紅弥 輪廻……、

輪廻 その役目。華紅弥がやってくれるんだな？

華紅弥、何も答えられず下を向いてしまふ。

華紅弥 ……これだから嫌だったんだ。大切な人を失う痛みや辛さは親を亡くした時に充分味わったから……。もう二度とあんな思いはしたくなかった。だから私は一人で強くなるうと思っ

たんだ。それなのに……。お前なんか惚れなければ良かった……。。

輪廻 そう言うなよ。俺は嬉しかったけどな。例え一瞬でも華紅弥と気持ちが通じ合えて幸せだった。

華紅弥 私も幸せだった！……でも……これからは？こんな幸せを知ってしまった後で私はどう生きればいい？

輪廻 華紅弥……

華紅弥 ……弱くなつてしまったんだ、お前のせいだ。私は弱くなつてしまった。食事してる時も、どこかへ出掛ける時も、隣に輪廻が居たらどんなに楽しいだろうって思ってた……。一人で何かをするよりも、輪廻と一緒にいたらって、いつも思つてしまふんだ。

輪廻 それは弱さじゃないよ。人が人を想う大切な心だ。……ただ俺たちは大君だから、ひとりの人間として生きる事は許されない。分かるだろ？

華紅弥 分かる。……分かるが！

輪廻 大丈夫。俺も同じだ。俺も、何をしてても華紅弥と一緒にいいなつて思ってた。

華紅弥 ……そっか。

華紅弥、その言葉に気持ちが通じていた喜びを感じ、覚悟をし始める。

華紅弥 私が戦をしかける事、良く分かったな。

輪廻 当然だろ。

華紅弥 ……そっだな。当然だな。……お前ポロボロじゃないか。

輪廻 頑張つたら？ホメてくれ。

華紅弥 ああ……ホメてやる。

輪廻、人外の力が出そうになり頭を押さえる。再び華紅弥の方を見る輪廻。

輪廻 竜斬丸が作ってくれた時間だ……。とはいえあまり持ちそうにない。

輪廻、刀を構えて華紅弥の方へ。輪廻、かなり動きをおさえている。華紅弥、剣で受けるが、ヨロヨロと力なく飛ばされてしまう。二回程それを繰り返す。

輪廻 華紅弥……。華紅弥……。頼むよ。

華紅弥、輪廻の目を見る。輪廻、動きをおさえられず一気に華紅弥に斬りかかる。避ける華紅弥。その瞬間、輪廻の背中を取る。

華紅弥、黄泉の剣を振り上げるが輪廻の背中をジツと見た後、ゆっくり降ろす。華紅弥、左手を輪廻の左肩におく。

華紅弥 どうして……。どうして何も言ってくれないんだ？

輪廻 ……すまない。

華紅弥 違う。謝つて欲しいわけじゃない。

輪廻 そうだな。謝るのは違うよな。……華紅弥。

華紅弥 何だ？

輪廻 約束してくれないか。ずっと待ってるって。俺が目覚めますまで何度でも生まれ変わり、もう一度俺に出会うまでずっと待ってるって。

華紅弥 輪廻の方が心配だ。お前は約束守れるのか？

輪廻 この約束だけは絶対に守る。

華紅弥 わかった。約束する。……輪廻が目覚めますまで、私は何度だって生まれ変わる。もう一度出会えるまでずっと待っている。

輪廻 約束だな。

華紅弥 約束だ。……輪廻。

輪廻 ん？

華紅弥 私はもう一人で強くなろうなんて思わない。私は弱くても、心強い仲間達がいるからな。でもふとした時にお前の事を思い出してしまうだろう。その時は……泣いてもいいか？

輪廻 気が済むまでな。

一瞬、苦しそうな表情をする輪廻。手を離す輪廻。

輪廻 ……華紅弥。

華紅弥 分かった。

華紅弥、剣を輪廻の背中に当てる。

輪廻 またな。

華紅弥 ああ。……また会おう。

華紅弥、剣を輪廻に刺す。輪廻、ゆっくり横に倒れ眠りにつく。華紅弥、座り、輪廻に語りかける。

華紅弥 輪廻、ありがとう。お前が私の為にしてくれた事。私の為に教えてくれた事、一生忘れない。

私はこれから全ての民が笑って暮らせる世界を作る。輪廻が私にくれたもの全てをにかけて必ず作る。それはきつと輪廻が理想とした世界だ。……頑張るから。何度生まれ変わっても頑張るから……今度はお前が私を褒めてくれ。

神威、那由他、水鏡、不知火、階段を降りる。銀狼丸が下手から入ってくる。

華紅弥、神威、銀狼丸を見る。銀狼丸、首を横に振る。神威、華紅弥の近くへ。膝をつき、輪

廻を見る。

神威 華紅弥。黄泉の剣を。

華紅弥 (渡しながら) どうするんだ？

神威、三つに分解する。

神威 これは二度と人の手に触れていけない物だ。今まで通り各国がそれぞれを持ち、……今度

は地中にでも埋めてしまおう。勾玉は後日俺が修羅に渡しておく。

華紅弥 分かった。

神威、刃の部分を那由他へ渡す。那由他、着ている服の一枚で刃の部分を包み持つ。

神威 三国統一など俺にはまだ早い夢だった。全ての民が笑って暮らせる世界を作るには、三国が

もつと足並み揃えなくては実現しない。

華紅弥 輪廻も乗った話なんだ。三国統一の夢、諦める事は許さんからな。

神威 大丈夫だ。そんな気は毛頭ない。ただ、今は時期ではないというだけだ。

華紅弥 大君を失った陽炎の事もある。

神威 当面は影星と月華で助けて行くしかあるまい。

華紅弥 全ては地固めが終わってから、という事か。

神威 ああ。

銀狼丸 神威様。……俺にも手伝わせて下さい。

神威 里へは戻らなくていいのか？

銀狼丸 俺は一生神威様について行きます。絶対に裏切らない、信用出来る者が一人は必要では？

神威 (うなづいた後) お前の人生、俺が預かる。……後悔はさせん。

銀狼丸 はい。

那由他 華紅弥様。我々も一からやり直しですね。

華紅弥 そうだな。……那由他、これからも力を貸してくれるか？

那由他 勿論です。

水鏡 不知火。

不知火 はい。

水鏡 アンタと私は今日限りで道化を辞めるよ。

不知火 え？

水鏡 私達は全大陸を回ってこの物語を語り部になる。もう二度とこんな事を繰り返さない為に

もね。

不知火 ……分かりました。

水鏡 安心しな。アンタの罪の半分は私が背負ってやる。だから一生懸命償うんだよ。

不知火 はい。

神威 水鏡、お前それでいいの？

水鏡 いいんですよ。道化でも語り部でもそこにお客様がいてさえくれれば私は生きていけるんで。

神威 たまには城に顔を出すんだぞ。

水鏡 はい。

華紅弥、立ち上がり、それに合わせて神威も立つ。

華紅弥 神威。

神威 何だ。

華紅弥 協力してくれないか。この辺りに大きな屋根を作りたい。そして今後はここで交友会を開こう。輪廻が寂しくないように。

神威 何お前、輪廻をこのままにするつもりか？

華紅弥 その方が早く起きるかもしれん。早速明日から工事を始めよう。

神威 ……まったく、お前というやつは。……よし！そうと決まれば行動するのみだ。行こう。

やる事は山積みだからな。俺たちはまだまだ成長しなくてはならない。

神威の言葉に那由他、銀狼丸、水鏡、不知火下手へ去る。
神威、華紅弥、下手まで移動。2人振り返り輪廻を見る。
神威、華紅弥の背中を見て先に下手へ去る。

華紅弥 輪廻……待つてるからな。

華紅弥、下手へ去る。輪廻のみに明かり。カチコチという時計の音。その音がやがて超スピードで流れる。音が止まった瞬間明かり。
華紅弥、少し衣装を変えて下手後方から入って来る。衣装は現代風な感じ。華紅弥、階段を降りて輪廻の近くへ。輪廻を見て腕を掴み何かを考えているよう。輪廻の周りを一周して再び立ち止まり考える。那由他、下手後方から入って来る。

那由他 ここにいらしたのですね。探しましたよ。

華紅弥 ああ、すまない。

那由他 すまないじゃありません。もうすぐ交友会が始まるのですよ。

華紅弥 ここでやるんだ、早く着いている分には問題ないだろう。

那由他 問題です。何ですかその格好は。もっと統一大君らしい服装を着て下さいといつも言ってるじゃないですか。

華紅弥 そーゆー堅苦しい事言うな。自由つてのが私の信念だ。

那由他 素晴らしいお考えだとは思いますが、もっと節度を守って頂かないと威厳というものが……
って聞いてます？

華紅弥 なあ。

那由他 はい？

華紅弥 こいつって本当に眠ってるのか？

那由他 と、いう事らしいですけどね。伝承通りであれば。

華紅弥 どうかで見た事ある気がするんだが……。

那由他 それは……三か月前にも見えますからね。

華紅弥 そうではない。もっと前からだ。もっとずーっと前から私はこいつに会った事がある気がする。……何か凄くなつかしい。

那由他 なつかしい……。

華紅弥 殴ったら起きるんじゃないか？

那由他 おやめください。永眠させるつもりですか。

全員の話し声が袖から聞こえる。たくさん笑い声。

那由他 あ、皆さん到着したようですね。

全員が会話をしながら笑いながら入ってくる。全員衣装が少し現代風になっている。一幕の時と同じ位置に立つ。臆は影星の空いているスペースに、緋巫佳は月華の空いているスペースに立つ。弥勒、マイクでしゃべりながら入ってくる。

弥勒

さあ、今回も始まりました交友会盛り上がってまいりましょう。

霞

皆様よろしくお願ひします。

全員拍手。盛り上がる。神威、影星の国民に。

神威

いい？今回は絶対に負けられないわよ必ず優勝するんだから。

影星の国民「おー」とかけ声。

緋巫佳

いいえ、優勝するのは我々です。皆、力を合わせて頑張りましょう。

月華の国民「おー」と盛り上がる。

修羅

皆さん、今回は連覇がかかっていますとはいえ楽しんでいきましょう。

陽炎の民「はい」と返事。輪廻、ゆっくりと起き上がる。

弥勒

各国気合い充分といった所でしょうか。それでは統一大君より開会のご挨拶を……。

全員、輪廻が起き上がってる事に、徐々にシーンとなる。弥勒、周りが静かになっている事に不安になり自身も黙る。輪廻、弥勒の隣に来ている。驚く弥勒。

輪廻

交友会ってまだやってたのかよ。嬉しいねえ。

全員「わー」と悲鳴を上げる。華紅弥、前へでる。目が合う華紅弥と輪廻。

輪廻

随分待たせちゃったみたいだな。でも約束は守ったろ？

華紅弥

……約束？

輪廻

あーまあそうか。そうだな。分かるわけないか。

華紅弥

お前……。

輪廻

ん？

華紅弥 お前は誰だ？私を知っているのか？何故お前は長い間寝ていた？何故お前はこんなにもなつ

かしいんだ？

輪廻 ……教えるよ。全部。……ゆっくりな。

華紅弥 私は……私はお前に会った事があるのか？

輪廻 あるよって言ったら信じるか？

華紅弥 ……信じる。

輪廻 その真つ直ぐな所は変わらないんだな。

華紅弥 え？

輪廻 何から始めるか……。そうだな、まずは自己紹介にしよう。俺の名前は輪廻。陽炎の輪廻だ。

華紅弥 ……輪廻……陽炎の……輪廻……。

輪廻 教えてくれ。……名前は？

華紅弥 ……私の名前は……

次の台詞は聞こえない。しかし、華紅弥と輪廻は同じ名前を口にしたように動く。驚く華紅弥。全員が幸せそうに笑いあつてる中、幕が降りる。

—
完
—